DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX763

スタートアップガイド

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にスタートアップガイドと取扱説明書、保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

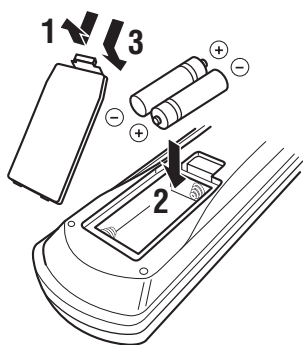
保証書別添付

もくじ

「ⒶSPEAKERS」や「④DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または「取扱説明書」106 ～ 107 ページをご覧ください。

取扱説明書　もくじ

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる

1 リモコンの電池カバーを取りはずす。

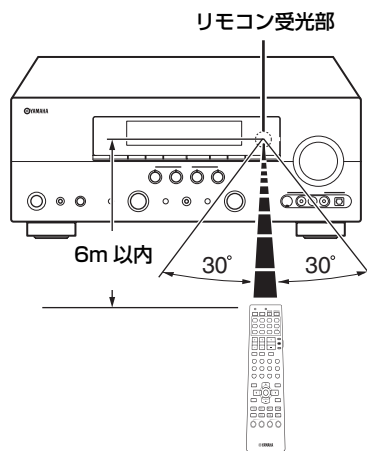
2 付属の単３乾電池（２本）を極性（＋、プラス／－、マイナス）表示にしたがってリモコンの電池ケースに入れる。

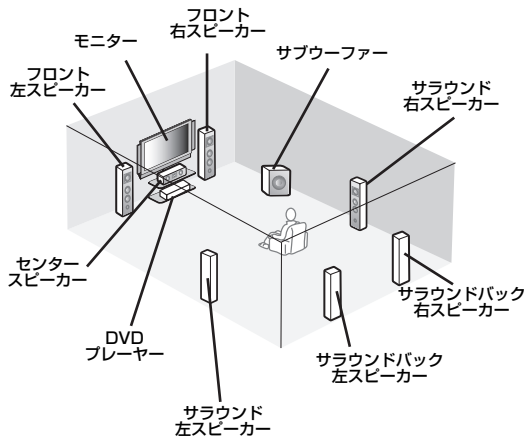
3 電池カバーをリモコンに装着する。

ご注意

- 以下の場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
  - リモコンの操作範囲がせまくなった
  - ⑫TRANSMIT インジケーターが光らない、または光が弱くなった
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れたりすることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものありますのでご注意ください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池を外したまましばらく（２分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定し直してください。

■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。詳しくは「取扱説明書」28 ページをご覧ください。

接続から再生までの手順

DVD を最も簡単に再生する方法を説明します。

ステップ1：
スピーカーを設置・接続する

☞ 5 ページ

ステップ2：
DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する

☞ 6 ページ

ステップ3：
SCENE1 キーを押す

☞ 7 ページ

再生スタート！

接続に必要なものを確認する

下記のものをご用意ください。

- ❏ **スピーカー**
  - ❏ **フロントスピーカー** x2
  - ❏ **センタースピーカー** x1
  - ❏ **サラウンドスピーカー** x4

  スピーカーは防磁型をお使いください。また、少なくとも2本（フロント用）以上のスピーカーをご用意ください。フロント用以外のスピーカーは、以下の順番で優先的にご用意ください。
  1. サラウンドスピーカー（2本）
  2. センタースピーカー（1本）
  3. サラウンドバックスピーカー（1本または2本）
- ❏ **アンプ内蔵サブウーファー** x1

  ピン端子を装備したアンプ内蔵サブウーファーをご用意ください。
- ❏ **スピーカーケーブル** x7
- ❏ **サブウーファー用ピンケーブル** x1

  ピンケーブルをご用意ください。
- ❏ **DVD プレーヤー** x1

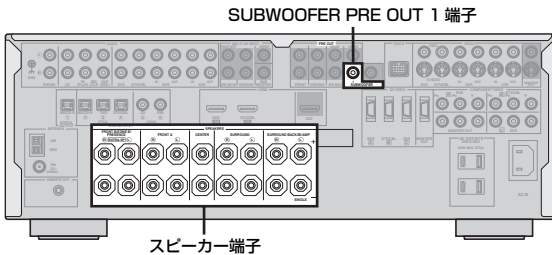
  光デジタル出力端子およびコンポジットビデオ出力端子を装備した DVD プレーヤーをご用意ください。
- ❏ **モニター** x1

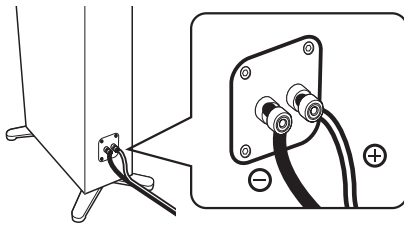
  コンポジットビデオ端子を装備したテレビまたはプロジェクターをご用意ください。
- ❏ **ビデオ用ピンケーブル** x2

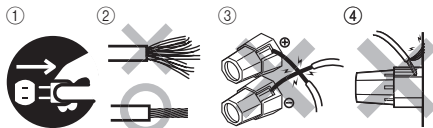
  ピンケーブルをご用意ください。
- ❏ **光ファイバーケーブル** x1
- ❏ **電源コード** x1

本機はサブウーファーを 2 台接続できます。この場合、サブウーファーを 2 台、サブウーファー用ピンケーブルを 2 本ご用意ください。

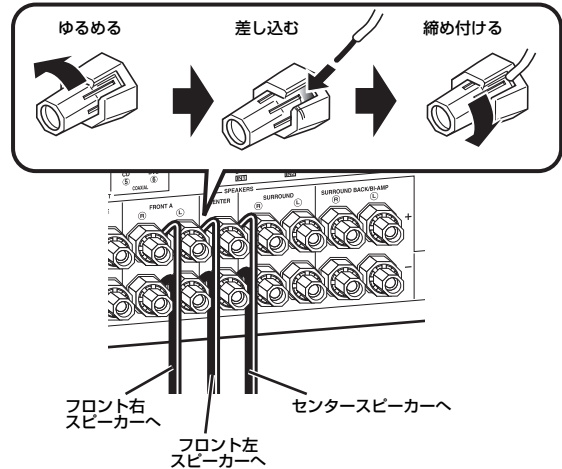
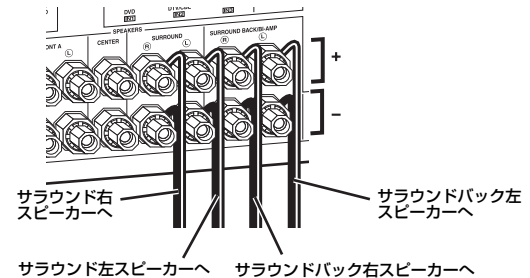
ステップ１：
スピーカーを設置・接続する

スピーカーをお部屋に設置し、本機に接続します。

1 **スピーカーとサブウーファーをお部屋に設置する。**

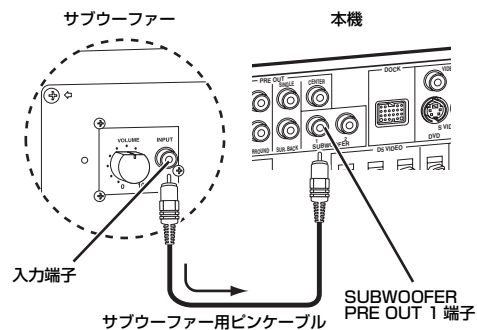
2 **スピーカーケーブルをスピーカーに接続する。**

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「＋」（プラス、赤）、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。一般的にスピーカーケーブルは、平行した２本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「＋」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「－」（マイナス、黒）へ接続してください。

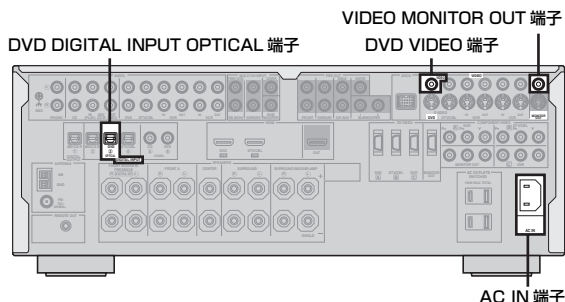
3 **スピーカーケーブルを本機のスピーカー端子に接続する。**

① スピーカーを接続する前に、本機とサブウーファーの電源コードがコンセントに接続されていないことを確認する。
② ショートしないように芯線をしっかりとよじる。
③ スピーカーケーブルの芯線どうしが接触しないようにする。
④ スピーカーケーブルの芯線が本機の金属部に触れないようにする。

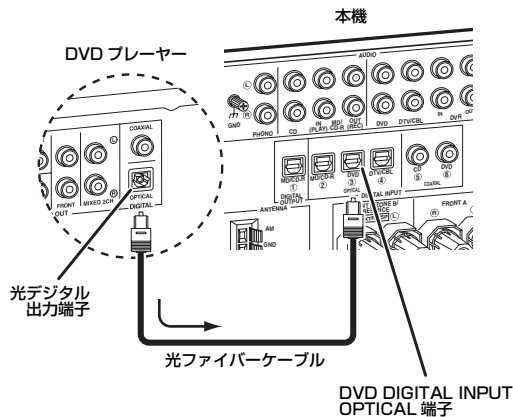
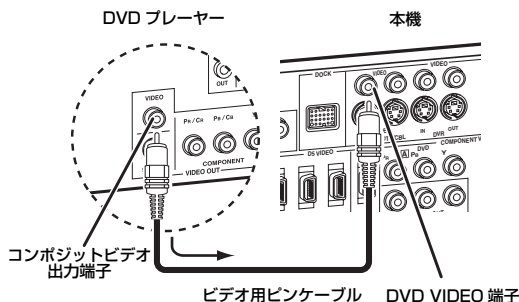
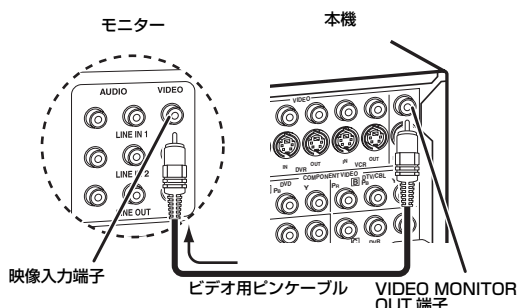
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「＋」（プラス、赤）、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。

フロント／センタースピーカーの接続

サラウンド／サラウンドバックスピーカーの接続

ご注意

後方にスピーカーを２台設置する場合は、SURROUND L ／ R 端子に接続してください。

4 **サブウーファー用ピンケーブルを本機のSUBWOOFER PRE OUT 1 端子、およびサブウーファーの入力端子に接続する。**

SUBWOOFER PRE OUT 2 端子に２台目のサブウーファーを接続できます。両方のサブウーファーからは、同じ音声が出力されます。

ステップ2：
DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する

本機および DVD プレーヤーがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

1 DVD プレーヤーの光デジタル出力端子と本機の DVD DIGITAL INPUT OPTICAL 端子を光ファイバーケーブルで接続する。

2 DVD プレーヤーのコンポジットビデオ出力端子と本機の DVD VIDEO 端子をビデオ用ピンケーブルで接続する。

3 モニターの映像入力端子と本機の VIDEO MONITOR OUT 端子をビデオ用ピンケーブルで接続する。

4 AC IN 端子に電源コードを接続する。

5 本機や他の外部機器の電源プラグをコンセントに接続する。

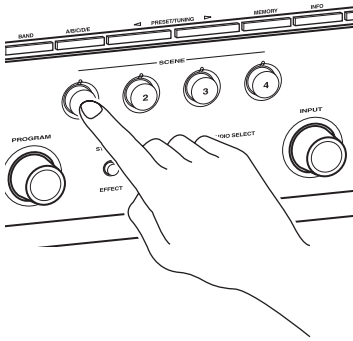
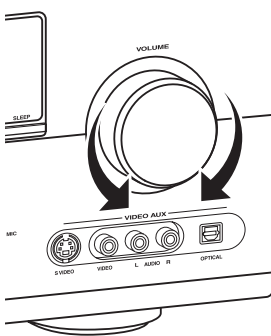
本機は他の外部機器に電源を供給できる AC OUTLETS 端子を装備しています。詳しくは「取扱説明書」26 ページをご覧ください。

■ その他の接続について

- スピーカーシステムについてもっと知りたい ☞「取扱説明書」9 ページ
- ビデオ用ピンケーブル以外のケーブルでモニターを接続したい ☞「取扱説明書」18 ページ
- ビデオ用ピンケーブルや光ファイバーケーブル以外のケーブルで DVD プレーヤーを接続したい ☞「取扱説明書」19 ページ
- DVD レコーダーやビデオデッキを接続したい ☞「取扱説明書」20 ページ
- 衛星放送／ケーブルテレビチューナーを接続したい ☞「取扱説明書」20 ページ
- CD プレーヤーや MD レコーダー、レコードプレーヤーを接続したい ☞「取扱説明書」21 ページ
- 外部パワーアンプを接続したい ☞「取扱説明書」22 ページ
- DVD プレーヤーをアナログマルチチャンネル接続したい ☞「取扱説明書」23 ページ
- ヤマハ製ドック／ Bluetooth アダプターを接続したい ☞「取扱説明書」23 ページ
- REMOTE OUT 端子を使いたい ☞「取扱説明書」24 ページ
- VIDEO AUX 端子を使いたい ☞「取扱説明書」24 ページ
- FM ／ AM アンテナを接続したい ☞「取扱説明書」25 ページ

ステップ3：
SCENE 1 キーを押す

1 本機に接続したモニターの電源をオンにし、入力を本機の映像に切り替える。

2 フロントパネルの ⓇSCENE1 キーを押す。
本機の電源がオンになります。フロントパネルディスプレイに「DVD Movie Viewing」と表示され、DVD の視聴に適したプログラムが呼び出されます。

3 ⒿVOLUME コントロールを回して、音量を調節する。

ご注意

入力ソースや音場プログラムを変更すると SCENE 機能はキャンセルされ、フロントパネル ⓇSCENE キー上部のランプが消灯します。

■ SCENE 機能とは

SCENE キーを押すだけで本機の電源がオンに切り替わり、SCENE キーに記憶された SCENE テンプレートに設定されている入力ソースや再生モードを呼び出す機能です。SCENE テンプレートは、入力ソースと再生モードの組み合わせた雛形のことです。

SCENE コントロール信号の受信機能を持つヤマハ製 DVD プレーヤーを本機の REMOTE OUT 端子に接続してお使いの場合、ⓇSCENE1 キーを押すと自動的に電源がオンになり、再生が始まります。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

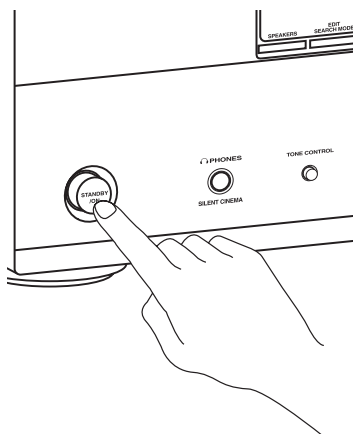
SCENE キーの初期設定	SCENE テンプレート名と内容
SCENE1	DVD Movie Viewing － 入力ソース：DVD － 再生モード：MOVIE Sci-Fi DVD プレーヤーで映画ソフトを見るときに選びます。
SCENE2	Music Disc Listening － 入力ソース：DVD － 再生モード：2ch Stereo DVD プレーヤーで CD を 2 チャンネルで聴くときに選びます。
SCENE3	TV Viewing *1 － 入力ソース：DTV/CBL － 再生モード：Straight テレビを見るときに選びます。
SCENE4	Radio Listening *2, *3, *4 － 入力ソース：TUNER － 再生モード：7ch Enhancer FM/AM 放送を聴くときに選びます。

ご注意

*1 テレビを本機に接続してから操作してください。テレビの接続については「取扱説明書」18 ページをご覧ください。
*2 FM ／ AM アンテナを本機に接続してから操作してください。FM ／ AM アンテナの接続については「取扱説明書」25 ページをご覧ください。
*3 聴きたい放送局を受信してから操作してください。FM ／ AM 放送の受信については「取扱説明書」45 ページをご覧ください。
*4 FM ／ AM 放送をより良好に受信するには、FM アンテナ先端の位置や AM アンテナの向きを調節してください。

お好みに合ったシーンが見つからない場合、本機に保存されている SCENE テンプレートの中からお好みにあったものと入れ替えたり、新しくテンプレートを作成したりすることができます。詳しくは「取扱説明書」29 ページをご覧ください。

■ 使い終わったら

ⓚSTANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする

本機の電源がスタンバイになります。リモコンからの赤外線信号を受信するため、少量の電力を消費します。電源をスタンバイからオンにするには、いずれかの ⓡSCENE キー（または ⑪SCENE キー）を押すか、フロントパネルの ⓚSTANDBY/ON キー（またはリモコンの ⑭POWER キー）を押してください。詳しくは「取扱説明書」26 ページをご覧ください。
また、「STANDBY THROUGH」（「取扱説明書」78 ページ）を「ON」に設定している場合、待機時消費電力をより多く消費しますので、長期間本機を使用しない場合は電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

こんなことをしたいときは

■ SCENE テンプレートを編集したい

- SCENE テンプレートを入れ替える
  ☞「取扱説明書」29 ページ
- 新しい SCENE テンプレートを作成する
  ☞「取扱説明書」32 ページ

■ さまざまな入力ソースを楽しみたい

- 基本的な操作
  ☞「取扱説明書」34 ページ
- FM ／ AM 放送を楽しむ
  ☞「取扱説明書」45 ページ
- 本機で iPod を再生する
  ☞「取扱説明書」49 ページ
- 本機で Bluetooth 機器を再生する
  ☞「取扱説明書」51 ページ

■ さまざまな音声効果を楽しみたい

- 音場プログラムを楽しむ
  ☞「取扱説明書」40 ページ
- ピュアダイレクトモードで高品質音声を楽しむ
  ☞「取扱説明書」44 ページ
- 音場プログラムをカスタマイズする
  ☞「取扱説明書」54 ページ

■ 本機のパラメーターを調節したい

- リスニングルームにあわせてスピーカーのパラメーターを自動的に調節する（AUTO SETUP）
  ☞ 9 ページ
- さまざまなパラメーターを手動で調節する
  ☞「取扱説明書」61 ページ
- リモコンを設定する
  ☞「取扱説明書」81 ページ
- アドバンストセットアップメニューを設定する
  ☞「取扱説明書」83 ページ

■ その他の機能を使いたい

- 本機の電源を自動的にスタンバイにする
  ☞「取扱説明書」39 ページ
- HDMI コントロール機能を使う
  ☞「取扱説明書」53 ページ

最適な視聴空間を自動的に設定する（YPAO）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーからテストトーンを出力し、付属のオプティマイザーマイクで測定します。

AUTO SETUP で設定する

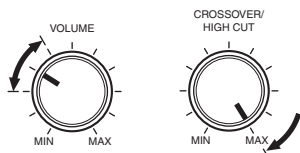
ご注意

- 測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様などがリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- 最適な測定を行うため、測定中はお部屋の環境をできるだけ静かに保つようにしてください。物音などが聞こえると、正確な測定結果が得られない場合があります。

- AUTO SETUP は、モニターに表示されるメニューと、フロントパネルディスプレイに表示されるメニューのどちらでも操作できます。本書では、モニターに表示されるメニューを使って説明します。
- 操作する前に、操作機器選択スイッチ（⑯）が AMP になっていることをご確認ください。
- AUTO SETUP では、FRONT A 端子に接続したスピーカーをフロントチャンネルの測定用として使います。

1 測定環境に問題がないことを確認する。

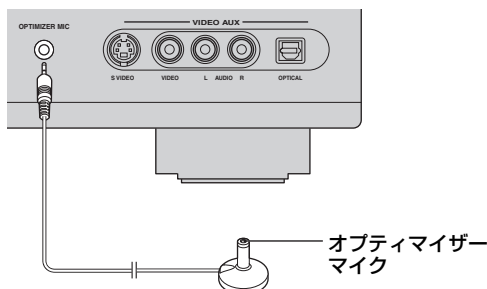
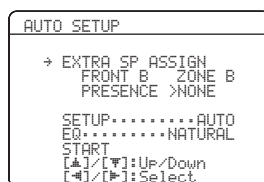
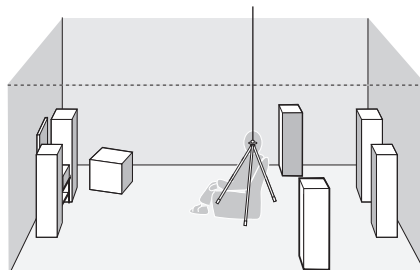
AUTO SETUP の測定を始める前に、以下の項目を必ずご確認ください。

❏ すべてのスピーカー、およびサブウーファーが正しく接続されている
❏ ヘッドホンが取り外されている
❏ モニターが正しく接続されている
❏ 本機とモニターの電源がオンになっている
❏ モニターの映像入力が本機の映像に切り替わっている
❏ サブウーファーの電源がオンで、音量が約半分（または半分よりやや小さめ）に設定されている
❏ サブウーファーのクロスオーバー周波数が最大に設定されている

サブウーファー

❏ リスニングルームや周囲の環境ができるだけ静かに保たれている

サブウーファーを 2 台接続している場合は、それぞれの音量をやや小さめに設定してください。

2 フロントパネルの OPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。

フロントパネルディスプレイに、「MIC ON View OSD menu と表示されます。

モニターに以下の画面が表示されます。

3 オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、ヘッド部を上に向けて耳と同じ高さに置く。

耳と同じ高さに設置するために三脚などを使うことをおすすめします。その場合は、三脚に付属しているネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

4 **⑧◁ / ▷ キーを押して、「EXTRA SP ASSIGN」の設定を選び、⑧▽ キーを押す。**

EXTRA SP 端子に接続したスピーカーの用途設定　EXTRA SP ASSIGN
EXTRA SP 端子に接続したスピーカーの用途を選びます。
選択項目：**FRONT B**、ZONE B、PRESENCE、NONE

- **フロント B スピーカーとして使う場合（「取扱説明書」35 ページ）**
  「FRONT B」を選んでください。
- **他の部屋に設置して使う場合**
  「ZONE B」を選んでください。
- **プレゼンススピーカーとして使う場合（「取扱説明書」11 ページ）**
  「PRESENCE」を選んでください。
- **EXTRA SP 端子にスピーカーを接続していない場合**
  「NONE」を選んでください。

ご注意

「BI-AMP」を「ON」に設定している場合、「PRESENCE」は選べません（「取扱説明書」84 ページ）

5 **⑧◁ / ▷ キーを押して「SETUP」を選び、⑧▽ キーを押す。**

選択項目：**AUTO**、RELOAD、UNDO、DEFAULT

- 「AUTO SETUP」を実施するには、「AUTO」を選んでください。
- 前回実施した AUTO SETUP の設定値に戻すには、「RELOAD」を選んでください。
- 最新の AUTO SETUP の設定値を無効にし、MANUAL SETUP の設定値に戻すときは、「UNDO」を選んでください。
- 工場出荷状態に戻すには、「DEFAULT」を選んでください。

ご注意

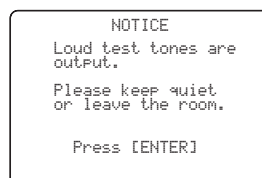
- 「RELOAD」、および「UNDO」は、以前「AUTO SETUP」を実施し、測定した結果を適用したことがある場合にのみ選べます。
- アドバンストセットアップメニュー「BI-AMP」（84 ページ）、または「BASIC MENU」の「EXTRA SP ASSIGN」（「取扱説明書」65 ページ）の設定を変更した場合、「RELOAD」、および「UNDO」は選べません。

6 **⑧◁ / ▷ キーを押して、「EQ」の設定を選ぶ。**

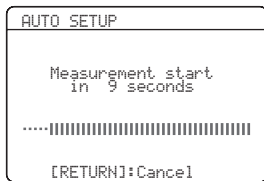
パラメトリックイコライザーの種類　EQ
パラメトリックイコライザーは、特定の周波数帯域のレベルを調節します。本機はリスニングルームに不可欠な周波数帯域を自動的に選び、選んだ周波数帯域のレベルを調整することで一体感のある音場をお部屋に創り出します。以下の中から、パラメトリックイコライザーの補正方法を選んでください。
選択項目：**NATURAL**、FLAT、FRONT

- すべてのスピーカーの音声をより自然な音質で楽しみたい場合は、「NATURAL」を選びます。「FLAT」では高域がきつく聞こえる場合に設定してください。
- 各スピーカーの特性を均一にする場合は、「FLAT」を選びます。すべてのスピーカーの品質が同じ場合に設定してください。
- 各スピーカーの特性をフロント左／右スピーカーにあわせる場合は、「FRONT」を選びます。フロントスピーカーの品質が他のスピーカーよりも大幅に優れている場合に設定してください。

7 **⑧▽ キーを押して「START」を選び、⑧ENTER キーを押す。**
以下の画面がモニターに表示されます。

```
NOTICE
Loud test tones are
output.

Please keep quiet
or leave the room.

Press [ENTER]
```

8 **測定を妨げない位置に移動する。**
より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動したうえ、物音などを立てないようにするか、リスニングルームの外で待機することをおすすめします。
次の手順を操作すると、AUTO SETUP の測定が始まります。

9 **⑧ENTER キーを押す。**

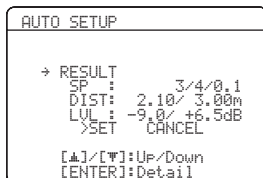
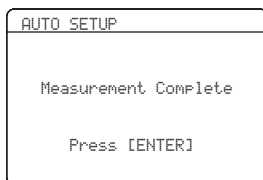
以下の画面がモニターに表示され、約 10 秒後に AUTO SETUP の測定を開始します。

測定中は大きな音量でテストトーンが出力されます。測定が終わると、モニターに「RESULT」（結果）画面が表示されます。

ご注意

- AUTO SETUP の測定中は、本機を操作しないでください。
- 測定中はお部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約 3 分かかります。

AUTO SETUP をキャンセルするには、⑧Δ キーを押してください。

10 **モニターに「Measurement Complete」（測定終了）と表示されていることを確認し、⑧ENTER キーを押す。**

「RESULT」画面が表示されます。

「RESULT」画面に表示される項目は以下の通りです。

スピーカーの数　SP

本機に接続されているスピーカーの数を、以下の順で表示します。
フロント、センター、プレゼンスの合計／
サラウンド、サラウンドバックの合計／
サブウーファー

スピーカーの距離　DIST

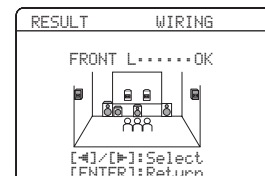
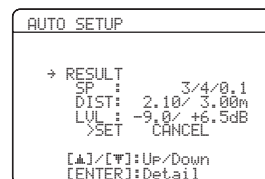
リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。
最も近いスピーカーまでの距離／
最も遠いスピーカーまでの距離

スピーカーの音量　LVL

スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。
最も低い音量レベル／最も高い音量レベル

ご注意

- SUBWOOFER PRE OUT 2 端子に接続したサブウーファーからは、SUBWOOFER PRE OUT 1 端子に接続したサブウーファーと同じ音声が出力されます。サブウーファーを 2 台接続していても、スピーカーの数は「0.1」と表示されます。
- 測定中に「E-10:INTERNAL ERROR」と表示された場合は、手順 4 から操作し直してください。
- 手順 5 で「AUTO」以外を選んだ場合、テストトーンは出力されません。
- AUTO SETUP の実施中に「ERROR」と表示された場合、測定はキャンセルされ、エラー内容が表示されます。詳しくは、「エラーメッセージが表示される場合」（13 ページ）をご覧ください。
- 測定中に問題が発生した場合は、「RESULT」の上に「WARNING」と、警告の数が表示されます（13 ページ）。
- 視聴環境により、測定中に「SWFR PHASE:REV」と表示され、「SOUND MENU」の「SUBWOOFER PHASE」（「取扱説明書」67 ページ）が自動的に「REVERSE」に設定されることがあります。

11 **⑧ENTER キーを押して、結果の詳細を確認する。**

12 **⑧⊲ / ⊳ キーを繰り返し押して、結果の表示内容を切り替える。**

項目を切り替えるには、⑧Δ / ∇ キーを押してください。

スピーカーの結線
(WIRING)

↕

リスニングポジションから
スピーカーの距離補正
(DISTANCE)

↕

スピーカーの大きさ判定
(SIZE)

↕

スピーカーの周波数補正
(EQUALIZING)

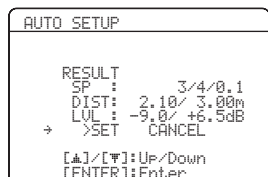
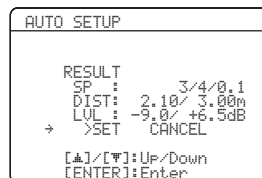
↕

スピーカーの音量調節
(LEVEL)

手動で視聴環境を設定したい場合や、AUTO SETUP での設定値を変更したい場合は、MANUAL SETUP を実施してください（「取扱説明書」61 ページ）。

ご注意

- 「DISTANCE」の測定結果は、お使いのサブウーファーの特性により、実際よりも長い距離が表示される場合があります。
- 「EQUALIZING」の測定結果は、最適な補正をした結果、同じ周波数に異なった設定値が表示されることがあります。
- サブウーファーを 2 台接続している場合、「DISTANCE」、および「LEVEL」は、2 台の測定結果を合成した値が表示されます。

13 **⑧ENTER キーを押して、結果表示の初期画面に戻る。**

14 **「SET」、および「CANCEL」の左側に「→」（矢印）が表示されていることを確認し、⑧⊲ / ⊳ キーを押して「SET」、または「CANCEL」を選ぶ。**

選択項目：**SET**、CANCEL

- AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用する場合は、「SET」を選んでください。
- AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用しない場合は、「CANCEL」を選んでください。

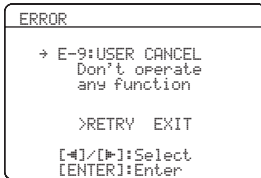
15 **⑧ENTER キーを押して、選んだ項目を決定する。**

以下の画面がモニターに表示されます。オプティマイザーマイクを本機から取り外してください。AUTO SETUP が終了し、画面表示が消えます。オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や AV 機器の上など、高温になる場所には置かないでください。

AUTO SETUP
AUTO SETUP Complete
Disconnect Microphone
PRESS [ENTER]
[MENU]:Exit

スピーカーやスピーカーの位置、スピーカーの数を変更した場合は、AUTO SETUP を再度実施してください。

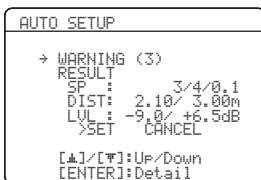
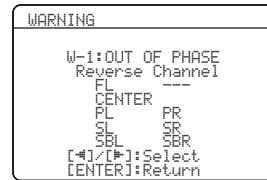
■ エラーメッセージが表示される場合

⑧△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して「RETRY」または「EXIT」を選び、⑧ENTER キーを押す。
下記は「E-9:USER CANCEL」の表示例です。

選択項目：**RETRY**、EXIT
- AUTO SETUP をもう一度実施するには、「RETRY」を選んでください。
- AUTO SETUP を終了する場合は、「EXIT」を選んでください。

「E-5:NOISY」が表示された場合、「PROCEED」も表示されます。「PROCEED」を選ぶと、測定を続行しますが、設定は最適なものではありません。

■ 警告メッセージが表示される場合

測定中に問題が発生した場合は、「WARNING」が結果表示画面に表示されます。警告内容を確認し、問題を解決してください。

1 「WARNING」の左側に「→」（矢印）が表示されていることを確認し、⑧ENTER キーを押して、警告内容の詳細を確認する。
「WARNING」の右側に表示されている数字は、警告内容の数を表します。

2 ⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して、警告画面を切り替える。

- 警告メッセージについて詳しくは、「故障かな？と思ったら」の「AUTO SETUP」編をご覧ください（「取扱説明書」92 ページ）。
- 「－－－」は、警告対象外のスピーカーを表しています。
- 「W-3: LEVEL ERROR」画面に「SWFR: TOO LOUD」、または「SWFR: TOO LOW」が表示される場合は、サブウーファーの音量を調節してください。

3 ⑧ENTER キーを押して、結果表示初期画面に戻る。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409
FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830
FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

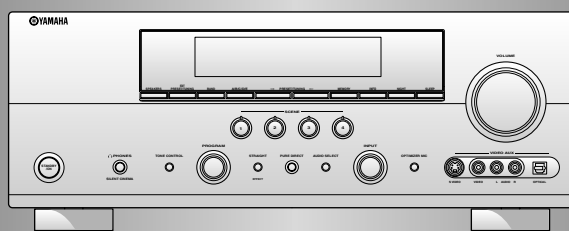
すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX763

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書とスタートアップガイド、保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

(AV-1)

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

もくじ

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他の情報

付録

「Ⓐ**SPEAKERS**」や「④**DVD**」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または 106 ～ 107 ページをご覧ください。

スタートアップガイド　もくじ

本機の特長

高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプ
◆ 定格出力（6Ω、20 Hz ～ 20 kHz、歪率 0.09%）
フロント：95 W + 95 W
センター：95 W
サラウンド：95 W + 95 W
サラウンドバック：95 W + 95 W

SCENE 機能
◆ さまざまな状況に対応する 17 種類の SCENE テンプレート
◆ ４種類の SCENE テンプレート新規作成機能
◆ リモート接続したヤマハ製 DVD プレーヤー／CD プレーヤーのコントロール機能

音場プログラム
◆ ドルビープロロジック／ドルビープロロジック II ／ドルビープロロジック IIx デコーダー
◆ コンプレストミュージック・エンハンサー
◆ バーチャルシネマ DSP
◆ サイレントシネマ

多彩なデコーダー
◆ Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
◆ DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ
◆ Dolby Digital ／ Dolby Digital EX
◆ DTS ／ DTS-ES Matrix 6.1、Discrete 6.1、DTS 96/24
◆ Dolby Pro Logic ／ Dolby Pro Logic II ／ Dolby Pro Logic IIx
◆ AAC

高機能 FM ／ AM チューナー
◆ 40 局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局の編集機能

DOCK 端子
◆ ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）や Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を接続できる、DOCK 端子を装備

HDMI™（High-Definition Multimedia Interface）
◆ フルハイビジョン映像をマルチチャンネルデジタル音声と一緒に楽しめる HDMI（v1.3a、Deep Color、x.v.Color™ 対応）インターフェース（1080p 映像信号の伝送にも対応）
－ 映像と音声のずれ補正機能（リップシンク）
－ ディープカラー映像信号（30 ／ 36bit）対応
－ x.v.Color™ 映像信号対応
－ ハイビジョン映像対応
－ 高品質デジタル音声フォーマット対応
◆ HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）準拠
◆ アナログ映像入力信号を HDMI デジタル映像信号へ変換してモニター出力できるビデオコンバージョン機能（コンポジットビデオ⇔ S ビデオ⇔コンポーネントビデオ→ HDMI）
◆ 本機と HDMI 接続したテレビのリモコンで本機を操作できる、HDMI コントロール機能に対応

その他
◆ 視聴空間自動最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）
◆ 192kHz、24bit の D ／ A コンバーター
◆ 視聴環境に合わせて、各種設定をモニターを見ながら変更できるメニュー画面表示機能
◆ アナログマルチチャンネル入力端子
◆ S ビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオ入出力端子
◆ D5 ビデオ入出力端子
◆ デジタルビデオコンバージョン機能（コンポジットビデオ⇔ S ビデオ⇔コンポーネントビデオ）
◆ 光デジタル（OPTICAL）／同軸デジタル（COAXIAL）音声入出力端子
◆ すべてのソースを高音質で再生できるピュアダイレクトモード
◆ 音量とダイナミックレンジの連動機能（ADAPTIVE DRC）
◆ 音量と DSP 効果レベルの連動機能（ADAPTIVE DSP LEVEL）
◆ iPod 操作機能
◆ コード設定機能付リモコン
◆ バイアンプ接続
◆ スリープタイマー

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

❏ リモコン
❏ 単 3 乾電池（2 本）
❏ オプティマイザーマイク
❏ AM ループアンテナ
❏ FM 簡易アンテナ
❏ 電源コード
❏ スタートアップガイド
❏ 操作パネル図

本書の記載について

本書について

- ・ は知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- フロントパネルキーとリモコンキーのどちらでも操作できる場合があります。フロントパネルキーとリモコンキーの名称が違う場合は、（　）内にリモコンキーの名称を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「ⒶSPEAKERS」や「④DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または 106 ～ 107 ページをご覧ください。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

iPod

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth®

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

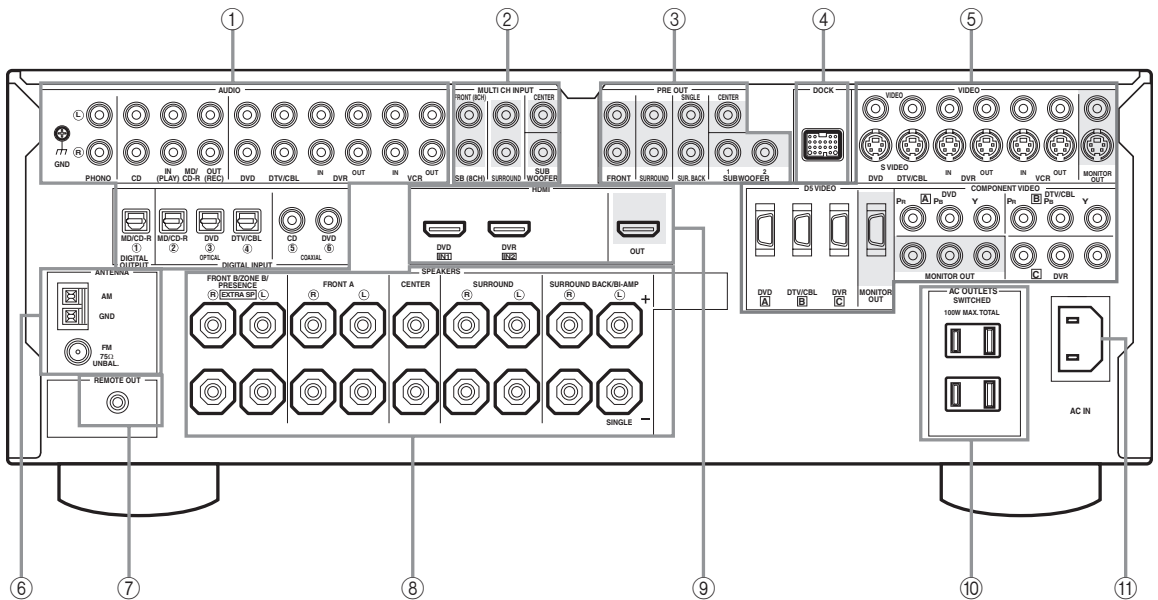
HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

「サイレントシネマ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

接続する

リアパネル（背面）

	名称	参照ページ
①	AUDIO 端子	15
	DIGITAL INPUT ／ OUTPUT 端子	15
②	MULTI CH INPUT 端子	23
③	PRE OUT 端子	22
④	DOCK 端子	23
⑤	映像用端子（VIDEO 端子、S VIDEO 端子）	15
	COMPONENT VIDEO 端子	15
	D5 VIDEO 端子	15
⑥	ANTENNA 端子	25
⑦	REMOTE OUT 端子	24
⑧	SPEAKERS 端子	12
⑨	HDMI 端子	16
⑩	AC OUTLETS	26
⑪	AC IN	26

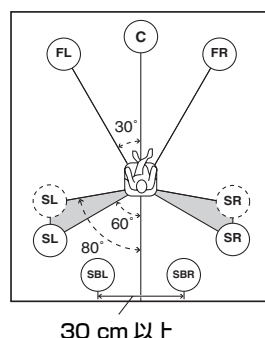
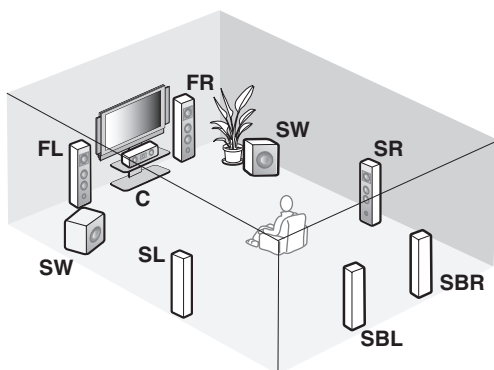
スピーカーを設置する

下図はおすすめのスピーカー配置を表しています。このように設置すれば、CINEMA DSP やマルチチャンネルソースを効果的に楽しめます。

■ 7.1 チャンネル構成の場合

7.1 チャンネルシステムでは、次世代オーディオフォーマット（Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio など）や、音場プログラムの効果を最大に発揮できます。接続について詳しくは、12 ページ をご覧ください。

CINEMA DSP 音場プログラムの効果をさらに楽しむには、プレゼンススピーカーも使用することをおすすめします。詳しくは、11 ページをご覧ください。

30 cm 以上

スピーカー表示

FL ／ **FR**：フロント左／右
C：センター
SL ／ **SR**：サラウンド左／右
SBL ／ **SBR**：サラウンドバック左／右
SW：サブウーファー

フロント左／右スピーカー

フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。リスニングルーム前方に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適当です。

センタースピーカー

会話やボーカルなど、画面中央に定位する音を出力します。フロント左／右スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンド左／右スピーカー

サラウンド音と効果音を出力します。リスニングルーム左右後方に、リスニングポジションに向けて設置します。

サラウンドバック左／右スピーカー

後方の効果音を出力します。リスニングルーム後方に、リスニングポジションに向けて設置します。左右のスピーカーは 30cm 以上間隔を開けて設置してください。フロント左／右スピーカーと同じ間隔が理想的です。

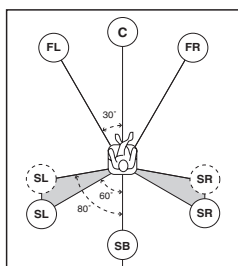
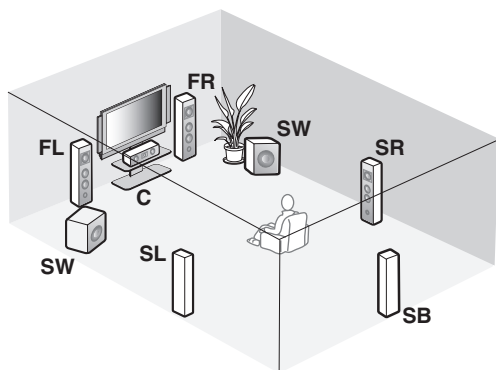
サブウーファー

ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）や、低音を出力します。ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いください。リスニングルーム前方のフロント左／右スピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

本機には 2 台のサブウーファーを接続できます。これにより、より豊かな低音再生が楽しめます。同じ機種をリスニングポジションから等距離に設置し、出力極性を変更できる場合は同じ設定にしてください。SUBWOOFER PRE OUT 2 端子に接続したサブウーファーからは、SUBWOOFER PRE OUT 1 端子に接続したサブウーファーと同じ音声が出力されます。

■ 6.1 チャンネル構成の場合

接続について詳しくは、13 ページをご覧ください。

CINEMA DSP 音場プログラムの効果をさらに楽しむには、プレゼンススピーカーも使用することをおすすめします。詳しくは、11 ページをご覧ください。

スピーカー表示

FL ／ **FR**：フロント左／右
C：センター
SL ／ **SR**：サラウンド左／右
SB：サラウンドバック
SW：サブウーファー

フロント左／右スピーカー
センタースピーカー
サラウンド左／右スピーカー
サブウーファー

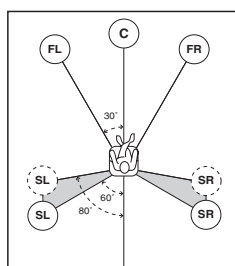
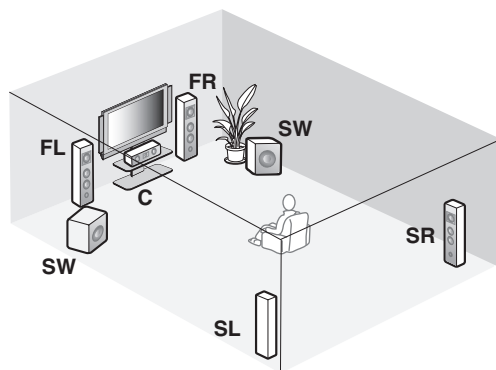
各スピーカーの機能や設置方法は 7.1 チャンネルのときと同じです（9 ページ）。

サラウンドバックスピーカー

リスニングポジション後方に、1 本のサラウンドバックスピーカーを設置します。SURROUND BACK SINGLE スピーカー端子にスピーカーを接続してください。サラウンドバック左／右チャンネル信号はミックスされ、1 本のサラウンドバックスピーカーから出力されます。「SUR.B L/R SP」を「SMLx1」または「LRGx1」に設定してください（66 ページ）。

■ 5.1 チャンネル構成の場合

接続について詳しくは、13 ページをご覧ください。

CINEMA DSP 音場プログラムの効果をさらに楽しむには、プレゼンススピーカーも使用することをおすすめします。詳しくは、11 ページをご覧ください。

スピーカー表示

FL ／ **FR**：フロント左／右
C：センター
SL ／ **SR**：サラウンド左／右
SW：サブウーファー

フロント左／右スピーカー
センタースピーカー
サブウーファー

各スピーカーの機能や設置方法は 7.1 チャンネルのときと同じです（9 ページ）。

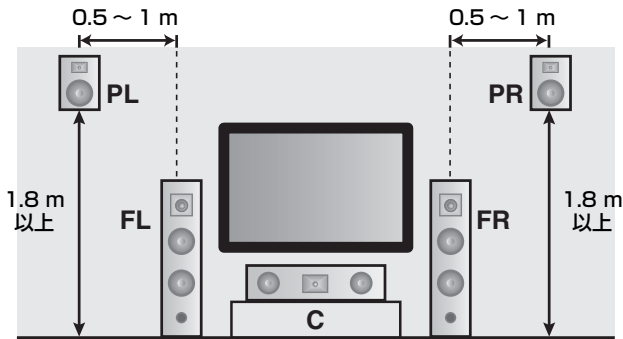
サラウンド左／右スピーカー

リスニングポジション後方に設置します。SURROUND スピーカー端子に接続してください。より自然な音のつながりを得るために、サラウンド左／右スピーカーを 7.1 チャンネル構成時の位置よりもやや後方に設置してください。サラウンドバックチャンネル信号はサラウンド左／右チャンネルに振り分けられて出力されます。「SUR.B L/R SP」を「NONE」に設定してください（66 ページ）。

その他のスピーカー構成

7.1 ／ 6.1 ／ 5.1 チャンネル以外のスピーカー構成でも、マルチチャンネルソースを音場プログラムと一緒に楽しめます。
「AUTO SETUP」（「スタートアップガイド」9 ページ）、または「MANUAL SETUP」の「SPEAKER SET」（65 ページ）で、スピーカー構成を設定してください。

■　プレゼンススピーカーについて

プレゼンススピーカーを使えば、音場プログラム（40 ページ）を選んでいるときに前方の効果音を出力することによって、より豊かなプレゼンス音場を実現できます。また、プレゼンススピーカーを使うことにより、セリフなどの中央に定位する音声の上下位置を調節できます（55 ページ）。
スピーカーを EXTRA SP 端子 (12 ページ) に接続し、「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」（65 ページ、「スタートアップガイド」10 ページ）に設定してください。

スピーカー表示
FL：フロント左
FR：フロント右
C：センター
PL：プレゼンス左
PR：プレゼンス右

ご注意

プレゼンススピーカーを使っている場合、サラウンドバックスピーカーから音声は出力されません。

スピーカーを接続する

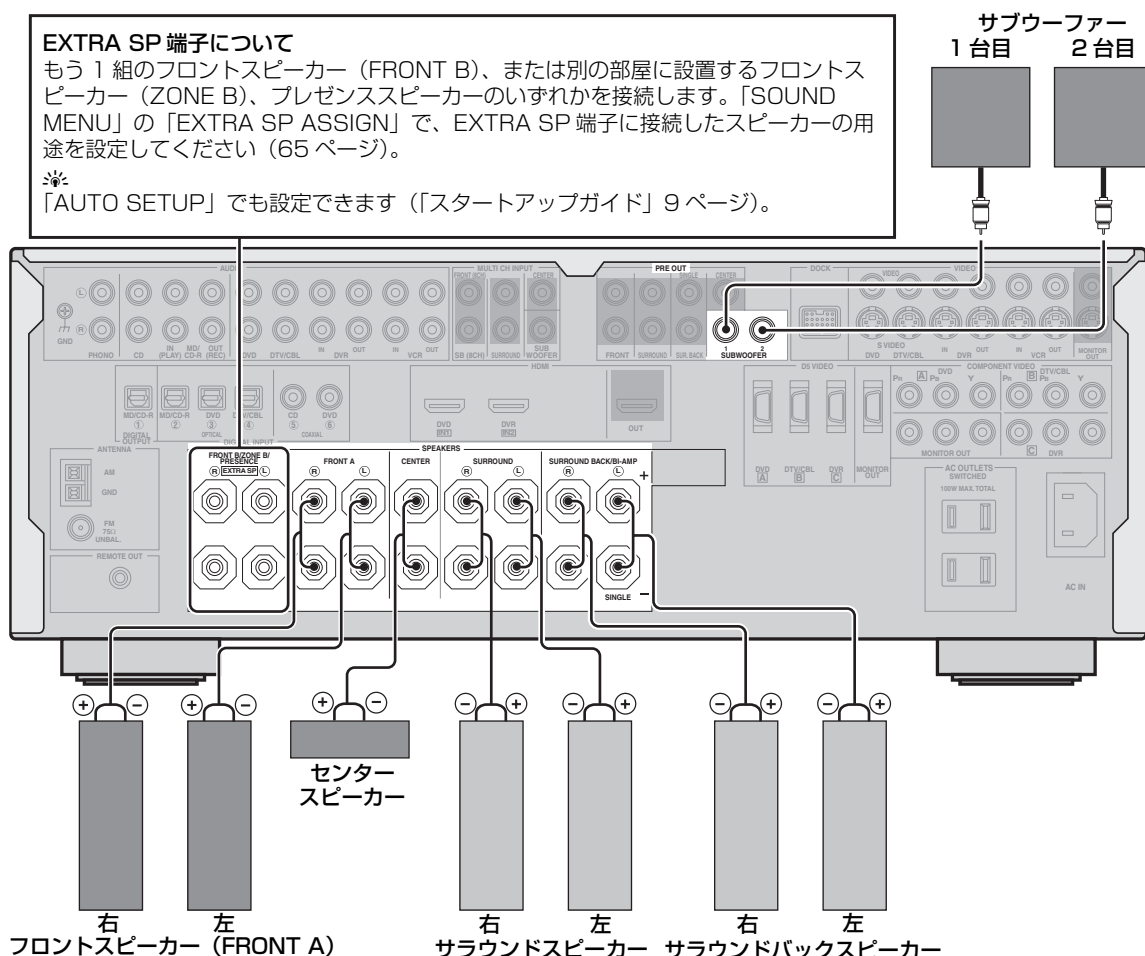
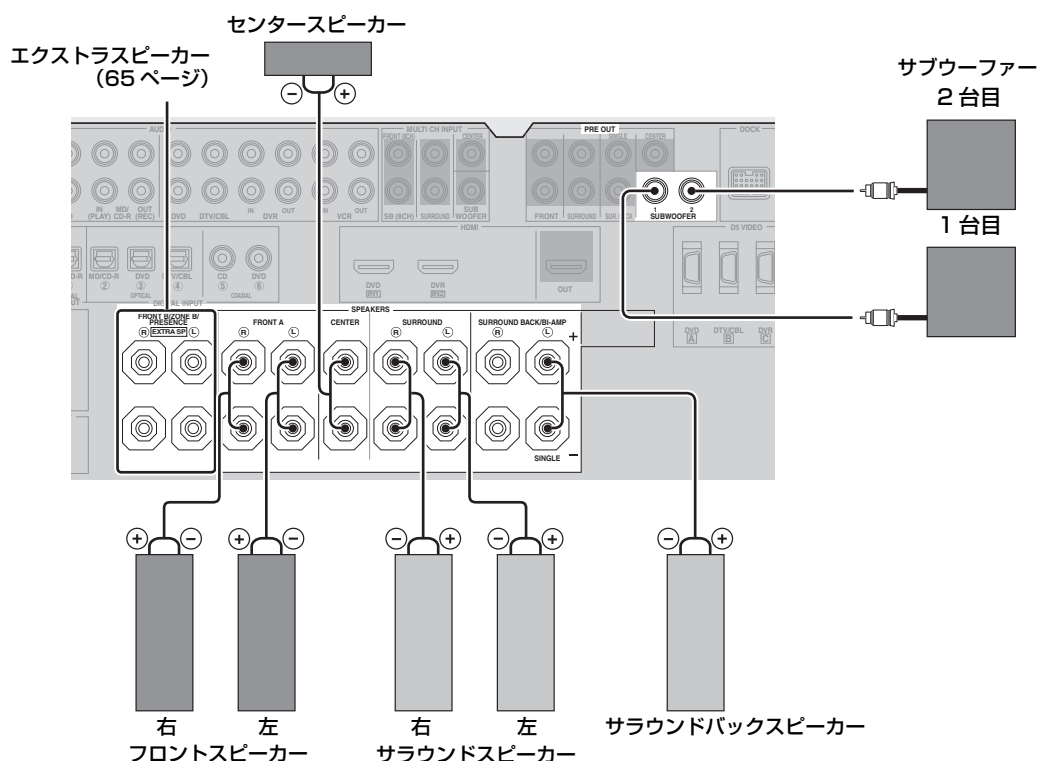
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「＋」（プラス、赤）、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると、音声が正しく再生されないことがあります。

警告

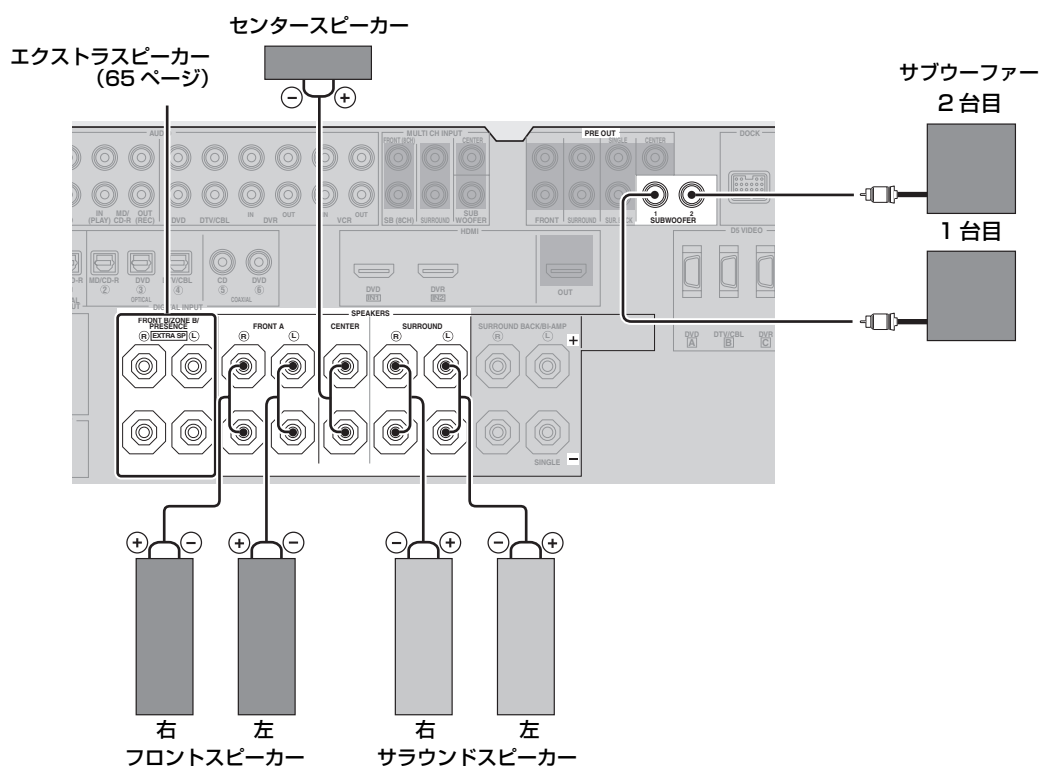
- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグがコンセントに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。また、スピーカーケーブルがショートしていると、本機の電源をオンにしたときにフロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。
- スピーカーは防磁型をお使いください。防磁型スピーカーをお使いでもモニターの画面が乱れる場合は、モニターとスピーカーを離して設置してください。
- スピーカーは、インピーダンスが 6 Ω 以上のものをお使いください。フロント左／右スピーカーを A、B 両方の端子に接続してお使いになる場合は、1 台につき 12 Ω 以上のものをお使いください。

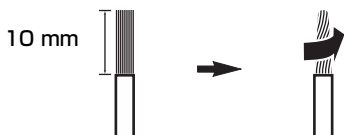
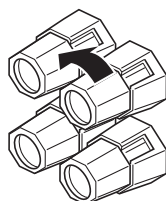
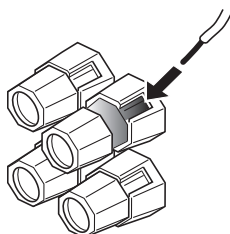
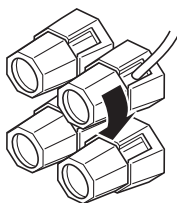
ご注意

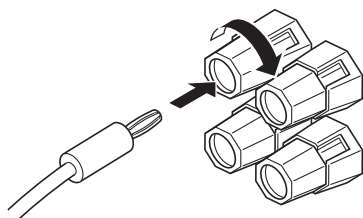
一般的にスピーカーケーブルは、平行した 2 本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの 1 本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「＋」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「－」（マイナス、黒）へ接続してください。

■ 7.1 チャンネル時のスピーカー接続

■ 6.1 チャンネル時のスピーカー接続

■ 5.1 チャンネル時のスピーカー接続

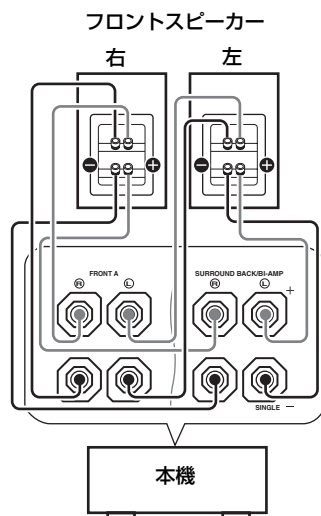
準備

■ スピーカーケーブルを接続する

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を10 mm ぐらいはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカー端子のわきのすき間に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

4 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。

■ バナナプラグケーブルを使って接続する

スピーカー端子を右に回して締め付けてから、バナナプラグをスピーカー端子先端に差し込む。

■ バイアンプ接続する

警告

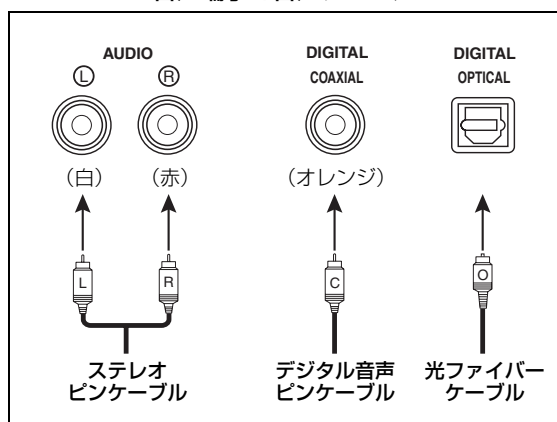
バイアンプ接続をする場合は、本機とスピーカーを接続する前に必ずスピーカーのウーファー端子とツィーター端子をつないでいる金具またはケーブルを取り外してください。詳しくは、スピーカーに付属している取扱説明書をご覧ください。

本機はフロント用のスピーカーをバイアンプで接続できます。お使いのスピーカーがバイアンプ接続に対応しているかご確認ください。
バイアンプで接続するには、FRONT 端子および SURROUND BACK/BI-AMP 端子を下図のように接続してください。バイアンプ接続を有効にするには、アドバンストセットアップ「BI-AMP」を「ON」に設定してください（84 ページ）。

ご注意

バイアンプ接続をしない場合は、スピーカーのウーファー端子とツィーター端子をつなぐ金具またはケーブルがスピーカーに正しく取り付けられていることをご確認ください。詳しくは、スピーカーに付属している取扱説明書をご覧ください。

端子とケーブル

音声端子と音声ケーブル

映像端子と映像ケーブル

■ 音声端子

本機は３種類の音声端子を装備しています。お使いの機器に装備されている音声端子に合わせて、使用する端子を決定してください。

AUDIO 端子

標準的なアナログ左右音声信号をステレオピンケーブルを使って伝送します。

DIGITAL COAXIAL 端子

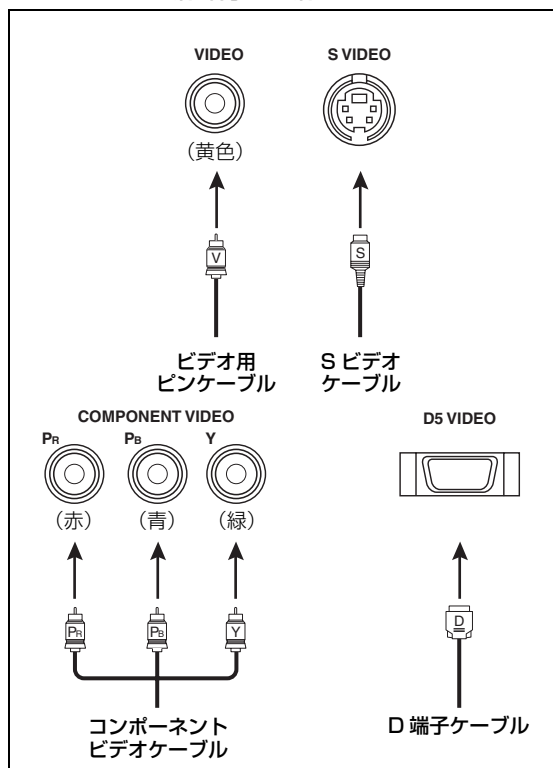
同軸デジタル音声信号をデジタル音声ピンケーブルを使って伝送します。

DIGITAL OPTICAL 端子

光デジタル音声信号を光ファイバーケーブルを使って伝送します。

ご注意

デジタル音声端子は、PCM 信号、およびドルビーデジタル、DTS、AAC のビットストリーム信号を入力できます。１つの機器を COAXIAL 端子と OPTICAL 端子の両方を使って接続した場合は、COAXIAL 端子に入力された信号を優先的に再生します。本機の OPTICAL 入力端子は、サンプリング周波数 96kHz までのデジタル信号に対応しています。

すべての音声／映像端子を接続する必要はありません。お使いの機器に装備されている端子に合わせて、音声で１つ、映像で１つを選んで接続してください。

■ 映像端子

本機は４種類の映像端子を装備しています。お使いの機器に装備されている映像端子に合わせて、使用する端子を決定してください。

VIDEO 端子

標準的なコンポジットビデオ信号をビデオ用ピンケーブルを使って伝送します。

S VIDEO 端子

輝度信号（Y）と色信号（C）に分離した S ビデオ信号を S ビデオケーブルを使って伝送します。

COMPONENT VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号をコンポーネントビデオケーブルを使って伝送します。

D5 VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号と、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を D 端子ケーブルを使って伝送します。

本機はビデオコンバージョン機能を搭載しています。詳しくは、17、76 ページをご覧ください。

準備

HDMI について

■ HDMI 信号について

音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16 ／ 20 ／ 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16 ／ 20 ／ 24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2 ／ 5.1ch、2.8224MHz、1bit	SA-CD
ビットストリーム	ドルビーデジタル、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS Express	ブルーレイディスク、HD DVD

再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、以下の方法で音声接続すれば、音声解説を楽しめます。
- アナログマルチチャンネル接続（23 ページ）
- デジタル接続

再生機器で音声解説をデコードし、本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクや HD DVD の音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

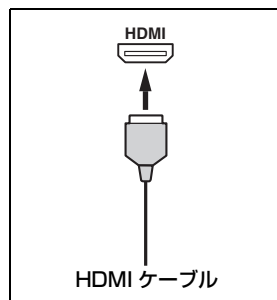
映像信号について

以下の解像度に対応しています。

映像信号フォーマット
- 480i ／ 60Hz
- 480p ／ 60Hz
- 720p ／ 60Hz、50Hz
- 1080i ／ 60Hz、50Hz
- 1080p ／ 60Hz、50Hz、24Hz

HDMI 入力端子の割り当てについて

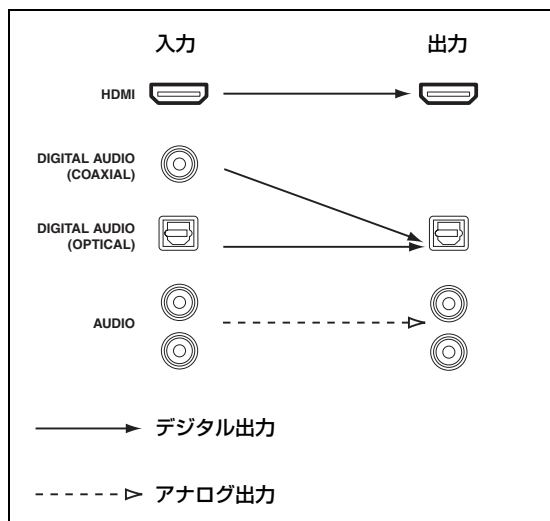
HDMI 入力端子	機器
IN1	DVD
IN2	DVR

■ HDMI 端子と HDMI ケーブルについて

- 接続には 19 ピンの HDMI ケーブルで、HDMI ロゴのついているものをお使いください。また、長さ 5.0m 以下のものを使うことをおすすめします。
- 本機を DVI 端子のある機器に接続する場合は、HDMI 端子⇔ DVI-D 端子の変換ケーブルが必要です。

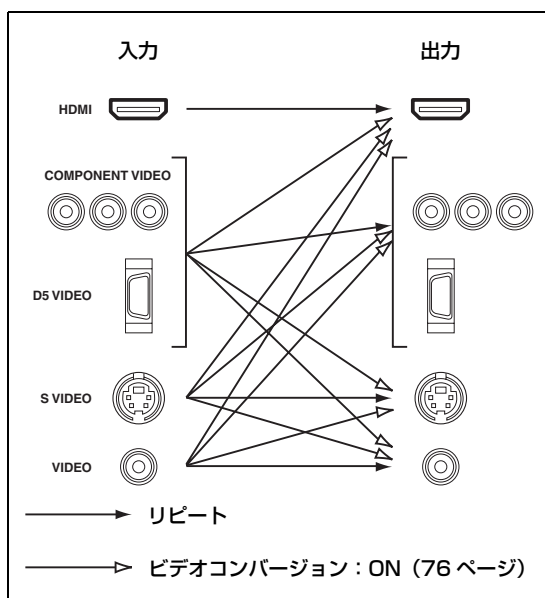
ご注意

- HDMI で接続した機器を再生中に、本機の HDMI OUT 端子に接続している HDMI ／ DVI 機器の電源をオン／オフしたり、HDMI ケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたり、ノイズが発生したりすることがあります。
- お使いのテレビやプロジェクターによっては、本機と DVI 接続した場合、それらの電源がオフ、またはスタンバイのときや、DVI 入力を選択していないときに、HDMI 接続した再生機器からの音声が再生されないことがあります。
- ビデオ端子、S ビデオ端子、コンポーネントビデオ端子、D5 ビデオ端子から入力したアナログ映像信号をデジタル処理で上位変換することにより、HDMI OUT 端子から出力できます。「VIDEO CONV.」を「ON」に設定してください（76 ページ）。

音声信号と映像信号の流れ

■ 音声信号の流れ

ご注意

- 「S.AUDIO」（78 ページ）を「OTHER」に設定すると、HDMI IN 端子に入力した 2 チャンネル PCM、マルチチャンネル PCM、ドルビーデジタル、DTS 信号は HDMI OUT 端子から出力されます。
- HDMI IN 端子に入力した音声信号は、AUDIO OUT 端子、および DIGITAL OUTPUT 端子から出力されません。

■ 映像信号の流れ

ご注意

- 同時に複数の種類の映像入力端子を接続している場合、以下の優先順位で信号が出力されます。
  1　HDMI 端子
  2　コンポーネント／ D5 ビデオ端子
  3　S ビデオ端子
  4　ビデオ端子
- HDMI IN 端子に入力したデジタル映像信号は、アナログ映像出力端子から出力されません。
- 480i コンポーネントビデオ信号は S ビデオ、またはコンポジットビデオ信号に変換され、S VIDEO MONITOR OUT 端子、および VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。
- 480p ／ 720p ／ 1080i コンポーネントビデオ信号は HDMI OUT 端子、および COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、D5 VIDEO MONITOR OUT 端子からのみ出力されます。
- 1080p コンポーネントビデオ信号は COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、および D5 VIDEO MONITOR OUT 端子からのみ出力されます。
- 本機のメニュー画面表示用信号は VCR OUT 端子、および DVR OUT 端子から出力されないので、映像と一緒に録画されることはありません。

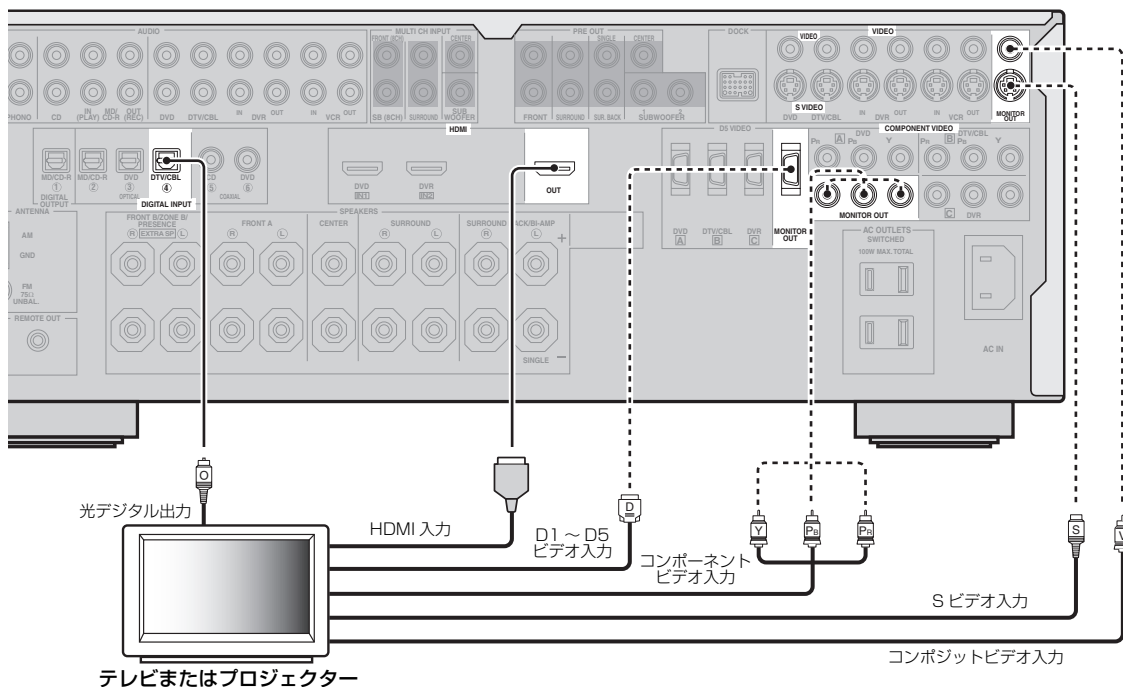
テレビやプロジェクターを接続する

テレビ（またはプロジェクター）を本機の HDMI OUT 端子、または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、D5 VIDEO MONITOR OUT 端子、S VIDEO MONITOR OUT 端子、VIDEO MONITOR OUT 端子に接続します。

本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。

- HDMI 音声信号を、本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した HDMI 機器で再生するかを選べます。「OPTION MENU」の「S.AUDIO」で、HDMI 音声信号を再生する機器を選んでください（78 ページ）。
- テレビ番組を楽しむ場合は、テレビのデジタル／アナログ音声出力端子を本機のデジタル／アナログ音声入力端子に接続してください。接続について詳しくは、「衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する」（20 ページ）をご覧ください。
- テレビと再生機器を本機と HDMI 接続している場合は、テレビの光デジタル出力端子を本機のDIGITAL INPUT OPTICAL 端子に接続してください。

ご注意

- 本機とモニターを DVI 接続し、モニターの電源がスタンバイのときは、モニターの種類によっては HDMI 音声／映像入力信号を認識できない場合があります。このような場合は、HDMI インジケーターが点滅します。
- 本機とモニターを DVI 接続している場合、映像が正しく出力されなかったり、まったく出力されなかったりすることがあります。
- リップシンク（音声と映像の出力タイミング補正）の自動補正機能と互換性を持つモニターと本機を HDMI 接続した場合、本機は自動的に出力タイミングを補正します（72 ページ）。リップシンクの自動補正機能を使うには、モニターを本機の HDMI OUT 端子に接続してください。

————	おすすめの接続方法
- - - - - -	代わりの接続方法 （映像で１つ、音声で１つを選んで接続してください。）

他の外部機器を接続する

本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。

ご注意

- 「VIDEO CONV.」（76 ページ）を「OFF」に設定している場合は、映像機器と本機、およびモニターと本機を同じ種類の映像端子を使って接続してください（18 ページ）。例えば、映像機器と本機をコンポジットビデオ端子を使って接続している場合は、モニターと本機もコンポジットビデオ接続してください。
- 「VIDEO CONV.」（76 ページ）を「ON」に設定している場合は、変換された映像信号は MONITOR OUT 端子にのみ出力されます。映像を録画するときは、それぞれの機器を同じ方法で接続してください。
- HDMI IN または DIGITAL INPUT 端子に、初期状態でそれぞれの端子に割り当てられている機器とは違う機器を接続する場合は、「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更してください（73 ページ）。
- DVD プレーヤーを DIGITAL INPUT（OPTICAL）端子と DIGITAL INPUT（COAXIAL）端子の両方に同時に接続する場合、DIGITAL INPUT（COAXIAL）端子に入力された信号が優先的に出力されます。

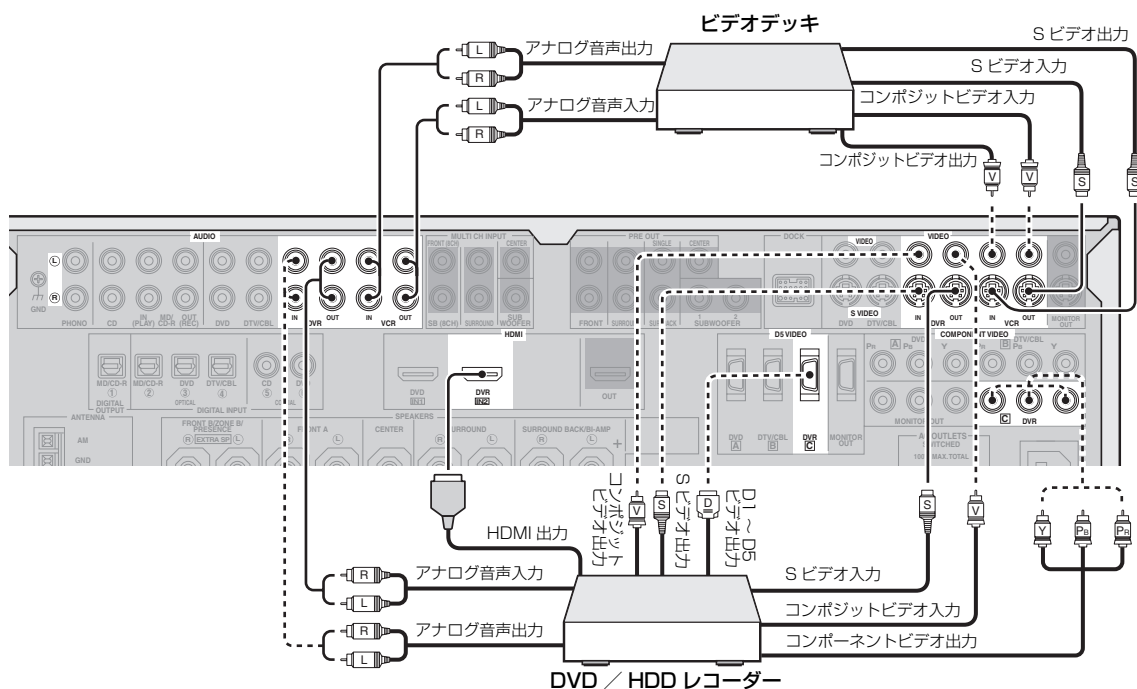
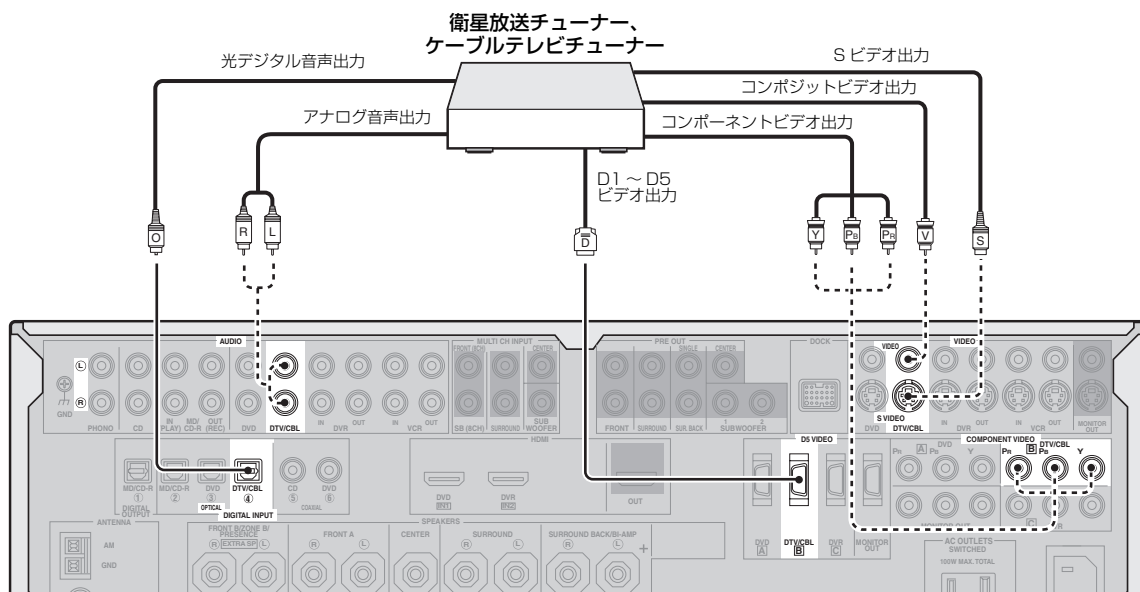
■ DVD プレーヤーを接続する

DVD プレーヤー

光デジタル音声出力
同軸デジタル音声出力
アナログ音声出力
HDMI 出力
D1 ～ D5 ビデオ出力
S ビデオ出力
コンポジットビデオ出力
コンポーネントビデオ出力

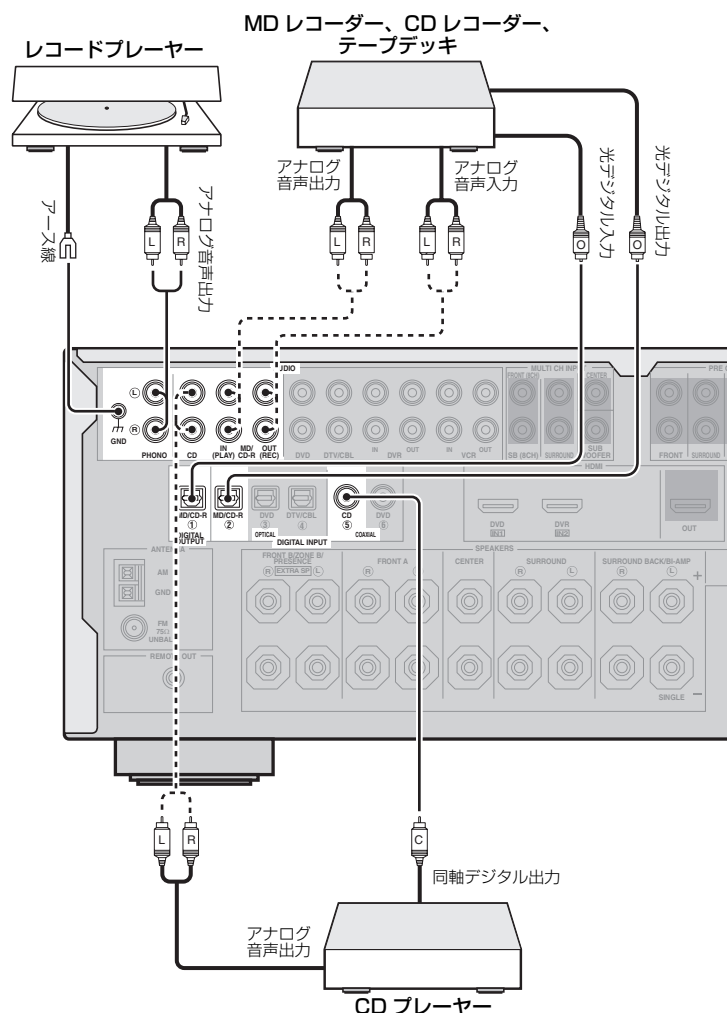
———— おすすめの接続方法

- - - - - 代わりの接続方法
（映像で 1 つ、音声で 1 つを選んで接続してください。）

■ DVD ／ HDD レコーダー、ビデオデッキを接続する

■ 衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する

————————	おすすめの接続方法
- - - - - - - - -	代わりの接続方法 （映像で 1 つ、音声で 1 つを選んで接続してください。）

■ その他の音声機器を接続する

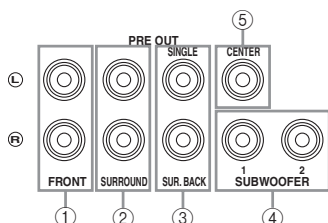
ご注意

- DIGITAL INPUT、または DIGITAL OUTPUT 端子に、初期状態でそれぞれの端子に割り当てられている機器とは違う機器を接続する場合は、「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更してください（73 ページ）。
- レコードプレーヤーを本機の GND 端子へ接続すれば、ノイズレベルを低減できます。レコードプレーヤーによっては、GND 端子へ接続しないほうがよい場合もあります。
- MM カートリッジまたは高出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのまま PHONO AUDIO 端子に接続します。低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用して PHONO AUDIO 端子に接続します。
- GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。
- その他の機器を DIGITAL INPUT（OPTICAL）端子と DIGITAL INPUT（COAXIAL）端子の両方に同時に接続する場合、DIGITAL INPUT（COAXIAL）端子に入力された信号が優先的に出力されます。

————————	おすすめの接続方法
- - - - - - - - - - - -	代わりの接続方法（1 つを選んで接続してください。）

■ 外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）をお使いになる場合は、PRE OUT 端子と接続します。各 PRE OUT 端子は、対応するスピーカー端子と同じチャンネル信号を出力します。

ご注意

- PRE OUT 端子を使って接続する場合は、本機のスピーカー端子にスピーカーを接続しないでください。
- FRONT PRE OUT 端子から出力される信号は、トーンコントロール機能によって音質を調節できます（44 ページ）。
- サブウーファーの音量は、お使いのサブウーファー本体で調節してください。
- 「SPEAKER SET」（65 ページ）の設定により、SUBWOOFER 端子から音が出力されない場合があります。

① FRONT PRE OUT 端子

フロント左／右チャンネルの信号を出力します。

② SURROUND PRE OUT 端子

サラウンド左／右チャンネルの信号を出力します。

③ SUR.BACK PRE OUT 端子

サラウンドバック左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを１つだけ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。

ご注意

- 「BI-AMP」（84 ページ）を「ON」に設定している場合、SUR.BACK PRE OUT 端子からはフロント左／右チャンネル信号が出力されます。
- 「EXTRA SP ASSIGN」（65 ページ）の設定により、SUR.BACK PRE OUT 端子から出力される音声信号チャンネルは変化します。

④ SUBWOOFER PRE OUT 端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを１つ、または２つ接続します。

ご注意

SUBWOOFER PRE OUT 2 端子に接続したサブウーファーからは、SUBWOOFER PRE OUT 1 端子に接続したサブウーファーと同じ音声が出力されます。

⑤ CENTER PRE OUT 端子

センターチャンネルの信号を出力します。

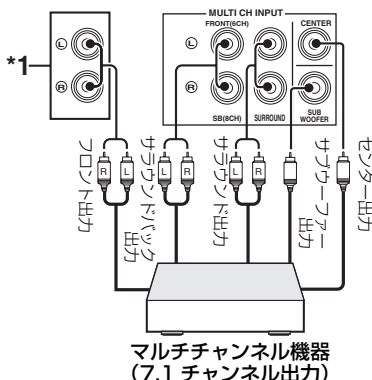
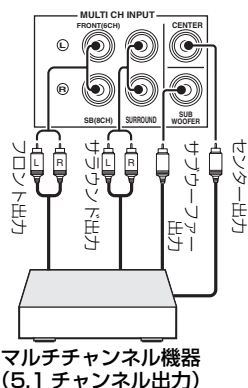
■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続すれば、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。
「MULTI CH」の「INPUT CH」を「8CH」に設定すれば（75 ページ）、「MULTI CH」の「FRONT」（75 ページ）で設定したチャンネルを加えて、8 チャンネル音声を楽しめます。
マルチチャンネル音声出力端子がある機器の音声出力端子を本機の MULTI CH INPUT 端子に接続してください。接続の際は、フロントおよびサラウンドチャンネルの左／右をご確認のうえ、正しく接続してください。

ご注意

- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を入力選択すると、（35 ページ）、音場プログラムは選べなくなります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声信号は出力されません。マルチチャンネル機器の音声を聴く場合は、5.1 チャンネル以上のスピーカー構成で楽しむことをおすすめします。

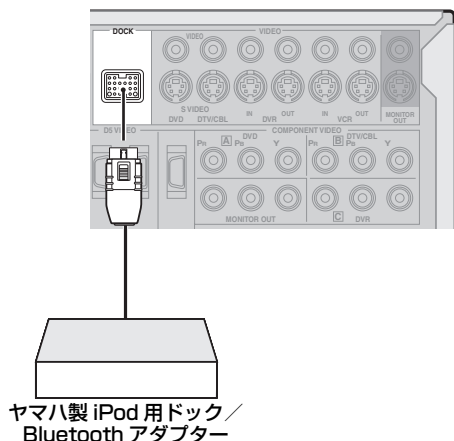
マルチチャンネル機器
（5.1 チャンネル出力）

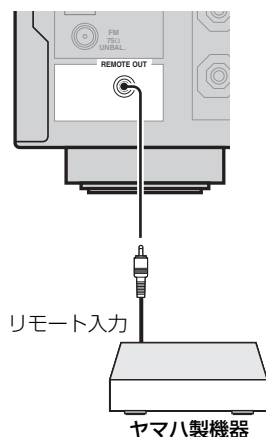
マルチチャンネル機器
（7.1 チャンネル出力）

*1「MULTI CH」の「FRONT」で設定したアナログ音声入力端子（75 ページ）

■ ヤマハ製 iPod 用ドック／ Bluetooth® アダプターを接続する

本機は、ヤマハ製 iPod 用ドックや Bluetooth アダプターを接続するための DOCK 端子を装備しています。iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）や Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を接続すれば、iPod や Bluetooth 機器の再生が楽しめます。接続用のケーブルは専用のものをお使いください。

ヤマハ製 iPod 用ドック／
Bluetooth アダプター

再生のしかたについて詳しくは、「iPod を再生する」（49 ページ）、および「Bluetooth 機器を再生する」（51 ページ）をご覧ください。

■ REMOTE OUT 端子を使う

お使いの機器がコントロール信号の受信機能に対応しているヤマハ製機器の場合は、下図のようにモノラルミニプラグケーブルで本機の REMOTE OUT 端子に接続してください。

- お使いの機器が SCENE コントロール信号の受信機能に対応しているヤマハ製機器の場合、本機とリモート接続すれば、SCENE キーを押して SCENE を選ぶと自動的に再生が始まります。
- REMOTE OUT 端子に接続している機器がヤマハ製でない場合は、アドバンストセットアップメニュー「SCENE IR」を「OFF」に設定してください（84 ページ）。

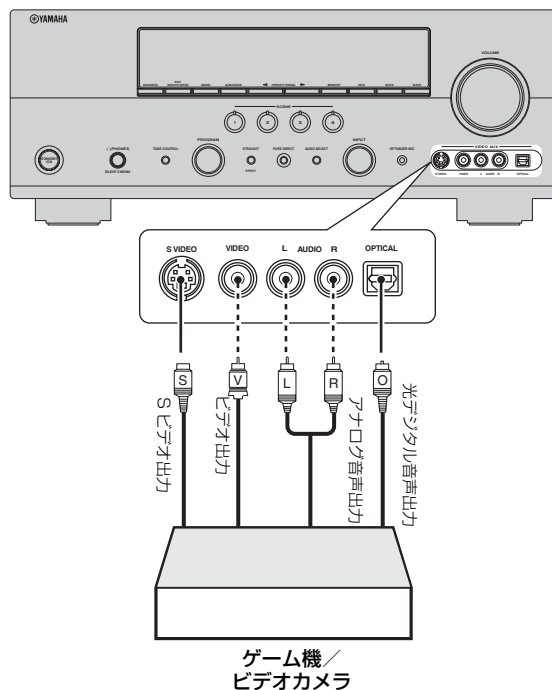
VIDEO AUX 端子を使う

ゲーム機やビデオカメラをフロントパネルの VIDEO AUX 端子に接続します。

警告

本機と接続機器の音量を十分に下げてから接続してください。

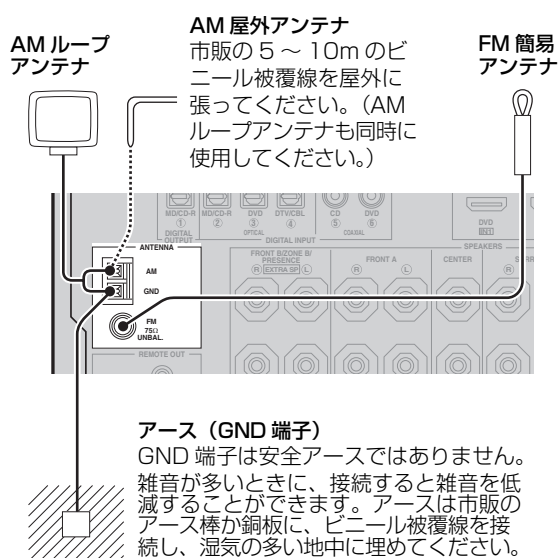
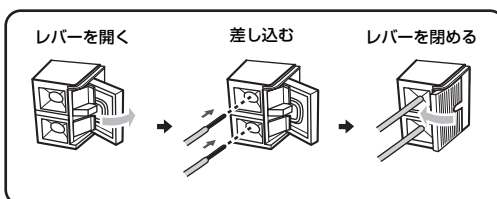
ご注意

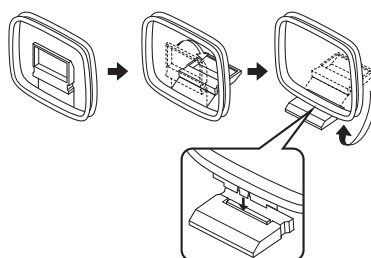
- DOCK 端子と VIDEO AUX 端子に同時に音声信号が入力されている場合は、DOCK 端子に入力された音声信号が出力されます。
- V-AUX 端子に接続した機器を再生するには、入力ソースに「V-AUX」を選んでください。

―――――	おすすめの接続方法
- - - - - -	代わりの接続方法 （映像で１つ、音声で１つを選んで接続してください。）

FM ／ AMアンテナを接続する

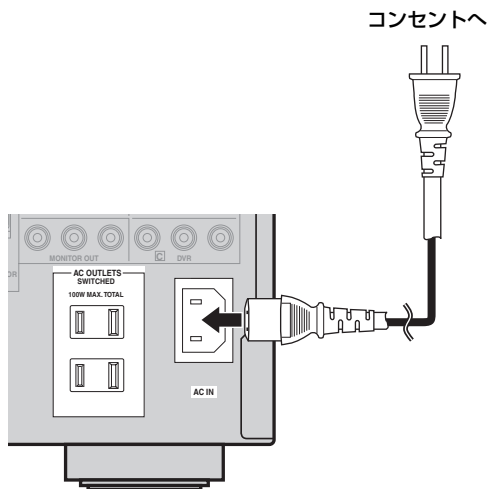
本機には、FM 簡易アンテナおよび AM ループアンテナが付属しています。これらのアンテナをそれぞれのアンテナ端子に正しく接続してください。通常はこれらのアンテナで十分な受信感度を得られます。

ご注意

- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。

AM ループアンテナの接続方法

コードに極性はありません。また、AM と GND それぞれの端子にどちらのケーブルを接続してもかまいません。

AM ループアンテナの組立方法

準備

電源コードを接続する

コンセントへ接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■ AC OUTLETS

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のⓀSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給できます。

本機に接続したヤマハ製iPod用ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodを充電しているときは、本機の電源がスタンバイでもACアウトレットから電源が供給されます。
本機の電源がスタンバイのときにiPodの充電が完了したり、iPodを取り外したりした場合は、電源の供給が自動的に遮断されます。

メモリーバックアップ機能

メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイのときに、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源コードがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されたりすると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定をやり直してください。

本機の電源をオン／スタンバイする

■ 電源の入れかた

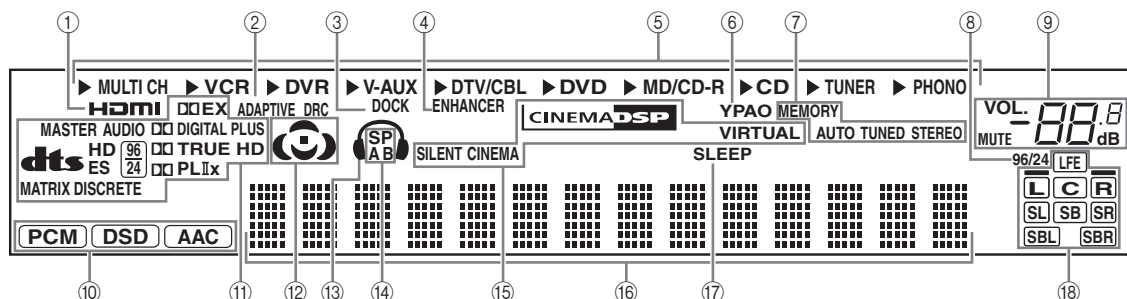
フロントパネルの ⓀSTANDBY/ON キー（またはリモコンの ⑭POWER キー）を押す。
本機の電源がオンになります。

- 本機の電源をオンにしてから音声が出力するまで、数秒かかります。
- ⓇSCENE キー（または ⑪SCENE キー）を押して本機の電源をオンにすることもできます。

■ 電源の切りかた

フロントパネルの ⓀSTANDBY/ON キー（またはリモコンの ⑬STANDBY キー）を押す。
スタンバイになっているあいだも、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

「STANDBY THROUGH」（78ページ）を「ON」に設定している場合、待機時消費電力をより多く消費しますので、「OFF」に設定するか、長期間本機を使用しない場合は電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

フロントパネルディスプレイ

① HDMI インジケーター

入力ソースの信号を HDMI IN 端子から入力しているときに点灯します（16 ページ）。

② ADAPTIVE（アダプティブ） DRC インジケーター

「ADAPTIVE DRC」を「AUTO」に設定しているときに点灯します（69 ページ）。

③ DOCK（ドック） インジケーター

- ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod からの信号を本機が認識していて（23 ページ）、V-AUX を入力選択している場合や、本機がスタンバイのときに iPod を充電している場合に点灯します。
- ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）、および Bluetooth 機器をペアリングしている（51 ページ）、または Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器をサーチしている（51 ページ）ときに点滅します。
- ヤマハ製 Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器に接続されたときに点灯します（51 ページ）。

④ ENHANCER（エンハンサー） インジケーター

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します（42 ページ）。

⑤ 入力ソースインジケーター

現在選んでいる入力ソース名の左側に、「▶」が点灯します（34 ページ）。

⑥ YPAO インジケーター

AUTO SETUP の実行中、および AUTO SETUP での設定が有効になっているときに点灯します（「スタートアップガイド」9 ページ）。

⑦ チューナーインジケーター

FM ／ AM 放送を聴くときや、放送局をプリセットするときに点灯します（45 ページ）。

⑧ 96/24 インジケーター

本機に DTS 96/24 信号を入力しているときに点灯します。

⑨ MUTE（ミュート） インジケーター、VOLUME（ボリューム） インジケーター

- 本機をミュート（消音）しているときに MUTE インジケーターが点滅します（37 ページ）。
- 現在の音量を VOLUME インジケーターで表示します。

⑩ 入力信号インジケーター

PCM（Pulse Code Modulation）信号または DSD（Direct Stream Digital）信号、AAC（Advanced Audio Coding）信号を再生しているときに点灯します。

⑪ デコーダーインジケーター

本機のデコーダーが動作しているときに、デコーダーの種類に応じて点灯します。

⑫ 音場インジケーター

音場プログラムを使っているときに、本機がどの音場を使って再生しているかを表示します。

⑬ ヘッドホンインジケーター

ヘッドホンを接続しているときに点灯します（37 ページ）。

⑭ SP A B インジケーター

選んでいるフロントスピーカーに応じて点灯します（35 ページ）。

SP A：フロント A スピーカーを選んでいます。
SP B：フロント B スピーカーを選んでいます。
SP A B：AB 両方のフロントスピーカーを選んでいます。

⑮ DSP インジケーター
選んでいる音場プログラムに応じて点灯します（40 ページ）。

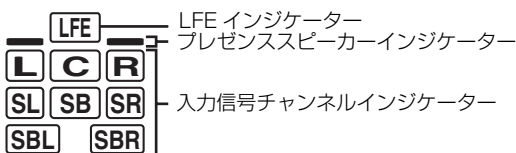
シネマ
CINEMA DSP インジケーター
シネマ DSP モードで再生しているときに点灯します（40 ページ）。

バーチャル
VIRTUAL インジケーター
バーチャルシネマ DSP モードで再生しているときに点灯します（43 ページ）。

サイレント　シネマ
SILENT CINEMA インジケーター
ヘッドホンを接続し、音場プログラムを選んでいるときに点灯します（43 ページ）。

⑯ マルチインフォメーションディスプレイ
現在選んでいる音場プログラムの名前や、設定を変更するときのさまざまな情報を表示します。

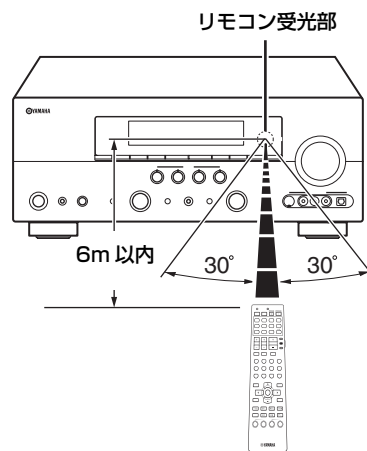
スリープ
⑰ SLEEP インジケーター
スリープタイマーをオンに設定しているときに点灯します（39 ページ）。

⑱ 入力信号チャンネル／スピーカーインジケーター

入力信号チャンネルインジケーター
- 入力しているデジタル信号に含まれているチャンネルに応じて点灯します。
- AUTO SETUP を実行しているときや（「スタートアップガイド」9 ページ）、「TEST TONE」（68 ページ）を「ON」に設定し、「BASIC MENU」を調節しているとき（65 ページ）に、スピーカーの設定に応じて点灯／点滅します。

プレゼンススピーカーインジケーター
AUTO SETUP を実行しているときや（「スタートアップガイド」9 ページ）、「TEST TONE」（68 ページ）を「ON」に設定し、「BASIC MENU」を調節しているとき（65 ページ）に、「EXTRA SP ASSIGN」（65 ページ）の設定に応じて点灯／点滅します。

AUTO SETUP（「スタートアップガイド」9 ページ）、または「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」（65 ページ）、「SUR.B L/R SP」（66 ページ）で、プレゼンスおよびサラウンドバックスピーカーを自動／手動で設定できます。

リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

赤外線送信部（①）
リモコン操作用の赤外線信号を送信します。リモコンを操作するときは、送信部を操作したい機器に向けてください。

トランスミット
⑫TRANSMIT インジケーター
リモコン操作の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

操作機器選択スイッチ（⑯）
いくつかのキーの機能は、操作機器選択スイッチの位置に応じて切り替わります。

- アンプ
  AMP
  本機のアンプ機能を操作するときに選びます。
- ソース
  SOURCE
  入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。
- テレビ
  TV
  ④DTV/CBL キー、または ④PHONO キーにリモコンコードを設定したテレビを操作するときに選びます。

ご注意
- 水やお茶などの液体をこぼさないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないでください。
  －風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  －暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
  －極端に寒いところ
  －ほこりの多いところ
- 外部機器のリモコンコードを設定するには、81 ページをご覧ください。

SCENE テンプレートを選ぶ

本機は使用する状況に合わせて、17 種類の SCENE テンプレート（SCENE 機能で使用する雛形）が記憶されています。初期設定では、それぞれの SCENE キーに以下の SCENE テンプレートが設定されています。

SCENE 1：DVD Movie（ムービー） Viewing（ビューイング）
SCENE 2：Music（ミュージック） Disc（ディスク） Listening（リスニング）
SCENE 3：TV Viewing（ビューイング）
SCENE 4：Radio（ラジオ） Listening（リスニング）

他の SCENE テンプレートを使いたい場合は、記憶されている SCENE テンプレートの中からお好みにあった SCENE テンプレートを選んで、フロントパネルやリモコンの SCENE キーに設定できます。

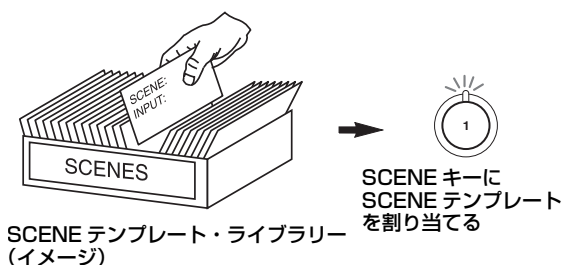
SCENE テンプレートを選ぶ

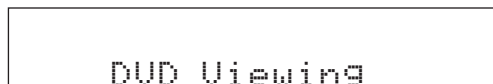
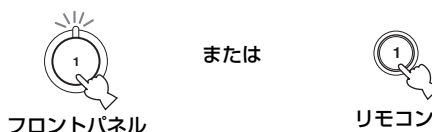
SCENE テンプレート・ライブラリー（イメージ）

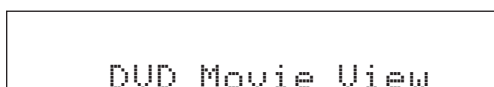
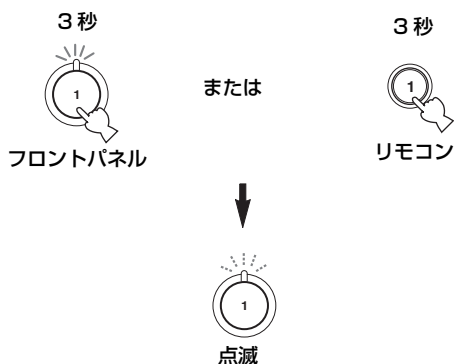
SCENE キーに SCENE テンプレートを割り当てる

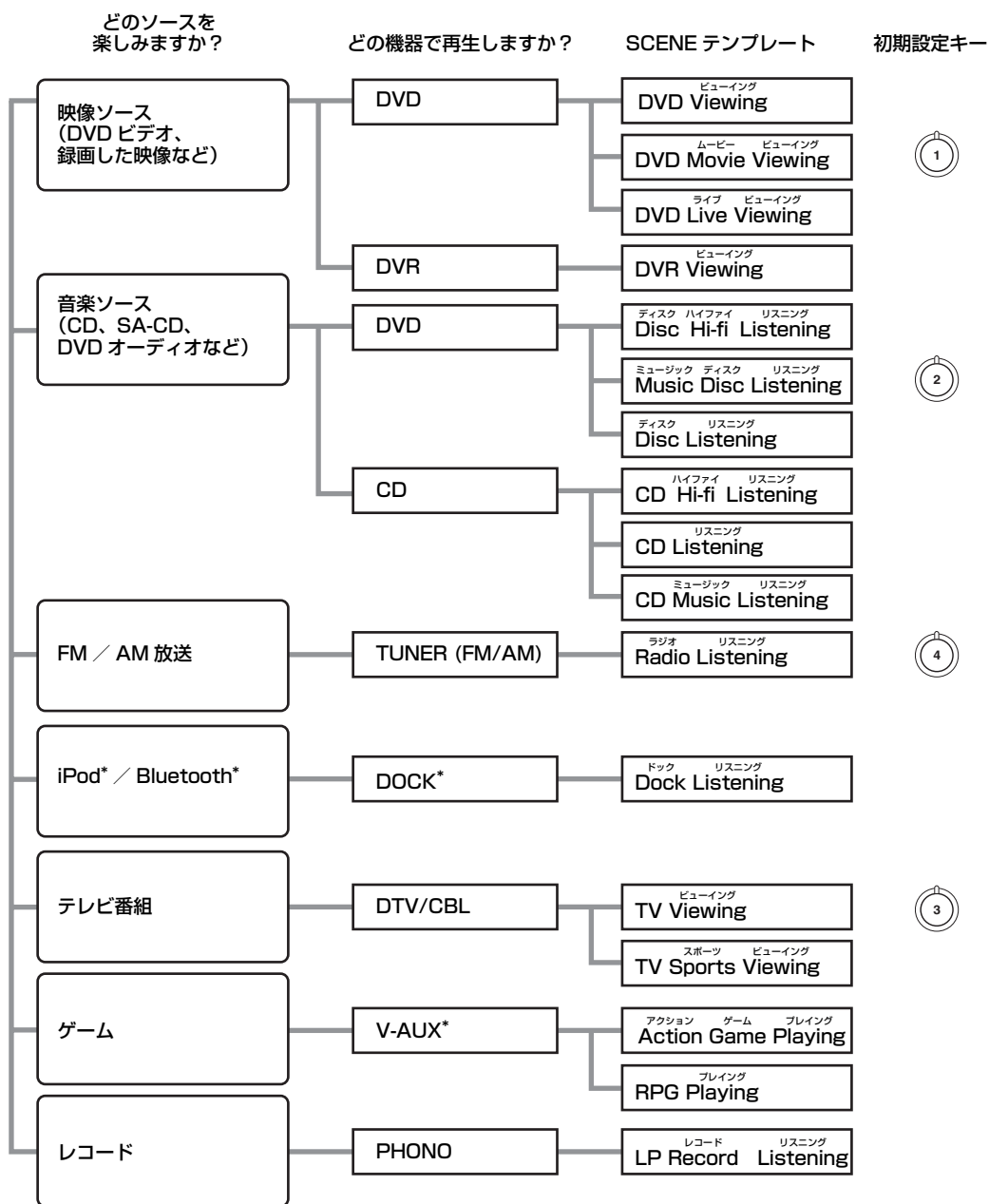
SCENE テンプレートを入れ替える

1 **SCENE テンプレートを入れ替えたい ⓇSCENE キー（または ⑪SCENE キー）を約３秒間押し続ける。**
フロントパネル ⓇSCENE キー上部のランプが点滅し、フロントパネルディスプレイに現在設定されている SCENE テンプレートが表示されます。

```
DVD Movie View
```

2 **ⓠINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選んでから ⑧◁ / ▷ キーを押して）、設定したいテンプレートを選ぶ。**

```
DVD Viewing
```

3 **ⓇSCENE キー（または ⑪SCENE キー）をもう一度押して、確定する。**
選んだ SCENE テンプレートが ⓇSCENE キーに設定されます。

ご注意

SCENE テンプレートを入れ替えた場合、リモコンの ⑪SCENE キーに設定されている入力ソースも変更する必要があります。詳しくは、33 ページをご覧ください。

■ どの SCENE テンプレートを選びますか？

ご注意

* DOCK 端子と VIDEO AUX 端子に同時に音声信号が入力されている場合は、DOCK 端子に入力された音声信号が出力されます。

上記の SCENE テンプレートを編集し、新しいテンプレートを作成できます。詳しくは、32 ページ をご覧ください。

■ SCENE テンプレート一覧

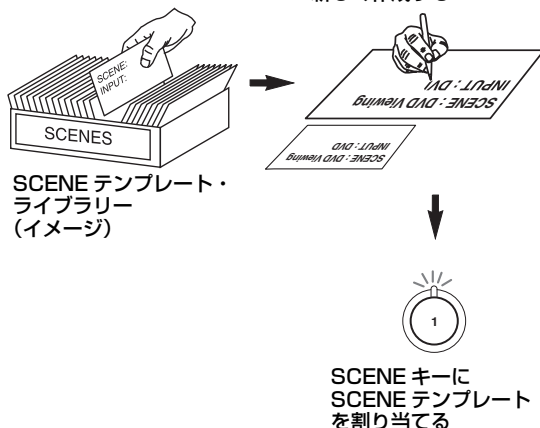
表中の灰色で示された部分は、SCENE1 ～ 4 キーの初期設定を表しています。

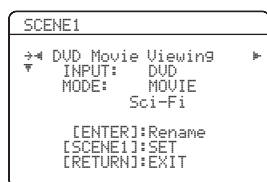
SCENE テンプレート	入力ソース	再生モード	説明
DVD Viewing	DVD*	Straight	DVD プレーヤーで DVD を見るときに選びます。
DVD Movie Viewing ①	DVD*	MOVIE Sci-Fi	DVD プレーヤーで映画ソフトを見るときに選びます。
DVD Live Viewing	DVD*	ENTERTAINMENT Music Video	DVD プレーヤーで音楽ソフトを見るときに選びます。
DVR Viewing	DVR	MOVIE Drama	DVD レコーダーで映画ソフトを見るときに選びます。
Disc Hi-fi Listening	DVD*	Pure Direct	DVD プレーヤーで CD を原音に忠実な音質で聴くときに選びます。
Music Disc Listening ②	DVD*	STEREO 2ch Stereo	DVD プレーヤーで CD を 2 チャンネルで聴くときに選びます。
Disc Listening	DVD*	STEREO 7ch Stereo	DVD プレーヤーで CD を BGM として聴くときに選びます。
CD Hi-fi Listening	CD*	Pure Direct	CD プレーヤーで CD を原音に忠実な音質で聴くときに選びます。
CD Listening	CD*	STEREO 7ch Stereo	CD プレーヤーで CD を BGM として聴くときに選びます。
CD Music Listening	CD*	STEREO 2ch Stereo	CD プレーヤーで CD を 2 チャンネルで聴くときに選びます。
Radio Listening ④	TUNER	MUSIC ENHANCER 7ch Enhancer	FM/AM 放送を聴くときに選びます。
Dock Listening	V-AUX	MUSIC ENHANCER 7ch Enhancer	iPod や Bluetooth を聴くときに選びます。
TV Viewing ③	DTV/CBL	Straight	テレビを見るときに選びます。
TV Sports Viewing	DTV/CBL	ENTERTAINMENT Sports	テレビでスポーツを見るときに選びます。
Action Game Playing	V-AUX	ENTERTAINMENT Action Game	アクションゲームを楽しむときに選びます。
RPG Playing	V-AUX	ENTERTAINMENT Roleplaying Game	ロールプレイングゲームを楽しむときに選びます。
LP Record Listening	PHONO	Pure Direct	レコードプレーヤーでレコードを原音に忠実な音質で聴くときに選びます。

* お使いの機器が SCENE コントロール信号の受信機能を持つヤマハ製機器の場合、本機とリモート接続すれば、⑪**SCENE** キーを押して SCENE を選ぶと自動的に再生が始まります。

基本操作

新しいSCENEテンプレートを作成する

SCENE テンプレートを新しく作成して、それぞれの SCENE キーに設定できます。本機に記憶されている 17 種類 SCENE テンプレートを基に、新しい SCENE テンプレートを作成します。

1 **本機に接続したモニターの電源をオンにする。**

2 **編集したい SCENE テンプレートが設定されている ⑪SCENE キーを約３秒間押し続ける**
SCENE テンプレートの編集画面がモニターに表示されます。

ご注意

編集したい SCENE テンプレートが ⑪SCENE キーに設定されていない場合は、⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して、編集画面に表示されている SCENE テンプレートを切り替えてください。

3 **⑧△ / ▽ キーを押して SCENE テンプレートの項目を選び、⑧◁ / ▷ キーを押して設定値を選ぶ。**
以下の項目を編集できます。

・ INPUT：入力ソース設定
・ MODE：再生モード設定（音場プログラム、ストレートデコードモード、ピュアダイレクトモード）

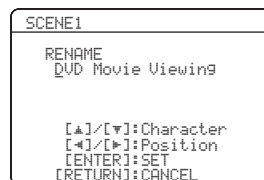
4 **⑪SCENE キーをもう一度押して、確定する。**

新しく作成した SCENE テンプレートには、名前の前に「＊（アスタリスク）」が表示されます。

ご注意

・SCENE テンプレートを編集した場合、リモコンの ⑪SCENE キーに設定されている入力ソースも変更する必要があります。詳しくは、33 ページをご覧ください。
・新しく作成した SCENE テンプレートを再編集した場合は、変更内容を上書きして保存します。
・新しく作成した SCENE テンプレートは、設定した ⑪SCENE キーでのみ選べます。

■ SCENE テンプレート名を変更する

「新しい SCENE テンプレートを作成する」の手順３で、SCENE テンプレートの名前を選び、⑧ENTER キーを押す。

・ 文字を変更するには、⑧△ / ▽ キーを押します。
・ 変更したい文字の位置へ「＿」（下線）を移動するには、⑧◁ / ▷ キーを押します。
・ 変更した名前を無効にするには、⑨RETURN キーを押します。
・ 変更した名前を確定するには、⑧ENTER キーを押します。

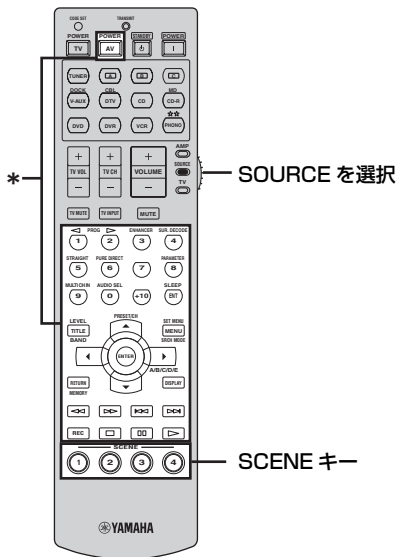
SCENE（シーン）機能でのリモコンの役割と操作

■ SCENE 機能で使用できるキー

SCENE 機能で楽しむ外部機器のリモコンコードを設定すれば、本機のリモコンを使って外部機器を操作できます。リモコンコードの設定方法について詳しくは、「リモコンコードを設定する」（81 ページ）をご覧ください。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選んでください。

1 楽しみたいシーンの ⑪**SCENE** キーを押す。

2 ＊で示されているキーを押して、SCENE 機能で楽しむ機器を操作する。

* この部分で示されているキーを使って、SCENE 機能で楽しむ機器を操作できます。

■ SCENE キーで呼び出す入力ソースを変更する

「SCENE テンプレートを 入れ替える」（29 ページ）や「新しい SCENE テンプレートを作成する」（32 ページ）で、各 SCENE キーで呼び出す入力ソースを変更した場合に、変更後もリモコンで入力ソースを操作できるように SCENE キーの設定を変更します。

1 入力ソースを変更したシーンの⑪**SCENE**キーを押しながら、変更した入力ソースの入力選択キー（④）を押し続ける。
⑫TRANSMIT インジケーターが 2 回点滅します。

2 ⑫**TRANSMIT**インジケーターがもう2回点滅するまで、さらに押し続ける。

ご注意

設定に失敗した場合は、⑫TRANSMIT インジケーターが繰り返し点滅します。この場合は設定を始めからやり直してください。

基本操作

再生する

警告
DTS-CD を再生するときは、特に注意が必要です。DTS-CD を DTS 非対応の CD プレーヤーで再生するとノイズだけが再生され、スピーカーが故障する原因になります。お使いの CD プレーヤーが DTS-CD の再生に対応していることをご確認ください。また、DTS-CD を再生する前に音量が十分に下げられていることをご確認ください。

デジタル接続をして DTS-CD を楽しむときは、再生する前に「INPUT MENU」の「DECODER MODE」を「DTS」に設定してください（74 ページ）。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

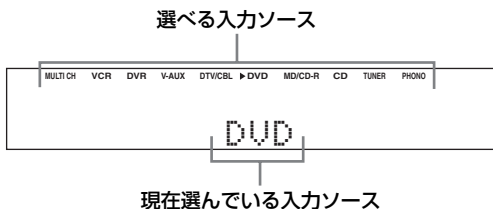
基本的な操作

1 本機に接続したモニターの電源をオンにする。

モニター画面に入力信号の情報を表示できます。詳しくは 38 ページをご覧ください。

2 ⓠINPUT セレクターを回して（または入力選択キー（④）を押して）、再生したい入力ソースを選ぶ。

現在選んでいる入力ソース名がフロントパネルディスプレイに数秒間表示されます。

選べる入力ソース

現在選んでいる入力ソース

いずれかのリモコンキーを押すと、現在選んでいる入力ソースに対応する入力選択キーが約５秒間点灯し、どの機器が現在選ばれているかをお知らせします。

3 入力機器を再生する、または FM ／ AM 放送局を選ぶ。

・ 外部機器の操作については、外部機器に付属している取扱説明書をご覧ください。
・ FM ／ AM 放送局の選びかたについては、45 ページをご覧ください。

4 ⓙVOLUME コントロールを回して（または ⑮VOLUME ＋ / －キーを押して）、音量を調節する。

・各スピーカーの音量を調節するには、44 ページをご覧ください。
・録音時の音量には影響しません。
・電源をオンにしたときの音量の最大値や、音量の初期値を設定できます（69 ページ）。

5 ⓜPROGRAM セレクターを回して（または ㉑PROG◁ / ▷ キーを繰り返し押して）、楽しみたい音場プログラムを選ぶ。

選んだ音場プログラムの名前がフロントパネルディスプレイに表示されます。音場プログラムについて詳しくは、40 ページをご覧ください。

現在選んでいる音場プログラム

ご注意

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません。

・音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
・入力ソースを選ぶと、本機は前回その入力ソース選択時に選んでいた音場プログラムを自動的に呼び出します。
・現在選んでいる音場プログラムの情報をモニター画面に表示できます。詳しくは、54 ページをご覧ください。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機の MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声を再生します。

ⓆINPUT セレクターを回して（または ㉕MULTI CH IN キーを押して）、マルチチャンネル入力を選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「MULTI CH」と表示されます。

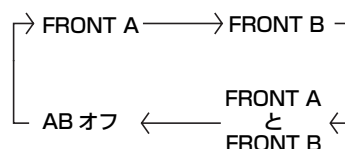
「INPUT MENU」の「MULTI CH」で、マルチチャンネル入力の設定を変更できます（73 ページ）。

ご注意

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません。

フロントスピーカーを選ぶ

音声を出力するフロントスピーカー（FRONT A、FRONT B）を選びます。

ⒶSPEAKERS キーを繰り返し押して、FRONT A または EXTRA SP 端子に接続したスピーカーのオン／オフを切り替える。
音声を出力するスピーカーが、以下のように切り替わります。

ご注意

・「EXTRA SP ASSIGN」（65 ページ）が「PRESENCE」または「NONE」に設定されている場合、「AB オン」または「B オン」は設定できません。
・フロントスピーカーを選ぶときは、音量を下げてから操作してください。

■ 別の部屋で再生を楽しむ

「EXTRA SP ASSIGN」（65 ページ）を「ZONE B」に設定すれば、EXTRA SP 端子に接続したスピーカーを別の部屋（ゾーン B）に設置して再生を楽しめます。

ⒶSPEAKERS キーを繰り返し押して、ゾーン B スピーカーのオン／オフを切り替える。
ゾーン B スピーカーをオン、フロント A スピーカーをオフにすると、メインリスニングルームに設置したすべてのスピーカーからは音が出なくなります。

ご注意

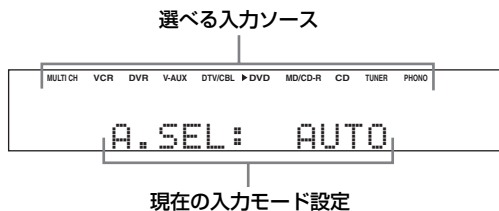
ゾーン B スピーカーがオン、フロント A スピーカーがオフのときに音場プログラムを選ぶと、自動的にバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります（43 ページ）。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

音声を入力する端子を選ぶ（入力モード切り替え）

本機は複数種類の入力端子を装備しています。1 つの再生機器を 2 種類以上の音声端子を使って接続している場合に、どの端子から音声を入力するかを選びます。

- 通常は「AUTO」に設定することをおすすめします。
- 「OPTION MENU」の「AUDIO SELECT」で、本機の電源を入れたときに、前回設定した入力モードをそのまま使うか AUTO に戻すかを設定できます（77 ページ）。

ⓟAUDIO SELECT キー（または操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉖AUDIO SEL キー）を繰り返し押して、音声を入力する端子を切り替える。

表示	説明
AUTO	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）HDMI （2）デジタル （3）アナログ
HDMI	HDMI 端子を選びます。HDMI 信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
COAX/OPT	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）同軸デジタル （2）光デジタル 同軸／光デジタル信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
ANALOG	アナログ端子を選びます。アナログ信号が入力されていない場合、音声は出力されません。

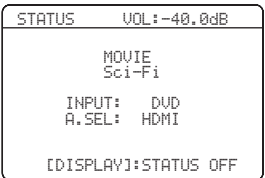
ご注意

HDMI、および同軸／光デジタル端子に再生機器が割り当てられていない場合、その端子は選べません。また、選んだ端子に再生機器が接続されていない場合、音声は出力されません。端子の割り当ては、「INPUT MENU」の「I/O ASSIGNMENT」で変更できます（73 ページ）。

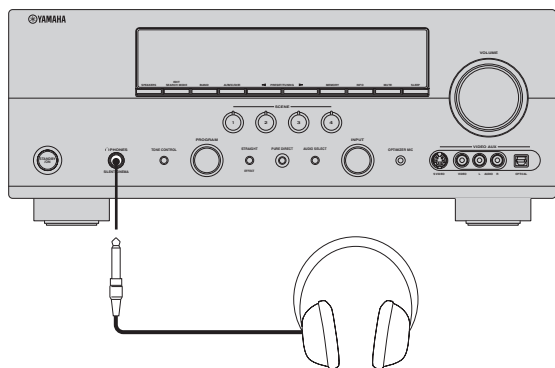
モニターに現在の状態を表示する

本機に接続したモニターに、現在の状態を表示できます。

1 本機に接続したモニターの電源をオンにする。

2 リモコンの ⑳DISPLAY キーを押す。
現在の状態がモニターに表示されます。

- 「OPTION MENU」の「OSD-AMP」で、表示する時間を設定できます（76 ページ）。
- 表示画面を消すには、もう一度 ⑳DISPLAY キーを押します。
- 本機の表示画面信号は本機の DVR VIDEO OUT、および VCR VIDEO OUT 端子から出力されないので、表示画面が映像と一緒に録画されることはありません。

ヘッドホンで再生を楽しむ

フロントパネルの PHONES 端子とヘッドホンを、ヘッドホン用ケーブルを使って接続する。

ヘッドホンを接続しているときに音場プログラムを選ぶと、自動的にサイレントシネマ™ モードに切り替わります（43 ページ）。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときは、スピーカーから音声は出力されません。
- ドルビーデジタル、および DTS 信号はヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます。

一時的に音量を下げる

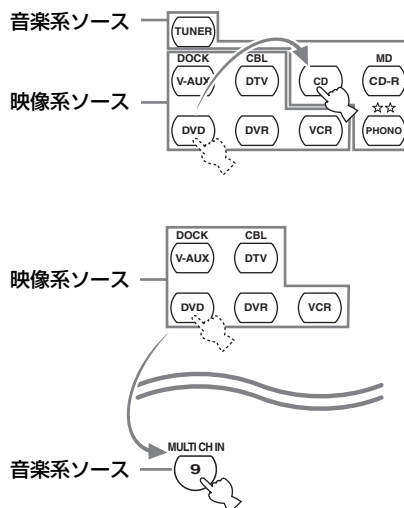
リモコンの ⑰MUTE キー（または本体の ⒽMUTE キー）を押す。

もとの音量に戻すときは、もう一度 ⑰MUTE キーを押してください。

- フロントパネルの ⒿVOLUME コントロールを回して（またはリモコンの ⑮VOLUME + / −キーを押して）、ミュートを解除することもできます。
- 「VOLUME MENU」の「MUTE TYPE」で、下げる音量を選べます（69 ページ）。
- 音量を一時的に下げているときは、フロントパネルディスプレイに MUTE インジケーターが点滅します。もとの音量に戻すと、インジケーターは消灯します。

音声と映像で異なる入力ソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、映像系入力ソースの映像と、音楽系入力ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。例えば、美しい景色をビデオで見ながら、クラシック音楽を楽しめます。

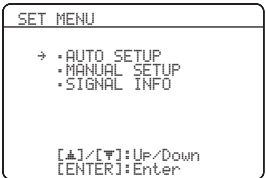
リモコンの入力選択キー（④）を押して、映像系ソースを選んでから、音楽系ソースを選ぶ。

- 「MULTI CH」も音楽系ソースとして選べます（35 ページ）。操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉕MULTI CH IN キーを押してください。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声を他の機器の映像と一緒に楽しむには、「MULTI CH」の「BGV」で、映像系入力ソースを選んでください（75 ページ）。

基本操作

入力信号情報を表示する

音声および映像入力信号の情報をモニターに表示します。

1 操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、リモコンの ⑲SET MENU キーを押す。
SET MENU 画面が表示されます。

```
SET MENU

  → ・AUTO SETUP
    ・MANUAL SETUP
    ・SIGNAL INFO

    [▲]/[▼]:Up/Down
    [ENTER]:Enter
```

2 ⑧▽ キーを繰り返し押して「SIGNAL INFO」を選び、⑧ENTER キーを押す。
入力信号の音声情報が表示されます。

3 ⑧◁ / ▷ キーを押して、音声情報と映像情報を切り替える。

4 ⑲SET MENU キーを押して、終了する。

■ 音声情報

表示	説明
FORMAT	フォーマットを表します。本機がデジタル信号を認識できないときは、自動的にアナログ入力に切り替わります。
SAMPLING	アナログ信号をデジタル信号化するときの、1 秒あたりのサンプル数を表します。
CHANNEL	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント／サラウンド／LFE)。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。
BITRATE	入力信号の 1 秒あたりのデータ量を表します。
DIALOG	ドルビーデジタル、DTS のダイアログノーマライゼーションレベルを表します。
FLAG	ドルビーデジタル、DTS、PCM に含まれている、自動的にデコーダー（「サラウンド EX」など）を切り替えるための識別信号を表します。

ご注意

・本機が情報を正しく表示できない場合は、「－－－」と表示されます。
・AAC 信号のビットレートは再生中に変化する場合があります。

■ 映像情報

表示	説明
HDMI SIGNAL	映像入力信号と、HDMI OUT 端子から出力している映像信号を表します。
HDMI RES.	HDMI 映像入力信号の解像度を表します。
ANALOG RES.	アナログ映像出力信号の解像度を表します。
HDMI ERROR (HDMI MESSAGE)	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。

ご注意

本機が情報を正しく表示できない場合は、「－－－」と表示されます。

HDMI エラー情報

メッセージ	原因
DEVICE OVER	制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。
HDCP ERROR	HDCP の認証に失敗しました。
Out of Res.	HDMI 出力信号の解像度がテレビの許容範囲を超えています。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

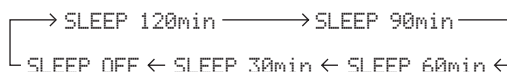
設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面の AC アウトレット（26 ページ）に接続した機器の電源もオフになります。

ご注意

本機に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod を充電しているときは、本機の電源がスタンバイでも AC アウトレットから電源が供給されます。

操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、⑱SLEEP キー（または ⓘSLEEP キー）を繰り返し押して時間を設定する。

⑱SLEEP キーを押すごとに、下記のように設定が切り替わります。

→ SLEEP 120min → SLEEP 90min
SLEEP OFF ← SLEEP 30min ← SLEEP 60min ←

時間を選んでいるあいだは、フロントパネルディスプレイに SLEEP インジケーターが点滅します。SLEEP インジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了し、音場プログラム表示に戻ります。

■ スリープタイマーを解除する

フロントパネルディスプレイに「SLEEP OFF」と表示されるまでリモコンの ⑱SLEEP キーを繰り返し押す。

SLEEP インジケーターが消灯し、数秒後にフロントパネルディスプレイの「SLEEP OFF」表示が消えます。

⑬STANDBY キー（または ⓀSTANDBY/ON キー）を押して本機の電源をスタンバイにした場合もスリープタイマーは解除されます。

音場プログラムを楽しむ

本機は 2 チャンネルソースやマルチチャンネルソースのほぼすべてをマルチチャンネル音声で楽しめる、多彩なデコーダーを装備しています。また、音の楽しさを広げる、音場プログラムが記憶されたヤマハ・デジタルサウンドフィールドプロセッシング（DSP）チップを搭載しています。

音場プログラムを選ぶ

Ⓜ PROGRAM セレクターを回す（または操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉑ PROG ◁ / ▷ キーを繰り返し押す）。

選んだ音場プログラムの名前がフロントパネルディスプレイ、およびモニターに表示されます。

ご注意

- 入力ソースを選ぶと、本機は前回その入力ソース選択時に選んでいた音場プログラムを自動的に呼び出します。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません（35 ページ）。
- Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio 信号を再生している場合、音場プログラムは適用されません。
- 入力ソースが 96kHz を超えるサンプリング周波数の場合、音場プログラムは適用されません。

音場プログラムガイド

音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

■ 音楽用音場プログラム

音楽用には、ピュアダイレクトモードもおすすめします（44 ページ）。

ご注意

- スピーカーの設定により、設定を変更できる音場パラメーターは変化します。
- 「DIALG.LIFT」は、「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」が「PRESENCE」に設定されているときのみ設定できます（65 ページ）。

CLASSICAL（クラシカル）

プログラム	特長
Hall in Munich（ホール イン ミュンヘン）	ヨーロッパに多くみられる、内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna（ホール イン ウィーン）	1700 席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber（チェンバー）	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。

LIVE/CLUB（ライブ/クラブ）

プログラム	特長
Cellar Club（セラー クラブ）	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre（ザ ロキシー シアター）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約 460 程です。客席中央左寄りの音場です。
The Bottom Line（ザ ボトム ライン）	かつてニューヨークに存在した有名なライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長の音場です。

■ すべてのソース用音場プログラム

ご注意

・入力ソースや本機の設定により、設定を変更できる音場パラメーターや、生成される音場は変化します。
・「DIALG.LIFT」は、「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」が「PRESENCE」に設定されているときのみ設定できます（65 ページ）。

ENTERTAINMENT（エンターテイメント）

プログラム	特長
Sports（スポーツ）	ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し、歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感できます。
Action Game（アクション ゲーム）	カーレースや FPS などのアクションゲームに合わせてデザインされた音場です。チャンネル毎に効果の範囲を制限した反射音データを用いることで、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力のあるプレイ環境を提供します。
Roleplaying Game（ロールプレイング ゲーム）	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせてデザインされた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせることで、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。
Music Video（ミュージック ビデオ）	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。

■ 映像用音場プログラム

下記の音場プログラム（Mono Movie 以外）と組み合わせるデコーダーを選べます。詳しくは59 ページをご覧ください。

ご注意

・入力ソースや本機の設定により、設定を変更できる音場パラメーターや、生成される音場は変化します。
・「DIALG.LIFT」は、「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」が「PRESENCE」に設定されているときのみ設定できます（65 ページ）。

MOVIE（ムービー）

プログラム	特長
Standard（スタンダード）	ドルビーデジタル、DTS および AAC などの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。
Spectacle（スペクタクル）	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面にマッチする広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広い音場感が特長です。
Sci-Fi（サイファイ）	最新 SFX 映画の緻密なサウンドデザインを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の異なった空間を鮮やかに再現します。
Adventure（アドベンチャー）	アクション＆アドベンチャー映画に最適な音場です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama（ドラマ）	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie（モノ ムービー）	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめる音場です。音声に拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。

基本操作

■ ステレオ再生用音場プログラム

ご注意

入力ソースや本機の設定により、設定を変更できる音場パラメーターは変化します。

STEREO (ステレオ)

プログラム	特長
2ch Stereo (2チャンネル ステレオ)	前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な再生モードです。
7ch Stereo (7チャンネル ステレオ)	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の再生モードです。ホームパーティーの BGM に最適です。セットメニューの設定により、最大 7 つのスピーカーから音が出力されます。

■ コンプレストミュージック・エンハンサー

MUSIC ENHANCER (ミュージック エンハンサー)

プログラム	特長
Straight Enhancer (ストレート エンハンサー)	2 チャンネル／マルチチャンネル圧縮オーディオフォーマットを、音源のチャンネル数はそのままにダイナミックに再生します。
7ch Enhancer (7チャンネル エンハンサー)	7 チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。

■ サラウンドデコーダー

SUR. DECODE (サラウンド デコード)

プログラム	特長
Sur. Decoder (サラウンド デコーダー)	デコーダーを選んで 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで再生するときに選びます。詳しくは、59 ページをご覧ください。

■ サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

サラウンドスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマ DSP モードにより、臨場感あふれる音場再生を楽しめます。バーチャルシネマ DSP モードでは、仮想スピーカーを創り出すことによって自然な音場を再現します。「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すれば（66 ページ）、音場プログラム（40 ページ）を選んでいるときは自動的にバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

ご注意

以下の場合は、「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定しても（66 ページ）、バーチャルシネマ DSP モードには切り替わりません。
－MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を入力選択しているとき（35 ページ）
－ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているとき
－7ch Stereo を選んでいるとき

■ ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ ™）

サイレントシネマ ™ では、ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネルソースを、ヘッドホンで楽しめます。音場プログラム（40 ページ）を選んでいるときにヘッドホンを PHONES 端子に接続すれば、自動的にサイレントシネマ ™ モードに切り替わります。サイレントシネマ ™ モードで再生しているあいだは、フロントパネルディスプレイの SILENT CINEMA インジケーターが点灯します。

ご注意

・MULTI CH INPUT 端子に接続した機器は、サイレントシネマ ™ モードで再生できません（35 ページ）。
・ピュアダイレクトモード（44 ページ）、または 2ch Stereo（42 ページ）、ストレートデコードモードを選んでいる場合は、サイレントシネマ ™ モードは無効になります。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードでは、2 チャンネルソースをフロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、ソースを適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

ⓃSTRAIGHT キー（または ㉔STRAIGHT キー）を押して、「Straight」を選ぶ。

■ ストレートデコードモードを解除する

ⓃSTRAIGHT キー（または ㉔STRAIGHT キー）をもう一度押して、フロントパネルディスプレイの「Straight」表示を消す。

音場プログラム名が表示され、音場効果をかけた状態に戻ります。

その他の音声機能

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯AMP を選んでください。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクトモード）

入力ソースを原音に忠実な高品質音声で再生します。ピュアダイレクトモードをオンにすると、音声入力信号を最小限の回路構成で再生します。

Ⓞ PURE DIRECT キー（または ㉗PURE DIRECT キー）を押して、ピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替える。

ピュアダイレクトモードで再生しているあいだは、フロントパネルの ⓄPURE DIRECT キーが点灯し、フロントパネルディスプレイは消灯します。

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、以下の設定が無効になります。
  - 音場プログラムの切り替え
  - モニター画面表示
  - セットメニューでの設定変更（音量の設定以外）
  - すべてのビデオ機能（ビデオコンバージョン機能など）
- 本機の電源をスタンバイにすると、ピュアダイレクトモードは自動的に解除されます。

ピュアダイレクトモードで再生中に入力切り替えや音量調節などの操作をすると、フロントパネルディスプレイが数秒間だけ点灯します。

音色を調節する（トーンコントロール）

フロント左／右スピーカーまたはヘッドホン（接続時のみ）の低音域と高音域のバランスを調節します。

設定はスピーカー用とヘッドホン用で別々に保存されます。

1 フロントパネルの ⓁTONE CONTROL キーを繰り返し押して、低音域（BASS）または高音域（TREBLE）を選ぶ。

2 ⓂPROGRAM セレクターを回して、音色を調節する。

調節範囲：－10.0dB ～＋10.0dB

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモードで再生しているときや MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているとき（35 ページ）は音色を調節できません。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているときも調節できます。

ご注意

「AUTO SETUP」（「スタートアップガイド」9 ページ）や「SP LEVEL」（67 ページ）で各スピーカーの音量を調節している場合は、設定が上書きされます。

1 リモコンの ⑦LEVEL キーを押してから、⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して、調節するスピーカーを選ぶ。

表示	調節するスピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SUR. L	サラウンド左スピーカー
SUR. R	サラウンド右スピーカー
SBL	サラウンドバック左スピーカー
SBR	サラウンドバック右スピーカー
SWFR	サブウーファー
PRNS L	プレゼンス左スピーカー
PRNS R	プレゼンス右スピーカー

- 各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。
- モニター画面をオンにしているときは、「LEVEL」メニューが表示されます。

2 ⑧◁ / ▷ キーを押して、音量を調節する。

- 音量を上げるには、⑧▷ キーを押します。
- 音量を下げるには、⑧◁ キーを押します。

調節範囲：－10.0dB ～＋10.0dB

3 ⑦LEVEL キーを押して、音量の調節を終了する。

FM ／ AM 放送を聴く

選局方法を選ぶ

FM ／ AM 放送は、大別して 2 種類の方法で受信できます。

ノーマルチューニングモード（AUTO TUNING ／ MANUAL TUNING）
周波数をサーチしたり、直接指定したりして FM ／ AM 放送を自動、または手動で受信します（下記「ノーマルチューニングモードで選局する」）。

プリセットチューニングモード（PRESET TUNING）
FM ／ AM 放送局をプリセット（登録）しておき、プリセットグループとプリセットナンバーを指定することによって簡単に呼び出します（「プリセットチューニングモードで選局する」（46 ページ））。

ご注意

受信感度が最良になるように、本機に接続した FM ／ AM アンテナの向きや位置を調節してください。

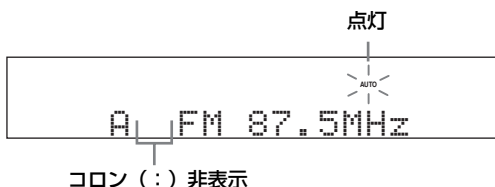
ノーマルチューニングモードで選局する

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、④TUNER キーを押してください。

1 ⓠINPUT セレクターを回して（または ④TUNER キーを押して）、「TUNER」を入力選択する。

2 ⓒBAND キー（または ⑦BAND キー）を押して、バンドを選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「FM」、または「AM」と表示されます。

3 ⓑSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を押して、受信方法を選ぶ。

- **オート選局モード（AUTO TUNING）**
  電波が強く、受信を妨げる障害物がない場合に効果的です。
  フロントパネルディスプレイに「AUTO TUNING」と数秒間表示され、AUTO インジケーターが点灯します。

- **マニュアル選局モード（MANUAL TUNING）**
  受信したい放送局の電波が弱く、オート選局モードで受信できない場合に使います。FM 放送局を受信する場合は自動的にモノラル受信が行われ、電波が弱い場合でもよりよい受信状態で音声をお楽しみいただけます。
  フロントパネルディスプレイに「MANUAL TUNING」と数秒間表示されます。

A FM 87.5MHz

コロン（：）非表示

- **プリセットチューニングモード（PRESET TUNING）**
  あらかじめ登録しておいた放送局の中から、受信する放送局を選びます。
  フロントパネルディスプレイに「PRESET TUNING」と数秒間表示されます。このとき、周波数ダイレクト選局では受信できません。詳しくは 46 ページをご覧ください。

4 ⓔPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑧PRESET/CH△ / ▽ キー）を繰り返し押して、放送局を受信する。
- ⓔ▷ キー（または ⑧△ キー）を押すと、低い周波数から高い周波数へ向かって選局します。
- ⓔ◁ キー（または ⑧▽ キー）を押すと、高い周波数から低い周波数へ向かって選局します。

- 放送局を受信すると、フロントパネルディスプレイに TUNED インジケーターが点灯します。
- マニュアル選局しているときにキーを押し続ければ、サーチを継続できます。
- ⓖINFO キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイに周波数と音場プログラムを表示できます。

基本操作

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、④TUNER キーを押してください。

■ 周波数ダイレクト選局

周波数を直接入力して、放送局を受信します。

1 ⑦BAND キーを繰り返し押して、バンドを選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「FM」、または「AM」と表示されます。

2 ⒷSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を押して、オート選局モード（AUTO TUNING）、またはマニュアル選局モード（MANUAL TUNING）を選ぶ。

フロントパネルディスプレイにコロン（：）が表示されている場合は、放送局の周波数を入力できません。ⒷSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を繰り返し押して、コロンを消してください。

3 数字キー（⑥）を押して、受信する放送局の周波数を入力する。
例：77.1MHz の放送局を受信する場合

受信範囲外の周波数が入力された場合、フロントパネルディスプレイに「WRONG STATION」と表示され、前回選局していた放送局が自動的に選局されます。

プリセットチューニングモードで選局する

AM／FM 放送局を 40 局（8 局×５グループ、A1 ～ E8）まで登録（プリセット）できます。
放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局できます。放送局を登録するには、「オートプリセットで登録する」（47 ページ）または「マニュアルプリセットで登録する」（47 ページ）をご覧ください。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、④TUNER キーを押してください。

1 ⒷSEARCH MODE キー（または ⑲SRCH MODE キー）を繰り返し押して、プリセットチューニングモード（PRESET TUNING）を選ぶ。

2 ⒺPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑧PRESET/CH△ / ▽ キー）を押して、プリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶ。
プリセットグループとプリセット番号がバンドや周波数とともにフロントパネルディスプレイに表示されます。

プリセットグループ、プリセット番号

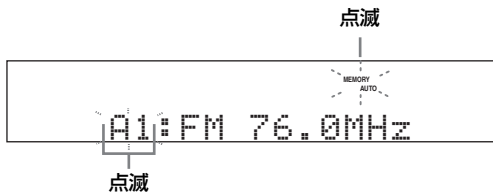
ⒹA/B/C/D/E キー（または ⑧A/B/C/D/E キー）を繰り返し押して、プリセットグループ（A ～ E）を切り替えることもできます。

■ オートプリセットで登録する

電波の強い FM 放送局を、自動的に 40 局（8局×5 グループ、A1 ～ E8）まで登録（プリセット）できます。
AM 放送局は自動で登録できません。手動で登録してください（右記参照）。

1 ⓠINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、④TUNER キーを押して）、TUNER を入力選択する。

2 ⓒBAND キー（または ⑦BAND キー）を押して、「FM」を選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「FM」と表示されます。

3 ⓕMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を 3 秒以上押し続ける。
プリセットグループ／番号と MEMORY インジケーター、AUTO インジケーターが点滅します。約 5 秒後に、現在の周波数から高い周波数に向かってオートプリセットを開始します。

オートプリセットが完了すると、MEMORY インジケーターが消灯します。

・オートプリセットを開始するプリセット番号を指定できます。手順 3 を操作したあとに、ⓓA/B/C/D/E キーを押してから ⓔPRESET/TUNING⊲ / ⊳ キーを繰り返し押して、最初のプリセット放送局を登録するプリセット番号を選んでください。
・登録を中止するには、選局しているときに ⓕMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を押してください。

ご注意

・同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
・オートプリセットでは、登録する放送局の数が 40（A1 ～ E8）に満たない場合には、登録されなかったメモリーに A1 からのプリセット放送局が順番に登録されます。
・オートプリセットでは、電波の強い FM 放送局だけが登録されます。AM 放送局や電波の弱い FM 放送局を登録したいときは、ノーマルチューニングモードで放送局を受信したあと、手動で登録してください（「マニュアルプリセットで登録する」右記参照）。

■ マニュアルプリセットで登録する

AM 放送局や、電波の弱い FM 放送を手動で登録します。

1 放送局を受信する。
受信方法については 45 ページ をご覧ください。

2 ⓕMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を押す。
フロントパネルディスプレイに MEMORY インジケーターが約 30 秒間点滅します。

登録を中止するには、選局しているときに ⓕMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を押してください。

3 MEMORY インジケーターが点滅しているあいだに、ⓔPRESET/TUNING⊲ / ⊳ キー（または ⑧PRESET/CH△ / ▽ キー）を繰り返し押して、プリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶ。
・ⓔ⊳ キー（または ⑧△ キー）を押すと、低いプリセットグループ／番号から高いプリセットグループ／番号へ向かって選局します。
・ⓔ⊲ キー（または ⑧▽ キー）を押すと、高いプリセットグループ／番号から低いプリセットグループ／番号へ向かって選局します。

ⓓA/B/C/D/E キー（または ⑧A/B/C/D/E キー）を繰り返し押して、プリセットグループ（A ～ E）を切り替えることもできます。

4 MEMORY インジケーターが点滅しているあいだに、ⓕMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を押す。
バンドや周波数がプリセットグループとプリセット番号とともにフロントパネルディスプレイに表示されます。MEMORY が消灯します。

基本操作

ご注意

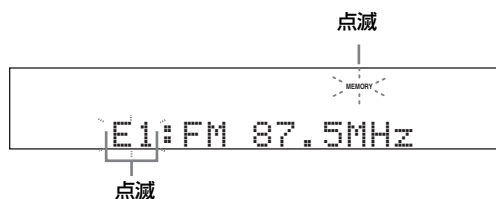
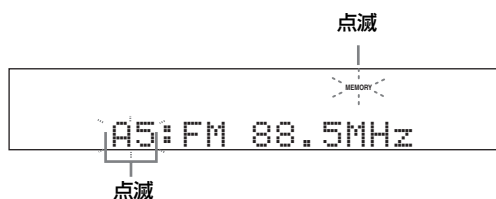
・同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
・放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

■ プリセットした放送局を入れ替える

オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使って登録した放送局を入れ替えられます。
ここでは例として、「E1」（E= プリセットグループ、1= プリセット番号）に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑯SOURCE を選び、④TUNER キーを押してください。

1 ⒹA/B/C/D/E キーと ⒺPRESET/TUNING⊲ / ⊳ キーを押して、「E1」を選ぶ。
「プリセットチューニングモードで選局する」をご覧ください（46 ページ）。

2 ⒷEDIT キーを 3 秒以上押し続ける。
フロントパネルディスプレイに「E1」、および MEMORY インジケーターが点滅します。

3 ⒹA/B/C/D/E キーと ⒺPRESET/TUNING⊲ / ⊳ キーを押して、「A5」を選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「A5」、および MEMORY インジケーターが点滅します。
「プリセットチューニングモードで選局する」をご覧ください（46 ページ）。

4 ⒷEDIT キーをもう一度押す。
フロントパネルディスプレイに「EXCHANGE E1-A5」と表示され、プリセット放送局が入れ替わります。

iPodを再生する

リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製iPod用ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットすれば（23ページ）、iPodを本機のリモコンで操作したり、モニター画面に表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードを選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3など）をダイナミックな音声で再生できます。

ご注意

- iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod miniに対応しています。
- iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、映像系ファイルの表示など、一部の機能が使えない場合があります。

- フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示されるメッセージについては、「故障かな？と思ったら」のiPod欄をご覧ください（91ページ）
- 本機とiPodとの通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示され、DOCKインジケーターが点灯します。
- DOCK端子には、iPodのアナログ音声信号およびアナログ映像信号のみ入力されます。入力されたアナログ音声信号はAUDIO OUT (REC)端子からのみ出力されます。
- 本機の電源がオンのとき、本機に接続したヤマハ製iPod用ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodは自動的に充電されます。また、「INPUT MENU」の「STANDBY CHARGE」で、本機の電源がスタンバイのときのiPodの充電モードを設定できます（74ページ）。iPodを充電しているときは、DOCKインジケーターが点灯します。

iPodを操作する

V-AUX/DOCKを入力選択すれば、iPodを操作できます。iPodは、モニター画面に表示されるメニューを見ながら行う「メニュー表示モード」と、iPodの画面を見ながら行う「ノーマルモード」の2種類の方法で操作できます。

■ リモコン操作

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで⑯**SOURCE**を選び、④**V-AUX**キーを押してください。

	キー	機能
⑧	ENTER	選んだメニューに入ります。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	1つ前の表示に戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑩	◁◁	巻き戻しします（長押し）。
	▷▷	早送りします（長押し）。
	▷▷|	次の曲の先頭にスキップします。
	|◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	▯▯	一時停止します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
	▷	再生します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
⑲	MENU	1つ前の表示に戻ります。
⑳	DISPLAY	メニュー表示モードに入る、または終了します。

■ ノーマルモードで操作する

ノーマルモードでは、モニター画面にメニューを表示させずに、リモコンを使って基本的な操作（再生、停止、スキップなど）ができます。

- iPodに保存されている映像系のファイルも楽しめます（一部モデルを除く）。
- iPod本体でも操作できます。

基本操作

■ メニュー表示モードで操作する

本機とモニターを映像接続すれば、モニター画面に表示されるメニューを見ながらリモコンを使ってさまざまな操作ができます。また、コンテンツの情報を見たり、お好みに合わせて設定を変更したりすることもできます。

- 「OPTION MENU」の「FL SCROLL」で、再生している曲のフロントパネルディスプレイでの表示方法を設定できます（76 ページ）。
- 「OPTION MENU」の「OSD-SOURCE」で、メニューや再生情報をモニター画面に表示させたときの表示時間を設定できます（76 ページ）。

ご注意

- iPod 本体では操作できません。
- 本機が表示できない文字は「＿」（アンダーバー）で表示されます。
- 「Settings」項目は、モニター画面に表示されるメニューでのみ変更できます。⑧∆ / ∇ キー、および⑧ENTER キーを押して、設定を変更してください。
- 映像系のファイルはメニュー表示モードでは選択できません。ノーマルモードで再生してください。

1 操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、④V-AUX キーを押す。

2 ⑳DISPLAY キーを押す。

メニュー画面がモニターに表示されます。

3 ⑧∆ / ∇ / ◁ / ▷ キーを押してメニュー項目を選び、⑧ENTER キーを押して再生する。

選択項目：Playlists（プレイリスト）、Artists（アーティスト）、Albums（アルバム）、Songs（曲名）、Genres （ジャンル）、Composers（作曲者）、Settings（設定メニュー）

- Playlists > Songs
- Artists > Albums > Songs
- Albums > Songs
- Songs
- Genres > Artists > Albums > Songs
- Composers > Albums > Songs
- Settings > Shuffle、Repeat

シャッフル Shuffle

曲やアルバムをランダムに再生します。

選択項目：**Off**、Songs、Albums

- ランダム再生しない場合は、「Off」を選んでください。
- 曲ごとにランダム再生する場合は、「Songs」を選んでください。
- アルバムごとにランダム再生する場合は、「Albums」を選んでください。

「Shuffle」が「Off」以外に設定されているときは、モニター画面の右上に「⤮」が表示されます。

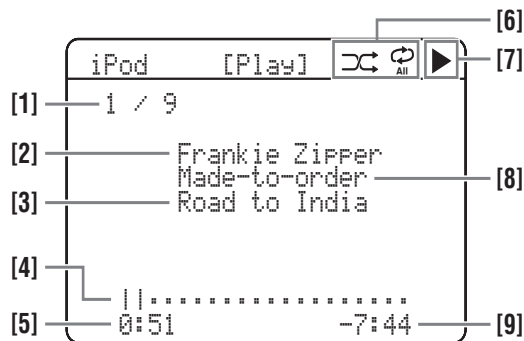
リピート Repeat

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。

選択項目：**Off**、One、All

- リピート再生しない場合は、「Off」を選んでください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は、「One」を選んでください。
- すべての曲をリピート再生する場合は、「All」を選んでください。

「One」または「All」を選んでいるときは、モニター画面の右上に「🔂」、または「🔁」が表示されます。

■ 再生情報画面の表示

[1] トラック番号／トラック数

[2] アーティスト名

[3] 曲名

[4] 進捗表示

[5] 経過時間

[6] シャッフル／リピート表示

[7] ▶（再生）、II（一時停止）、⏩（早送り）、⏪（巻き戻し）

[8] アルバム名

[9] 残り時間

Bluetooth® 機器を再生する

ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を DOCK 端子に接続すれば、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）をケーブルで接続することなく、Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを再生できます。再生する前に、Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器を「ペアリング」してください。

Bluetooth® アダプターと Bluetooth® 機器をペアリングする

Bluetooth 機器を Bluetooth アダプターを使って本機で再生する前に、「ペアリング」を行います。本機能をはじめて使う場合や、ペアリングしたデータが消去された場合は、必ず行ってください。「ペアリング」とは、Bluetooth で通信するために Bluetooth 機器を登録することです。

- ペアリングは、Bluetooth 機器と Bluetooth アダプターをはじめて使うときのみ必要です。
- Bluetooth で通信できるようにするには、本機および Bluetooth 機器の両方でペアリングしてください。必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

本機では、セットメニュー「START PAIRING」と、クイックペアリングの 2 種類の方法でペアリングできます。

■ セットメニューでペアリングする

モニターに表示されるメニューを見ながらペアリングします。「INPUT MENU」の「START PAIRING」を選んでください。詳しくは、74 ページをご覧ください。

■ クイックペアリングでペアリングする

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⓠINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、④V-AUX キーを押して）、V-AUX を入力選択する。

2 ペアリングしたいBluetooth機器の電源をオンにする。

3 ©BAND キー（または ⑦BAND キー）を、約 3 秒間押し続ける。

フロントパネルディスプレイに「Searching...」と一時的に表示され、DOCK インジケーターが点滅します。

ペアリングをキャンセルするには、再度 ©BAND キー（または ⑦BAND キー）を押します。

ご注意

Bluetooth アダプターが DOCK 端子に接続されていない場合は、フロントパネルディスプレイに「No BT Adapter」と表示されます。

4 Bluetooth機器がBluetoothアダプターを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth アダプターを認識している場合は、Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

5 BluetoothデバイスリストからBluetoothアダプターを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合は、フロントパネルディスプレイに「Completed」と表示されます。

ご注意

ヤマハ製 Bluetooth アダプターは 8 台までの Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の機器が正しくペアリングされ、ペアリングデータが登録された場合、最初にペアリングした機器のデータは消去されます。

Bluetooth® 機器の再生を楽しむ

1 ⓠINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選び、④V-AUX キーを押して）、V-AUX を入力選択する。

2 Bluetooth 機器の再生を開始する。

接続した Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器を認識すると、フロントパネルディスプレイに「BT connected」と表示され、DOCK インジケーターが点灯します。

- ⑧ENTER キーを押すと、接続した Bluetooth アダプターは最後に接続していた Bluetooth 機器を検索し、接続します。Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は、フロントパネルディスプレイに「Not found」と表示されます。
- Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器の接続を解除するには、⑨RETURN キーを押してください。

外部機器で録音／録画する

録音される音声の音量の調節や操作は、録音機器側で行います。詳しくは録音機器の取扱説明書をご覧ください。

警告
DTS 信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS 信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。DTS-CD または DTS DVD の音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。DTS-CD の音声を録音する場合は、DTS デコーダー内蔵の DVD プレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。詳しくは、お使いのプレーヤーに付属している取扱説明書をご覧ください。

ご注意

・本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音／録画できません。
・トーンコントロール（44 ページ）や音量の設定（34 ページ）、スピーカーの音量（44 ページ）、音場プログラム（40 ページ）の効果は、録音される音声に影響しません。
・MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声は録音できません。
・DIGITAL INPUT 端子に入力したデジタル信号は、録音用のアナログ AUDIO OUT (REC) 端子から出力されません。同様に、AUDIO IN 端子から入力したアナログ信号を DIGITAL OUTPUT 端子から出力することもできません。アナログ信号を録音する場合は、再生する機器をアナログ接続してください。同様に、デジタル信号を録音する場合は、再生する機器を同軸デジタルまたは光デジタル接続してください。
・再生している機器の音声／映像を、同じ機器で録音／録画できません。
・本機では、S ビデオまたはコンポジットビデオ端子から入力した映像信号を録画できます。S ビデオ映像を録画する場合は、再生する機器を S ビデオ接続してください。同様に、コンポジットビデオ映像を録画する場合は、再生する機器をコンポジットビデオ接続してください。
・DOCK 端子から入力した音声信号は、AUDIO OUT (REC) 端子からのみ録音できます。
・あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」、「試し録画」をしてください。

コピー防止機能のあるビデオを再生すると、画像が乱れる場合があります。

1 **本機と本機に接続されているすべての機器の電源をオンにする。**

2 **⑳INPUT セレクターを回して（または、入力選択キー（④）を押して）、録音／録画したい機器を選ぶ。**

3 **録音／録画する音声や映像を再生する、または FM ／ AM 放送局を選ぶ。**

4 **録音／録画機器を操作して、録音／録画を開始する。**

HDMIコントロール機能を使う

HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作できます。

- 電源のオン／スタンバイ（テレビ連動）
- 音量の調節（上／下、消音）
- 音声を出力する機器の切り替え（テレビ⇔本機）
- テレビや、テレビと接続した機器の音声信号を本機で再生
- 本機と HDMI 接続した HDMI コントロール機能対応機器とのリンク動作

HDMI を使ったコントロール機能に対応している機器の例として、パナソニック製ビエラリンク対応テレビ「ビエラ」、DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー「ディーガ」、東芝製レグザリンク対応テレビ「REGZA」などがあります。テレビや DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー／ HD DVD レコーダーは、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。

- HDMI を使ったコントロール機能に対応している DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー／ HD DVD レコーダー（一部を除く）を HDMI 接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくは DVD レコーダー／ブルーレイレコーダー／ HD DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- 下記の設定時には、テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

1 HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビと本機を HDMI 接続する。

HDMI や HDMI 接続について詳しくは、「HDMI について」（16 ページ）、および「テレビやプロジェクターを接続する」（18 ページ）をご覧ください。テレビの取扱説明書では、AV アンプとの接続方法をご覧ください。

2 HDMI 接続しているすべての機器の電源をオンにする。

外部機器の操作について詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

3 HDMI 接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。

「HDMI CONTROL」（78 ページ）を「ON」に設定してください。外部機器の設定について詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。
手順 1 ～手順 3 までは、一度操作すれば二回目以降は必要ありません。

4 テレビの電源をオフにする。

5 HDMI 接続している、テレビ以外の機器の電源がオンになっていることを確認する。

オフになっている場合は、オンにしてください。

6 テレビの電源をオンにする。

7 テレビの入力を、本機に接続した入力（[HDMI] など）に切り替える。

8 本機の入力を、DVD レコーダーまたはブルーレイレコーダー、HD DVD レコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

9 テレビのリモコンで、本機の電源オン／スタンバイや音量の調節、音声出力機器の切り替えなどの操作をする。

- 「STANDBY THROUGH」（78 ページ）を「ON」に設定している場合、本機の電源がスタンバイのときでも本機と HDMI 接続した機器の映像や音声をテレビで再生できます。
- 本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。
  - 「HDMI CONTROL」（78 ページ）が「ON」に設定されている
  - テレビの設定で、HDMI を使ったコントロール機能が有効になっている（テレビの取扱説明書参照）

  テレビの電源をオン／オフしたり、電源プラグをコンセントに接続し直したりすると、正常に動作する場合もあります。
- HDMI 以外の音声を再生しているときには、テレビのリモコンを操作してテレビの電源をオフにしても、本機の電源はスタンバイになりません。そのまま再生を楽しめます。

ご注意

「STANDBY THROUGH」（78 ページ）を「OFF」に設定している場合、本機の電源がスタンバイのときは HDMI コントロール機能ははたらきません。テレビの電源と連動して本機の電源のオン／スタンバイを切り替える場合は、「ON」に設定してください。

> 「STANDBY THROUGH」を「ON」に設定している場合、待機時消費電力をより多く消費しますので、「OFF」に設定するか、長期間本機を使用しない場合は電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。
> 使用を再開するときは、手順 2 から設定し直すことをおすすめします。

基本操作

音声出力を詳細に設定する

音場パラメーターを変更する

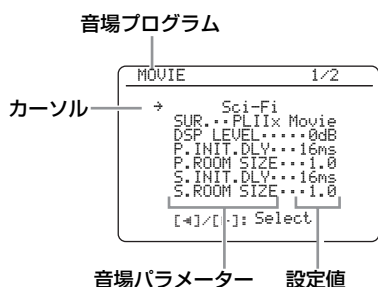
音場プログラムは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場プログラムを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果をアレンジできます。

ご注意

「OPTION MENU」の「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているときは、音場パラメーターを変更できません（77 ページ）。変更する前に「OFF」に設定してください。

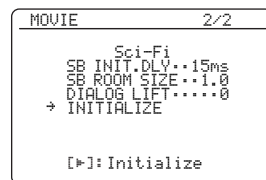
1　本機に接続したモニターの電源をオンにする。

2　操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉘PARAMETER キーを押す。

以下の画面がモニターに表示されます。

3　㉑PROG◁ / ▷ キーを押して、パラメーターを変更したい音場プログラムを選ぶ。

4　⑧△ / ▽ キーを押して、変更したい音場パラメーターを選び、⑧◁ / ▷ キーを押して、設定値を変更する。

- 数値を大きくするには、⑧▷ キーを押します。
- 数値を小さくするには、⑧◁ キーを押します。

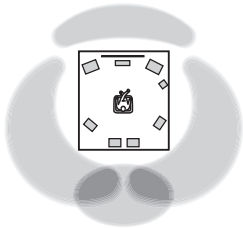
- 音場パラメーターの機能や調節範囲について詳しくは、55 ページをご覧ください。
- 初期設定値を変更すると、モニターに表示されている音場パラメーター名の左側にアスタリスク（＊）が表示されます。
- 他の音場パラメーターの設定を変更する場合は、手順 3 と手順 4 を繰り返してください。
- 音場プログラムの中には、音場パラメーターの表示がモニター上で 1 ページを超えるものがあります。このような場合は、⑧△ / ▽ キーを押してページを切り替えてください。
- 選んだ音場プログラムのパラメーターを初期設定に戻すには、⑧▽ キーを繰り返し押して「INITIALIZE」を選び、⑧▷ キーを押します。確認画面がモニター画面に表示されたら、⑧▷ キーを押して確定するか、⑧◁ キーを押してキャンセルしてください。

5　㉘PARAMETER キーを押して、音場パラメーターの設定を終了する。

■　基本的な音場パラメーター

それぞれの音場プログラムは、プログラムの性格を特徴付けているパラメーターを持っています。音場プログラムを変更するときは、はじめに「DSP LEVEL」および「DIALG.LIFT」を調節し、音場効果を一度確認したあとでその他のパラメーターを変更することをおすすめします。

音場パラメーターの変更のしかたについて詳しくは、54ページをご覧ください。

エフェクト量の調節（DSP LEVEL）

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境に合わせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

エフェクト量：小　　エフェクト量：大

「DSP LEVEL」は、以下のように調節してください。

- 効果音が小さく感じられる
- 各音場プログラム間の違いが感じ取れない

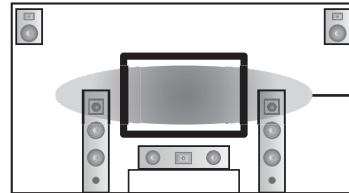
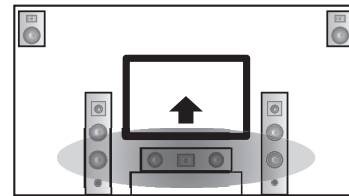
効果レベルを大きくする

- 音がぼんやりと聴こえる
- 音場効果のかかり具合が過剰に感じられる

効果レベルを小さくする

可変範囲：－6dB ～＋3dB

セリフの上下位置調節（DIALG.LIFT）

プレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなど、中央に定位する音の定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。

セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合、セリフの上下位置を上へ移動してください。

理想的な定位位置に移動

選択項目：**0**、1、2、3、4、5
「0」（初期設定値）が最も低く、「5」が最も高い位置です。

ご注意

- 「DIALG.LIFT」は、「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」に設定しているときのみ調節できます（65 ページ）。
- セリフの上下位置を初期設定よりも下にすることはできません。

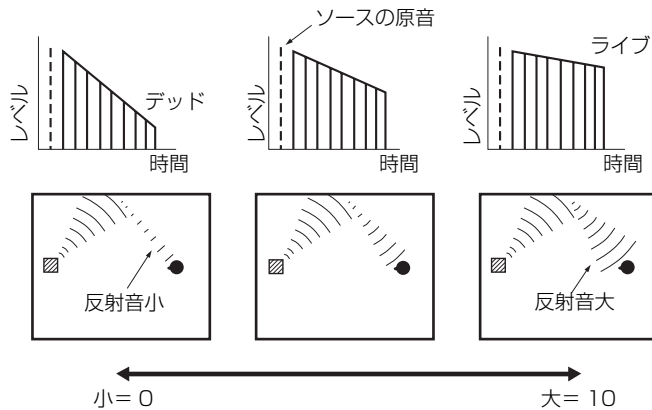
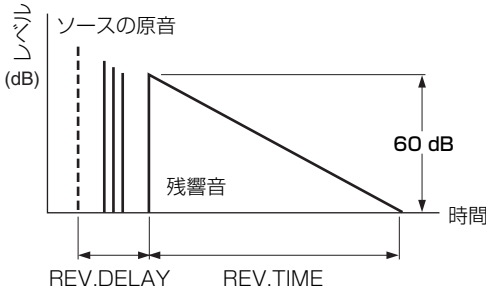
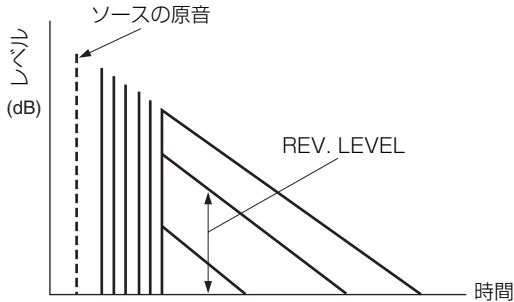
応用操作

■ その他の音場パラメーター

音場プログラムをカスタマイズするには、以下の音場パラメーターで設定を変更してください。

音場パラメーターの変更のしかたについて詳しくは、54 ページをご覧ください。

音場パラメーター	特長
INIT.DLY P.INIT.DLY S.INIT.DLY SB INI.DLY	直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。このパラメーターを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。 遅延時間を調節するときは、対応する音場の空間の大きさも調節することをおすすめします。本設定は、シネマ DSP 音場プログラムを選んでいる場合に特に効果的です。
	可変範囲：1 ～ 99ms（INIT.DLY、P.INIT.DLY） 1 ～ 49ms（S.INIT.DLY、SB INI.DLY）
ROOM SIZE P.ROOM SIZE S.ROOM SIZE SB ROOM SIZE	空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0 で実測値そのまま、2.0 にすると、1 辺の長さが倍の空間になります。 空間の大きさを調節するときは、対応する音場の遅延時間も調節することをおすすめします。本設定は、シネマ DSP 音場プログラムを選んでいる場合に特に効果的です。
	可変範囲：0.1 ～ 2.0

音場パラメーター	特長
LIVENESS S.LIVENESS SB LIVENESS	初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。
	可変範囲：0 ～ 10
REV.TIME	後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIME を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節したりすることができます。
	可変範囲：1.0 ～ 5.0s

<table>
<tr><th>音場パラメーター</th><th>特長</th></tr>
<tr><td rowspan="3">REV.DELAY</td><td>残響音が発生しはじめるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ REV.TIME でも、REV.DELAY を長くしていくと大きな空間の残響感になります。</td></tr>
<tr><td>可変範囲：0 ～ 250ms</td></tr>
<tr><td>
</td></tr>
<tr><td rowspan="3">REV.LEVEL</td><td>後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。</td></tr>
<tr><td>可変範囲：0 ～ 100%</td></tr>
<tr><td>
</td></tr>
<tr><td rowspan="3">DIRECT
（2ch Stereo のみ）</td><td>2 チャンネルアナログソースを再生しているときにデコーダーや DSP 回路をバイパスして、より高音質で再生します。</td></tr>
<tr><td>選択項目：AUTO、OFF</td></tr>
<tr><td>・デコーダーや DSP 回路をバイパスするには、トーンコントロールの「BASS」、および「TREBLE」が「0dB」に設定されているときに、「AUTO」を選んでください。
・デコーダーや DSP 回路をバイパスしないときは、トーンコントロールの「BASS」、および「TREBLE」が「0dB」に設定されているときに、「OFF」を選んでください。
・マルチチャンネル信号（ドルビーデジタル、DTS、AAC）が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロント左／右スピーカーから出力されます。
・以下の場合、フロント左／右スピーカーの低音域成分はサブウーファーから出力されます。
–「LFE/BASS OUT」が「BOTH」に設定されているとき（65 ページ）。
–「FRONT SP」が「SMALL」に設定されていて（66 ページ）、「LFE/BASS OUT」が「SWFR」に設定されているとき（65 ページ）。</td></tr>
</table>

音場パラメーター	特長
CT LEVEL SL LEVEL SR LEVEL SB LEVEL PL LEVEL PR LEVEL （**7ch Stereo** のみ）	7ch Stereo プログラムでの、各チャンネルの音量を調節します。各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるパラメーターは変化します。
	可変範囲：0 ～ 100%
EFFECT LEVEL （**Straight Enhancer**、 **7ch Enhancer** のみ）	コンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果レベルを調節するパラメーターです。高音域が過剰に強調されているときは、「LOW」に設定してください。
	選択項目：**HIGH**：LOW
	• 効果レベルを弱くするには「LOW」に設定してください。 • 効果レベルを強くするには「HIGH」に設定してください。

■ 音場プログラムと組み合わせるデコーダーを選ぶ（SUR.）

MOVIE プログラム（Mono Movie 以外）と組み合わせるデコーダーを選びます。MOVIE プログラムについて詳しくは、41 ページをご覧ください。

選べるデコーダー

デコーダー	説明
PLIIx Movie PLII Movie	映画用のドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（66 ページ）、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。
Neo:6 Cinema	映画用の DTS デコーダーです。

デコーダーを選ぶ

■ 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ（サラウンドデコードモード）

2 チャンネルソースをマルチチャンネル化して楽しむためのデコーダーを選びます。

操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、㉓SUR. DECODE キーを繰り返し押して、デコーダーを選ぶ。

選べるデコーダーについては、次ページの表をご覧ください。

各デコーダーのパラメーターを調節できます（60 ページ）。操作機器選択スイッチで ⑯**AMP** を選び、㉘**PARAMETER** キーを押してモニター画面を表示してください。⑧△ / ▽ キーを繰り返し押してデコーダーパラメーターを選んだら、⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して調節してください。

応用操作

■ デコーダー一覧

デコーダー	説明
Pro Logic	ドルビープロロジックデコーダーです。すべてのソースに適しています。
PLIIx Movie PLII Movie	ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（66 ページ）、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。
PLIIx Music PLII Music	ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（66 ページ）、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。
PLIIx Game PLII Game	ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。ゲームに適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（66 ページ）、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。
Neo:6 Cinema	DTS デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
Neo:6 Music	DTS デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

ドルビーデジタル、DTS、DTS 96/24 信号を再生しているときにサラウンドデコードモードを選ぶと、本機は自動的に「SURROUND DECODE Dolby Digital」、または「SURROUND DECODE」、「SURROUND DECODE DTS 96/24」プログラムを選びます。

デコーダーパラメーター一覧

デコーダーパラメーター	特長
PANORAMA （PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント左／右の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。
	選択項目：**OFF**、ON
DIMENSION （PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。
	可変範囲：－3 ～ +3
	初期設定：STD（スタンダード）
CENTER WIDTH （PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。
	可変範囲：0 ～ 7 （0 にするとセンターのみ、7 にするとフロント左／右のみからセンター音声が出力されます。）
	初期設定：3
C.IMAGE （Neo:6 Music のみ）	DTS Neo:6 Music プログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。
	可変範囲：0.0 ～ 1.0 （0.0 にするとフロント左／右のみ、1.0 にするとセンターのみからセンター音声が出力されます。）
	初期設定：0.3

セットメニューで本機を設定する

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更できます。お使いの視聴環境に合わせて設定を変更してください。

■ 自動設定　AUTO SETUP

お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します（「スタートアップガイド」9 ページ）。

■ 手動設定　MANUAL SETUP

以下の項目を手動で設定します。

基本設定　1 BASIC MENU

メニュー	サブメニュー	機能	ページ
A)SPEAKER SET	EXTRA SP ASSIGN	EXTRA SP 端子に接続したスピーカーの用途を設定します。	65
	LFE/BASS OUT	LFE 信号や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。	65
	FRONT SP	フロントスピーカーの大きさを設定します。	66
	CENTER SP	センタースピーカーの有無と大きさを設定します。	66
	SUR. L/R SP	サラウンドスピーカーの大きさと数を設定します。	66
	SUR.B L/R SP	サラウンドバックスピーカーの大きさと数を設定します。	66
	CROSS OVER	「SPEAKER SET」で「SML」（SMALL）に設定したスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。	67
	SUBWOOFER PHASE	低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。	67
B)SP LEVEL	FR.L/FR.R/CNTR/SUR.L/SUR.R/SBL/SBR/SWFR/PR.L/PR.R	各スピーカーの音量を個別に調節します。	67
C)SP DISTANCE	UNIT	スピーカーの距離を調節するときに使う距離の単位を設定します。	68
	FRONT L/FRONT R/CENTER/SUR. L/SUR. R/SBL/SBR/SWFR/PRNS L/PRNS R	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。	68
D)TEST TONE	–	「SPEAKER SET」、「SP LEVEL」、「SP DISTANCE」を設定するときにテストトーンを出力するかしないかを設定します。	68

応用操作

音量設定　2 VOLUME MENU

メニュー	機能	ページ
ADAPTIVE DRC	本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。	69
ADAPTIVE DSP LEVEL	本機の音量と DSP レベルを連動して調節します。	69
MUTE TYPE	ミュート（37 ページ）時に下げる音量を設定します。	69
MAX VOL.	音量の最大値を設定します。	69
INIT. VOL.	電源をオンにしたときの音量を調節します。	69

音の設定　3 SOUND MENU

メニュー	サブメニュー	機能	ページ
A)EQUALIZER	EQ TYPE SELECT	イコライザーのタイプを設定します。	70
	GEQ	「EQ TYPE SELECT」を「GEQ」に設定しているときに、スピーカーの音色を調節します。	70
	TEST	「GEQ」を設定しているときに、テストトーンを出力するかしないかを設定します。	70
B)LFE LEVEL	SPEAKER	スピーカーで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。	71
	HEADPHONE	ヘッドホンで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。	71
C)DYNAMIC RANGE	SPEAKER	スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを設定します。	71
	HEADPHONE	ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを設定します。	71
D)LIPSYNC	HDMI AUTO	映像と音声の出力タイミングのずれを自動的に補正するかしないかを設定します。	72
	AUTO	補正時間を微調整します。	72
	MANUAL	モニターがリップシンクの自動補正機能に対応していない場合や、「HDMI AUTO」を「OFF」に設定している場合に、出力タイミングを手動で補正します。	72
E)EXTD SUR.	–	マルチチャンネルソースを 6.1 ／ 7.1 チャンネル再生するときのデコーダーを選びます。	72

入力設定　4 INPUT MENU

ご注意

下記のメニューには、すべての入力ソースで選択できないものや、特定の入力ソースでしか選択できないものがあります。

サブメニュー	機能	ページ
I/O ASSIGNMENT	使用する機器が本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	73
INPUT RENAME	各入力ソース名を変更します。	73
VOL. TRIM	入力ソース間の音量差を補正します。	74
DECODER MODE	適用するデコーダーモードを設定します。	74
STANDBY CHARGE	本機がスタンバイモードのときに、iPod を充電（23 ページ）するかしないかを設定します。	74
START PAIRING	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器のペアリングを開始します。	74
BGV	バックグラウンドビデオ機能で組み合わせる映像系入力ソースを選びます。	75
INPUT CH	MULTI CH INPUT 入力のチャンネル数を設定します。	75
FRONT	MULTI CH INPUT 8チャンネル入力時のフロント端子を設定します。	75

その他の設定　5 OPTION MENU

メニュー	サブメニュー	機能	ページ
A)DISPLAY SET	DIMMER	フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。	76
	OSD SHIFT	モニター画面に表示される文字の上下位置を調節します。	76
	OSD-SOURCE	メニュー表示モードで iPod を操作しているときのメニュー画面の表示時間を設定します。	76
	OSD-AMP	モニターに現在の状態を表示するときの表示時間を設定します。	76
	FL SCROLL	iPod を再生しているときのフロントパネルディスプレイ表示を設定します。	76
B)VIDEO SET	VIDEO CONV.	ビデオコンバージョン機能のオン、オフを設定します。	76
C)MEMORY GUARD	–	誤操作によって設定値が変更されないように保護します。	77
D)INIT. CONFIG	AUDIO SELECT	電源をオンにしたときに適用する入力モードを設定します。	77
	DECODER MODE	電源をオンにしたときに適用するデコーダーモードを設定します。	77
	EXTD SUR.	電源をオンにしたときに適用する 6.1 ／ 7.1 チャンネル再生時のデコーダーを設定します。	77
E)HDMI SET	HDMI CONTROL	HDMI を使ったコントロール機能のオン／オフを切り替えます。	78
	S.AUDIO	HDMI 信号の出力先を設定します。	78
	STANDBY THROUGH	「HDMI CONTROL」が「ON」に設定されている場合に、本機の電源がスタンバイときでも HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力するかしないかを設定します。	78

■ 信号の情報　SIGNAL INFO

音声／映像信号の情報を表示します（38 ページ）。

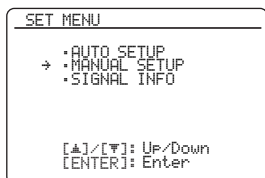
セットメニューの操作手順

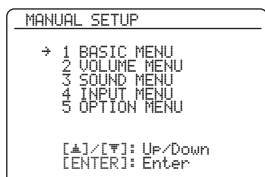
操作にはリモコンを使います。各項目の初期設定は、太字で記載しています。

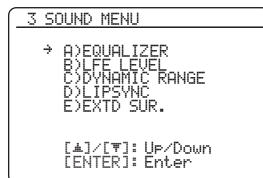
- 再生中でもセットメニューを操作できます。
- セットメニューの操作中に ㉘**PARAMETER** キーを押すと、セットメニューの操作はキャンセルされます。
- セットメニューの操作中に 1 つ前の操作に戻りたい場合は、リモコンの ⑨**RETURN** キーを押します。

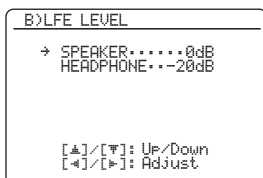
1 操作機器選択スイッチ（⑯）で AMP を選び、⑲SET MENU キーを押す。

モニターに SET MENU 画面が表示されます。

2 ⑧△ / ▽ キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ。

3 ⑧ENTER キーを押す。

モニターに MANUAL SETUP 画面が表示されます。

4 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押してから ⑧ENTER キーを押して、設定を変更したいメニューを選ぶ。

下記は、「SOUND MENU」を選んだ場合の表示例です。

5 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押してから ⑧ENTER キーを押して、設定を変更したいサブメニューを選ぶ。

下記は、「LFE LEVEL」を選んだ場合の表示例です。

6 ⑧△ / ▽ キーを押して設定項目を選び、⑧◁ / ▷ キーを押して設定を変更する。

- 数値を大きくするには、⑧▷ キーを押します。
- 数値を小さくするには、⑧◁ キーを押します。

7 ⑲SET MENU キーを押して、セットメニューを終了する。

1 BASIC MENU（基本設定）

スピーカーに関する基本的な設定を手動で変更します。BASIC MENU の項目には、AUTO SETUP（「スタートアップガイド」9 ページ）ですでに自動的に設定されているものもあります。

```
1 BASIC MENU

 → A)SPEAKER SET
   B)SP LEVEL
   C)SP DISTANCE
   D)TEST TONE

   [▲]/[▼]: Up/Down
   [ENTER]: Enter
```

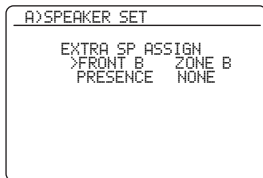
「TEST TONE」を「ON」に設定すれば、「SPEAKER SET」、「SP LEVEL」、「SP DISTANCE」の各項目をテストトーンを聞きながら調節できます。

■ スピーカーの設定　A)SPEAKER SET

ページを切り替えるには、⑧Δ / ∇ キーを繰り返し押します。

EXTRA SP の用途　EXTRA SP ASSIGN

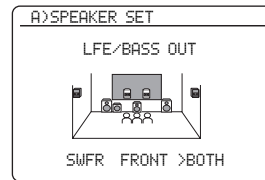
EXTRA SP 端子に接続したスピーカーの用途を設定します。

```
A)SPEAKER SET

   EXTRA SP ASSIGN
    >FRONT B    ZONE B
     PRESENCE   NONE
```

選択項目	説明
FRONT B	メインリスニングルームで 2 組目のフロントスピーカー（スピーカー B）として使います。
ZONE B	別の部屋（ゾーン B）でフロントスピーカーとして使います。
PRESENCE	プレゼンススピーカーとして使います。
NONE	スピーカーを接続していない場合に選びます。

ご注意

- 「EXTRA SP ASSIGN」は、AUTO SETUP の「EXTRA SP ASSIGN」の設定と連動しています（「スタートアップガイド」10 ページ）。
- アドバンストセットアップメニュー「BI-AMP」（84 ページ）を「ON」に設定している場合、「PRESENCE」は選べません。
- 「EXTRA SP ASSIGN」の設定を変更した場合は、再度 AUTO SETUP を実施してください（「スタートアップガイド」9 ページ）。

LFE ／低音域成分の出力　LFE/BASS OUT

LFE（低域効果音）や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。

LFE 信号の出力先

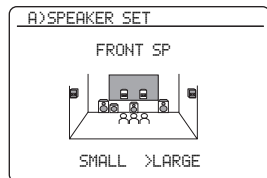
選択項目	サブウーファー／スピーカー		
	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
BOTH	出力する	出力しない	出力しない
SWFR	出力する	出力しない	出力しない
FRONT	出力しない	出力する	出力しない

低音域信号の出力先

選択項目	サブウーファー／スピーカー		
	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
BOTH	*1	*2	*3
SWFR	*4	*3	*3
FRONT	出力しない	*1	*3

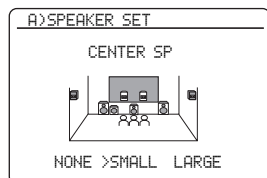
*1 フロントチャンネルと、「SMALL」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。
*2 フロントチャンネルの低音域成分を出力します。
*3 「LARGE」に設定している場合に、低音域成分を出力します。
*4 「SMALL」または「NONE」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。

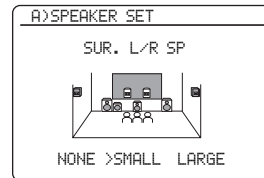
スピーカーサイズを選ぶときの目安
ウーファーの口径が
- 16cm 以上：大
- 16cm 未満：小

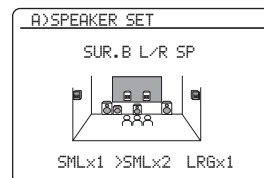
フロントスピーカー　FRONT SP

選択項目	説明
LARGE	フロントスピーカーが大きい場合に選びます。
SMALL	フロントスピーカーが小さい場合に選びます。

ご注意

「LFE/BASS OUT」を「FRONT」に設定しているときは、「LARGE」のみ選べます。「LARGE」以外に設定されている場合は、自動的に「LARGE」に変更されます。

センタースピーカー　CENTER SP

選択項目	説明
LARGE	センタースピーカーが大きい場合に選びます。
SMALL	センタースピーカーが小さい場合に選びます。
NONE	センタースピーカーを接続していない場合に選びます。センターチャンネル信号はフロント左／右スピーカーに振り分けられます。

サラウンド左／右スピーカー　SUR. L/R SP

選択項目	説明
LARGE	サラウンドスピーカーが大きい場合に選びます。
SMALL	サラウンドスピーカーが小さい場合に選びます。
NONE	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選びます。自動的にバーチャルシネマ DSP モードが選択され、「SUR.B L/R SP」は「NONE」に設定されます。

サラウンドバック左／右スピーカー　SUR.B L/R SP

選択項目	説明
LRGx1	大きいサラウンドバックスピーカーを１つ接続している場合に選びます。
LRGx2	大きいサラウンドバックスピーカーを２つ接続している場合に選びます。
SMLx1	小さいサラウンドバックスピーカーを１つ接続している場合に選びます。
SMLx2	小さいサラウンドバックスピーカーを２つ接続している場合に選びます。
NONE	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選びます。サラウンドバックチャンネル信号はサラウンド左／右スピーカーに振り分けられます。

ご注意

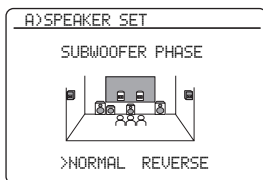
「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定しているときにドルビー TrueHD 信号が入力された場合、サラウンドバック左／右チャンネルはサラウンド左／右チャンネルに振り分けられません。

低音域成分クロスオーバー　CROSS OVER

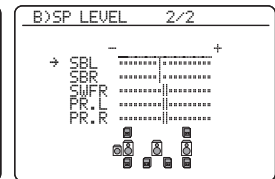
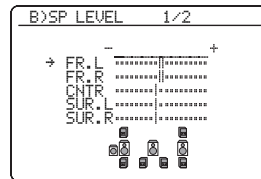
「SPEAKER SET」（65 ページ）で「SML」（または「SMALL」）に設定した各スピーカーから出力する低音域成分の下限周波数を設定します。設定よりも低い周波数信号は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
選択項目：40Hz、60Hz、**80Hz**、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

サブウーファーの位相　SUBWOOFER PHASE

低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。

選択項目	説明
NORMAL	サブウーファーの位相を逆転しません。
REVERSE	サブウーファーの位相を逆転します。

■　スピーカーの音量　B)SP LEVEL

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
可変範囲：－10.0dB ～ ＋10.0dB
可変ステップ：0.5dB
初期設定：
FR.L ／ FR.R ／ SWFR ／ PR.L ／ PR.R：0dB
CNTR ／ SUR.L ／ SUR.R ／ SBL ／ SBR：－1.0dB

選択項目	スピーカー
FR.L	フロント左スピーカー
FR.R	フロント右スピーカー
CNTR	センタースピーカー
SUR.L	サラウンド左スピーカー
SUR.R	サラウンド右スピーカー
SBL	サラウンドバック左スピーカー
SBR	サラウンドバック右スピーカー
SWFR	サブウーファー
PR.L	プレゼンス左スピーカー
PR.R	プレゼンス右スピーカー

- お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。
- 「TEST TONE」を「ON」に設定すれば（68 ページ）、テストトーンを聞きながら調節できます。

ご注意

- 各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。
- 「SUR. B L/R SP」を「LRGx1」または「SMLx1」に設定している場合（66 ページ）、「SBL」および「SBR」の代わりに「SB」と表示されます。

応用操作

■ スピーカーの距離 C)SP DISTANCE

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
「SPEAKER SET」の設定により、選択できるスピーカー項目は変化します。

```
C)SP DISTANCE      2/2

→ SBL·········2.40m
  SBR·········2.40m
  SWFR········3.00m
  PRNS L······3.00m
  PRNS R······3.00m

  [▲]/[▼]: Up/Down
  [◄]/[►]: Adjust
```

距離の単位設定 UNIT

初期設定：meters（m）

選択項目	説明
meters（m）	スピーカーの距離をメートルで表示します。
feet (ft)	スピーカーの距離をフィートで表示します。

スピーカーの距離

可変範囲：0.30 ～ 24.00m（1.0 ～ 80.0ft）
可変ステップ：0.10m（0.5ft）
初期設定：
FRONT L ／ FRONT R ／ SWFR ／ PRNS L ／ PRNS R：3.00m（10.0ft）
CENTER：2.60m（8.5ft）
SUR. L ／ SUR. R ／ SBL ／ SBR：2.40m（8.0ft）

選択項目	スピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SUR. L	サラウンド左スピーカー
SUR. R	サラウンド右スピーカー
SBL	サラウンドバック左スピーカー
SBR	サラウンドバック右スピーカー
SWFR	サブウーファー
PRNS L	プレゼンス左スピーカー
PRNS R	プレゼンス右スピーカー

ご注意

- 各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。
- 「SUR. B L/R SP」を「LRGx1」または「SMLx1」に設定している場合（66 ページ）、「SBL」および「SBR」の代わりに「SUR. B」と表示されます。

■ テストトーン D)TEST TONE

「SPEAKER SET」、「SP LEVEL」、「SP DISTANCE」の各項目を調節するときに、テストトーンを出力します。

選択項目	説明
OFF	テストトーンを出力しません。
ON	テストトーンを出力します。

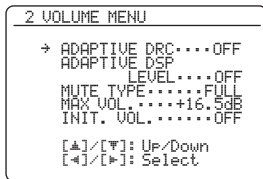
音圧計をお持ちの場合は、音圧計を C 特性／スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで 75dB SPL になるように調節してください。

ご注意

「BASIC MENU」の設定を終了すると、自動的に「OFF」に切り替わります。

2 VOLUME MENU（音量設定）

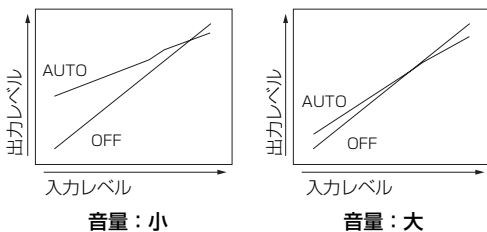
音量に関するさまざまな設定を手動で変更します。

```
2 VOLUME MENU

 → ADAPTIVE DRC····OFF
   ADAPTIVE DSP
          LEVEL····OFF
   MUTE TYPE······FULL
   MAX VOL.·····+16.5dB
   INIT. VOL.······OFF

   [▲]/[▼]: Up/Down
   [◄]/[►]: Select
```

アダプティブダイナミックレンジコントロール ADAPTIVE DRC

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生したり、夜間に再生したりするときに効果的です。「AUTO」に設定すると、ダイナミックレンジは以下のように変化します。

－ 音量を小さく設定したとき：狭くなります。
－ 音量を大きく設定したとき：広くなります。

音量：小

音量：大

選択項目	説明
AUTO	ダイナミックレンジを自動的に調節します。
OFF	ダイナミックレンジを自動的に調節しません。

- 「SOUND MENU」の「DYNAMIC RANGE」で、ビットストリーム信号のダイナミックレンジを設定することもできます。（71 ページ）。
- ヘッドホンを使って再生しているときにも有効です。

ご注意

ピュアダイレクトモード（44 ページ）で再生しているときは、「ADAPTIVE DRC」は無効になります。

アダプティブ DSP レベル ADAPTIVE DSP LEVEL

本機の音量と DSP のエフェクト量（55 ページ）を連動して調節します。

選択項目	説明
AUTO	DSP のエフェクト量を自動的に調節します。
OFF	DSP のエフェクト量を自動的に調節しません。

ご注意

「AUTO」に設定しても、DSP のエフェクト量の設定値は変わりません（55 ページ）。

ミュート時の音量　MUTE TYPE

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目	説明
FULL	完全に消音し、無音にします。
－20dB	いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。

音量の上限　MAX VOL.

音量が間違って上がりすぎないように、音量の最大値を設定します。例えば、「－5dB」に設定していると き、音量の可変範囲は－80.0dB から－5.0dB になります。初期設定値（ +16.5dB）では、最大音量まで出力します。
可変範囲： －30.0dB ～ ＋15.0dB、 **＋16.5dB**
可変ステップ：5.0dB

ご注意

- AUTO SETUP（「スタートアップガイド」9 ページ）の測定中は、「MAX VOL.」の設定に関わらず音量は自動的に 0 dB に調節されます。
- 「MAX VOL.」の設定は「INIT. VOL.」の設定よりも優先されます。例えば、「MAX VOL.」を「－30.0dB」、「INIT. VOL.」を「－20.0dB」に設定しても、次回電源オン時の音量は自動的に「－30.0dB」に制限されます。

音量の初期値　INIT. VOL.

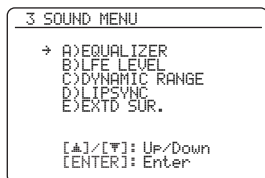
音量をオンにしたときの音量を設定します。
選択項目：**OFF**、MUTE、 －80.0dB ～+16.5dB
可変ステップ：0.5dB

ご注意

「INIT. VOL.」の設定よりも「MAX VOL.」の設定が優先されます。

応用操作

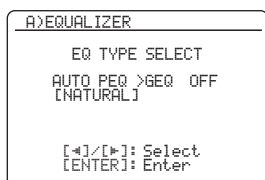
3 SOUND MENU（音の設定）

音声に関するさまざまな設定を手動で変更します。

■ イコライザー　A)EQUALIZER

パラメトリックイコライザーやグラフィックイコライザーを使って、音質や音色を調節します。

イコライザーの選択　EQ TYPE SELECT

イコライザーの種類を選びます。

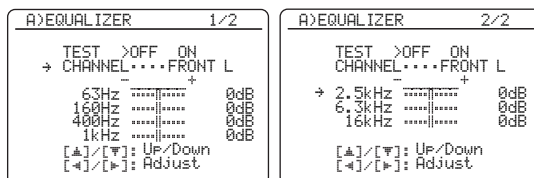
```
A)EQUALIZER

      EQ TYPE SELECT

    AUTO PEQ >GEQ  OFF
    [NATURAL]

    [◄]/[►]: Select
    [ENTER]: Enter
```

選択項目	説明
AUTO PEQ	「AUTO SETUP」（「スタートアップガイド」９ページ）で設定した、パラメトリックイコライザーを使います。
GEQ	グラフィックイコライザーを使って、手動で調節します。調節メニューを表示するには、⑧**ENTER** キーを押してください。
OFF	イコライザーを使いません。

「AUTO PEQ」の下に、現在適用されているパラメトリックイコライザーの種類（「スタートアップガイド」10 ページ）が表示されます。

ご注意

「AUTO PEQ」は、AUTO SETUP（「スタートアップガイド」９ページ）を実施している場合にのみ選べます。この場合、「AUTO PEQ」が初期設定となります。

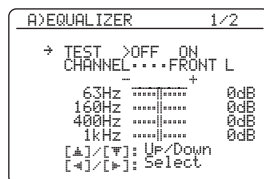
グラフィックイコライザー　GEQ

フロント左／右スピーカーに合わせて、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーの音質を調節します。7つの周波数帯域（63Hz、160Hz、400Hz、1kHz、2.5kHz、6.3kHz、16kHz）を調節できます。
可変範囲：－6.0dB ～ ＋6.0dB
可変ステップ：0.5dB

⑧∆ / ∇ キーを押して周波数帯域を選び、⑧◁ / ▷ キーを押して調節します。

ご注意

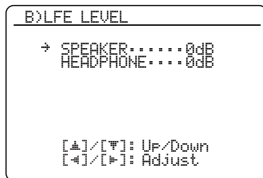
「EQ TYPE SELECT」が「GEQ」に設定されているときのみ、グラフィックイコライザーを調節できます。

テストトーン　TEST

「GEQ」を調節するときに、テストトーンを出力します。⑧∆ / ∇ キーを押して「TEST」を選び、⑧◁ / ▷ キーを押して「ON」を選んでください。

選択項目	説明
OFF	テストトーンを出力しません。
ON	テストトーンを出力します。

■ 低域効果音の音量 B)LFE LEVEL

LFE（低域効果音）チャンネルの音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に設定できます。LFE とは、映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。
可変範囲：－20 ～ 0dB
可変ステップ：1dB

```
B)LFE LEVEL
 → SPEAKER······0dB
   HEADPHONE····0dB

   [▲]/[▼]: Up/Down
   [◄]/[►]: Adjust
```

スピーカー用　SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

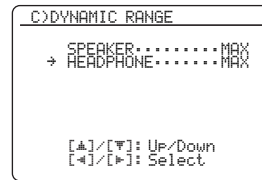
ヘッドホン用　HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ご注意

「LFE/BASS OUT」（65 ページ）の設定により、SUBWOOFER PRE OUT 端子から信号が出力されない場合があります。

■ ダイナミックレンジ　C)DYNAMIC RANGE

ビットストリーム信号再生時のダイナミックレンジを調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に設定できます。

スピーカー用　SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

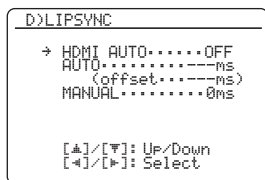
ヘッドホン用　HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

選択項目	説明
MIN/AUTO	・MIN：ドルビー TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジです。 ・AUTO：ドルビー TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを自動的に調節します。
STD	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。ドルビー TrueHD 信号再生時も、入力信号の情報に関わらず常にダイナミックレンジは基準値に保たれます。
MAX	入力された信号を補正せず、そのまま再生するダイナミックレンジです。

応用操作

■ 音声と映像のずれ補正 D)LIPSYNC

音声と映像の出力タイミングのずれを補正します。

HDMI 自動判定 HDMI AUTO

リップシンクの自動補正機能に対応しているモニターと本機を HDMI 接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。音声出力を遅らせる時間を設定します。

選択項目：ON、**OFF**

モニターが自動補正機能に対応している場合：
「ON」に設定します。下記の「AUTO」で、補正時間を微調整できます。

モニターが自動補正機能に対応していない、または自動補正機能を使わない場合：
「OFF」に設定します。下記の「MANUAL」で、補正時間を手動で調節してください。

自動補正 AUTO

「HDMI AUTO」を「ON」に設定している場合に、補正時間を微調整します。

可変範囲：**0** ～ 240ms

可変ステップ：1ms

モニター画面に表示される「offset」は、自動補正機能によって調節された時間と、「AUTO」によって微調節された時間の差を表しています。本機はこの「offset」の値を記憶して、自動補正機能を持つ別のモニターにも同じ値を適用します。

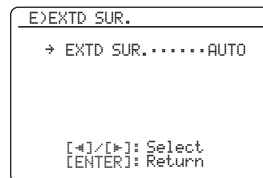
手動補正 MANUAL

モニターがリップシンクの自動補正機能に対応していない場合や、「HDMI AUTO」を「OFF」に設定している場合に、補正時間を手動で微調整します。

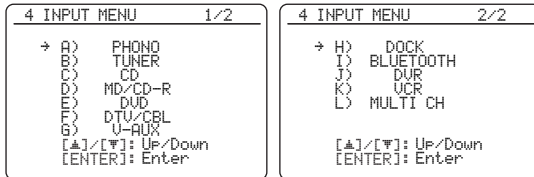
可変範囲：**0** ～ 240ms

可変ステップ：1ms

■ 6.1 ／ 7.1 チャンネルデコーダー選択 E)EXTD SUR.

サラウンドバックスピーカーを使って、マルチチャンネルソースを 6.1 または 7.1 チャンネル再生するためのデコーダーを選びます。

選択項目	説明
AUTO	本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
PLIIxMovie	プロロジック IIx デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号を 7.1 チャンネルで再生します。
PLIIxMusic	プロロジック IIx デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号を 6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
EX/ES	ドルビーデジタル EX デコーダーにより、ドルビーデジタルおよび AAC 信号を 6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。 また、DTS-ES デコーダーにより、DTS 信号を 6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
OFF	6.1 または 7.1 チャンネルで再生しません。5.1 チャンネルで再生します。

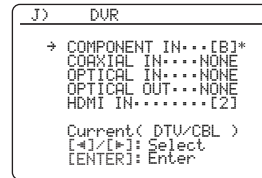
4 INPUT MENU（入力の設定）

入力ソースに関するさまざまな設定を手動で変更します。

入力ソース	選択項目
B)TUNER	INPUT RENAME VOL. TRIM
L)MULTI CH	INPUT RENAME VOL. TRIM BGV INPUT CH FRONT
A)PHONO C)CD D)MD/CD-R E)DVD F)DTV/CBL G)V-AUX J)DVR K)VCR	I/O ASSIGNMENT INPUT RENAME VOL. TRIM DECODER MODE
H)DOCK	INPUT RENAME VOL. TRIM STANDBY CHARGE
I)BLUETOOTH	INPUT RENAME VOL. TRIM START PAIRING

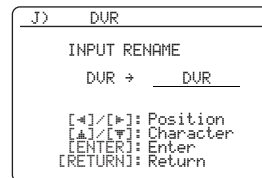
ご注意

上記のメニューには、すべての入力ソースで選べないものや、特定の入力ソースでしか選べないものがあります。

入出力端子の割り当て I/O ASSIGNMENT

本機が装備している入出力端子は、それぞれに接続する外部機器が初期設定で割り当てられています。初期設定とは異なる機器を接続した場合に、接続した端子の割り当てを変更してください。割り当てを変更すれば、入力選択時に表示される機器名と、実際に選ばれる機器を一致させられます。

- 端子に機器が割り当てられていない場合は、モニター画面に「NONE」と表示されます。
- 「OPTICAL OUT」には、本機の DIGITAL OUT 端子に接続した機器を設定してください。
- 同じ種類の端子には、１つの機器を１回のみ割り当てられます。
- 現在の設定を変更すると、端子名の右側にアスタリスク（＊）が表示されます。
- 端子を選ぶと、現在その端子に割り当てられている機器がモニター画面の「Current」欄に表示されます。上図では、コンポーネント [B] 端子には DTV/CBL が割り当てられていることを表しています。

入力ソース名の変更　INPUT RENAME

モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します。

1　⑧◁ / ▷ キーを押して、変更する文字、またはスペースに、点滅している＿（アンダーバー）を合わせる。

2　⑧∆ / ∇ キーを押して文字を選び、⑧◁ / ▷ キーを押してアンダーバーの位置を移動する。

ご注意

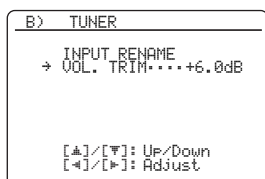
- 最大９文字まで入力できます。
- ⑧∇ キーを押すと順番どおりに、⑧∆ キーを押すと順番とは逆に文字が表示されます。
  A ～ Z、0～9、a ～ z、記号（#、*、－、＋など）、スペース

3　入力ソースごとに手順１、２を繰り返す。

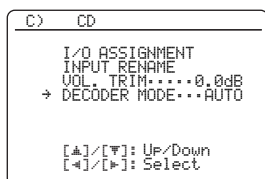
4　入力が終わったら、⑧ENTER キーを押す。

音量差の補正　VOL. TRIM

入力ソース間の音量差を補正することで、入力を切り替えたときの急な音量の変化を防げます。
可変範囲：－6.0dB ～ ＋6.0dB
可変ステップ：0.5dB
初期設定：0.0dB

```
B)   TUNER

     INPUT RENAME
   → VOL. TRIM････+6.0dB

     [▲]/[▼]: Up/Down
     [◀]/[▶]: Adjust
```

デコーダーモード選択　DECODER MODE

入力するデジタル音声信号を AAC、または DTS に固定します。

```
C)   CD

     I/O ASSIGNMENT
     INPUT RENAME
     VOL. TRIM･････0.0dB
   → DECODER MODE･･･AUTO

     [▲]/[▼]: Up/Down
     [◀]/[▶]: Select
```

選択項目	説明
AUTO	自動的に音声入力信号を選びます。
DTS	DTS 信号に固定します。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。
AAC	AAC 信号に固定します。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

ご注意

「DECODER MODE」は、再生する機器が HDMI、光／同軸デジタル端子に割り当てられているときのみ有効です（73 ページ）。

iPod 充電モード設定　STANDBY CHARGE

本機の電源がスタンバイのとき（26 ページ）に、本機に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod の充電モードを設定します。

選択項目	説明
AUTO	iPod を充電します。
OFF	本機の電源がスタンバイのときは iPod を充電しません。

ペアリング開始　START PAIRING

ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）のペアリングを開始します。ペアリングについて詳しくは、「Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器をペアリングする」（51 ページ）をご覧ください。

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1　⑧ENTER キーを押して、ペアリングを開始する。
ヤマハ製 Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器をサーチします。フロントパネルディスプレイに「Searching...」と表示されます。

2　Bluetooth機器がBluetoothアダプターを認識していることを確認する。
Bluetooth 機器が Bluetooth アダプターを認識している場合は、Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

3　Bluetooth アダプターを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。
正しくペアリングされた場合は、「Pairing completed」と表示されます。

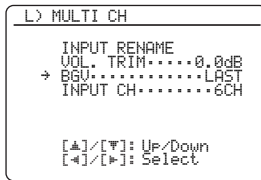
ペアリングをキャンセルするには、⑨RETURN キーを押してください。

4　⑨RETURN キーを押して、「START PAIRING」の設定を終了する。

ご注意

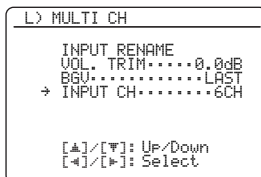
- Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は、「Not found」と表示されます。
- Bluetooth アダプターが本機に接続されていない場合は、「No Bluetooth adapter」と表示されます。

バックグラウンドビデオ設定　BGV

MULTI CH INPUT 端子に入力した音声を再生しているときに組み合わせて楽しむ映像系入力ソースを選びます。

選択項目	説明
LAST	前回選んでいた映像系入力ソースを再生します。
DVD、DTV/CBL、DVR、VCR、V-AUX	選んだ映像系入力ソースを再生します。
OFF	バックグラウンドビデオ機能を使いません。

チャンネル数選択　INPUT CH

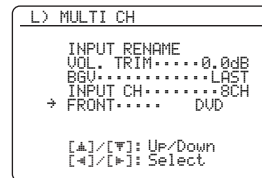
MULTI CH INPUT 端子に入力した音声を再生するときに入力するチャンネル数を設定します。ここでは、LFE0.1 チャンネルも 1 チャンネルとして数えます。

選択項目：**6CH**、8CH

5.1 チャンネル音声を入力する場合：
「6CH」を選んでください。

7.1 チャンネル音声を入力する場合：
「8CH」を選んでください。この場合、フロントチャンネル用として使うアナログ音声入力端子を、「FRONT」（右記参照）で選んでください。

フロント用入力端子選択　FRONT

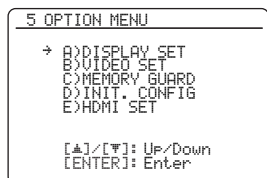
「INPUT CH」を「8CH」に設定した場合に、フロントチャンネル用として使うアナログ音声入力端子を選びます。

選択項目：CD、MD/CD-R、**DVD**、DTV/CBL、VCR、DVR、V-AUX

ご注意

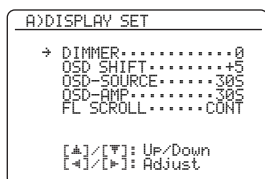
「FRONT」は、「INPUT CH」を「8CH」に設定したときのみ表示されます。

応用操作

5 OPTION MENU （その他の設定）

その他のさまざまな設定を変更します。

■ 表示の設定　A)DISPLAY SET

ご注意

アドバンストセットアップメニュー「INIT」の「VIDEO」で、「OSD SHIFT」を初期設定に戻せます（85 ページ）。

ディスプレイの明るさ　DIMMER

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。
可変範囲：－４～**0**
可変ステップ：1

- 表示を暗くするには、⑧◁ キーを押してください。
- 表示を明るくするには、⑧▷ キーを押してください。

表示画面の位置調節　OSD SHIFT

モニター画面表示の上下位置を調節します。
可変範囲：－５（下方）～ +5（上方）
可変ステップ：1
初期設定：0

- 下に移動するには、⑧◁ キーを押してください。
- 上に移動するには、⑧▷ キーを押してください。

画面表示時間設定（iPod）　OSD-SOURCE

メニュー表示モードで iPod を操作しているときのモニター画面の表示時間を設定します。

選択項目	説明
ON	メニュー画面を継続して表示します。
10S	メニュー画面を 10 秒間表示します。
30S	メニュー画面を 30 秒間表示します。

画面表示時間設定（アンプ）　OSD-AMP

モニターに現在の状態を表示する（36 ページ）ときの表示時間を設定します。

選択項目	説明
ON	モニター画面を継続して表示します。
10S	モニター画面を 10 秒間表示します。
30S	モニター画面を 30 秒間表示します。

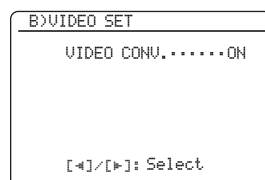
FL 表示設定　FL SCROLL

本機に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod を再生するときに、14 文字を超える曲名のフロントパネルディスプレイへの表示方法を設定します。

選択項目	説明
CONT	すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。
ONCE	すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

■ 映像の設定　B)VIDEO SET

ご注意

アドバンストセットアップメニュー「INIT」の「VIDEO」で、「VIDEO SET」を初期設定に戻せます（85 ページ）。

ビデオコンバージョンの設定　VIDEO CONV.

本機のアナログ入力端子に入力した信号を、別の種類の信号に変換して出力します。

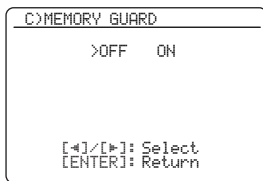
選択項目	説明
ON	信号の種類を変換します。コンポジットビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオ、D5 ビデオ端子から入力した映像信号の種類を変換し、HDMI を含むすべての端子から出力します。
OFF	映像信号の種類を変換しません。入力した信号は、入力端子と同じ種類の出力端子からのみ出力します。

ご注意

- 480i コンポーネントビデオ信号は、S ビデオ、またはコンポジットビデオ信号に変換され、S VIDEO MONITOR OUT 端子、または VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。
- 変換された映像信号は、MONITOR OUT 端子へのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、再生機器と同じ種類のビデオ接続を行ってください。たとえば、本機と再生機器を S ビデオ接続した場合は、本機と録画機器も S ビデオ接続してください。
- ビデオデッキを本機に接続している場合、コンポジットビデオ信号または S ビデオ信号をコンポーネント信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。
- 特殊な映像信号を出力する機器（ゲーム機など）と接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、「ON」に設定しても入力信号が変換されなかったりする場合があります。このような場合は、「OFF」に設定してください。

■ 設定の保護　C)MEMORY GUARD

誤操作による設定値の変更を防止します。

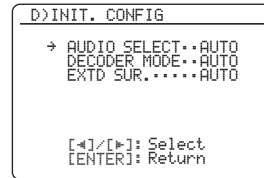
```
C)MEMORY GUARD
      >OFF   ON

  [◄]/[►]: Select
  [ENTER]: Return
```

選択項目	説明
OFF	設定を保護しません。
ON	以下の設定を保護します。 －音場パラメーターの設定 －「AUTO SETUP」の設定 －スピーカーの音量設定 －「MANUAL SETUP」の設定

ご注意

- 「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しても、以下の項目は変更できます。
  - 「SOUND MENU － EXTD SUR.」の設定（72 ページ）
  - 「INPUT MENU － DECODER MODE」の設定（74 ページ）
  - 「MEMORY GUARD」の設定
- 「MEMORY GUARD」を「ON」に設定すると、セットメニュー画面の右上に「G」が表示されます。
- 「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているときでも、音場パラメーター「SUR.」の設定は変更できます（59 ページ）。

■ 電源オン時の設定　D)INIT. CONFIG

本機の電源をオンにしたときに適用する入力モードやデコーダーモード、6.1 ／ 7.1 チャンネル再生時のデコーダーを設定します。

```
D)INIT. CONFIG
  → AUDIO SELECT··AUTO
    DECODER MODE··AUTO
    EXTD SUR.·····AUTO

    [◄]/[►]: Select
    [ENTER]: Return
```

入力モード初期値　AUDIO SELECT

本機の電源をオンにしたときに適用する入力モード（36 ページ）を設定します。

選択項目	説明
AUTO	自動的に入力信号の種類を判別し、入力モードを決定します。
LAST	前回選んでいた入力モードの設定を適用します。

デコーダーモード初期値　DECODER MODE

本機の電源をオンにしたときに適用するデコーダーモード（74 ページ）を設定します。

選択項目	説明
AUTO	自動的に入力信号の種類を判別し、デコーダーモードを決定します。
LAST	前回選んでいたデコーダーモードの設定を適用します。

6.1 ／ 7.1 チャンネルデコーダー設定 EXTD SUR.

本機の電源をオンにしたときに適用する 6.1 ／ 7.1 チャンネル再生時のデコーダー（72 ページ）を設定します。

選択項目	説明
AUTO	自動的に入力信号の種類を判別し、デコーダーを決定します。
LAST	前回選んでいたデコーダーの設定を適用します。

応用操作

■ HDMI の設定　E)HDMI SET

HDMI に関する設定を変更します。

```
E)HDMI SET
    HDMI CONTROL....OFF
    S. AUDIO...DSP-AX763

    [▲]/[▼]: Up/Down
    [◀]/[▶]: Select
```

HDMI コントロール機能設定　HDMI CONTROL

HDMI を使ったコントロール機能に対応している機器（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合に、HDMI を使ったコントロール機能を使用するかしないかを設定します。HDMI コントロール機能について詳しくは、「HDMI コントロール機能を使う」（53 ページ）をご覧ください。

選択項目	説明
ON	HDMI コントロール機能を使用します。
OFF	HDMI コントロール機能を使用しません。

HDMI 音声出力設定　S.AUDIO

HDMI IN 端子から入力した音声信号を、本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した機器で再生するかを選びます。

選択項目	説明
DSP-AX763	入力信号を本機で再生します。HDMI IN 端子に接続した HDMI 機器から入力した音声信号は、HDMI OUT 端子へ伝送しません。
OTHER	HDMI OUT 端子に接続した機器で再生します。

ご注意

- 「HDMI CONTROL」を「ON」に設定しているときは表示されません。
- 「S.AUDIO」を「OTHER」に設定しているときでも、本機の電源がスタンバイのときは、HDMI 入力信号は HDMI OUT 端子に伝送されません。
- 本機に接続したモニターの仕様により、本機がモニターに出力できる HDMI 音声／映像信号は変化します。

スタンバイ時の HDMI 出力設定
STANDBY THROUGH

本機の電源がスタンバイのときに、HDMI IN 端子から入力した HDMI 信号を HDMI OUT 端子から出力するかしないかを選びます。

選択項目	説明
ON	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力します。
OFF	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力しません。

ご注意

「HDMI CONTROL」を「OFF」に設定しているときは表示されません。

「STANDBY THROUGH」を「ON」に設定している場合、待機時消費電力をより多く消費しますので、「OFF」に設定するか、長期間本機を使用しない場合は電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

リモコンの機能を詳しく知る

他の機器のリモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで DVD プレーヤー、テレビなど、本機以外の AV 機器を操作できます。

リモコンでさまざまな機器を操作する

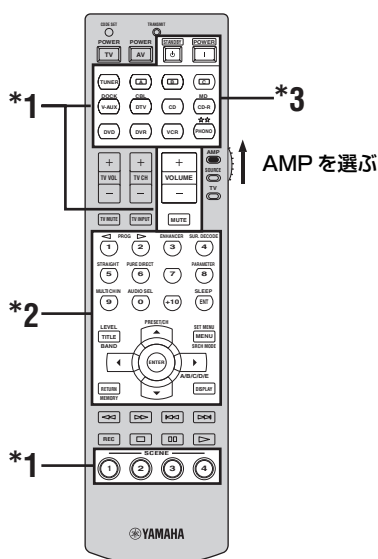
■ 本機を操作する

操作機器選択スイッチ（⑯）で **AMP** を選んでください。

ご注意

*1 操作機器選択スイッチの位置に関わらず、本機を操作できます。

*2 操作機器選択スイッチ（⑯）を **AMP** にセットしたときに、本機を操作できます。

*3 ④「**A**」、「**B**」、「**C**」の各キーは、本機の入力とは関係なく他の機器を操作できます。

■ テレビを操作する

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合は、操作機器選択スイッチ（⑯）を **TV** にセットします。④**DTV/CBL** または ④**PHONO** キーにテレビのリモコンコードを設定してください（81 ページ）。両方のキーにリモコンコードを設定した場合は、④**DTV/CBL** キーに設定したリモコンコードが優先されます。

HDMI コントロール機能を使っている場合（53 ページ）、本機と HDMI 接続したテレビを本機のリモコンで操作すると、本機の電源や音量が動作することがあります。HDMI コントロール機能に対応している機器を本機と HDMI 接続している場合は、それらの機器の電源も動作することがあります。

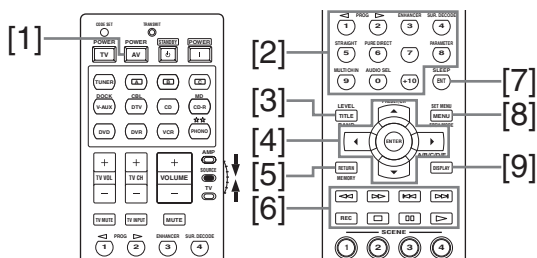
ご注意

*1 操作機器選択スイッチの位置に関わらず、テレビを操作できます。

リモコンキー	テレビ
TV POWER	テレビの電源を切り替えます。
TV VOL +/ −	テレビの音量を操作します。
TV CH +/ −	テレビのチャンネルを切り替えます。
TV MUTE	テレビの音量を一時的に消音します。
TV INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。

*2 操作機器選択スイッチ（⑯）を **TV** にセットしたときに、テレビを操作できます。各キーの操作内容について詳しくは、次ページ表中の「テレビ」欄をご覧ください。

■ 他の機器を操作する

各入力選択キーに他の機器のリモコンコードを設定すれば（81 ページ）、本機のリモコンでそれらの機器を操作できます。他の機器を操作したいときは、操作機器選択スイッチ（⑯）で SOURCE を選んでから、操作したい機器の入力選択キーを押します。各キーの機能について詳しくは、下の表をご覧ください。お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合は、お使いの機器に付属しているリモコンをお使いください。

本機のリモコンは、12 台までの異なる機器を操作できるように、12 種類のコントロールエリアを装備しています。

リモコンキー	DVD プレーヤー／レコーダー	ビデオデッキ	テレビ	LD プレーヤー	CD プレーヤー	MD ／ CD レコーダー	チューナー
[1] AV POWER	電源*1	電源*1	電源*2	電源*1	電源*1	電源*1	
[2] 1-9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	周波数（0～9）、プリセット局選択（1～8）
[3] TITLE	タイトルメニュー						バンド
[4] PRESET/CH △	選択（上へ）	チャンネル選択（+）	選択（上へ）				周波数（上へ）、プリセット番号選択（1～8）
PRESET/CH ▽	選択（下へ）	チャンネル選択（–）	選択（下へ）				周波数（下へ）、プリセット番号選択（8～1）
A/B/C/D/E ◁	選択（左へ）		選択（左へ）				プリセットグループ選択（E～A）
A/B/C/D/E ▷	選択（右へ）		選択（右へ）				プリセットグループ選択（A～E）
ENTER	メニュー決定		メニュー決定				
[5] RETURN	前の画面に戻る		前の画面に戻る				メモリー
[6] REC	ディスクスキップ（プレーヤー）録画（レコーダー）	録画	録画*2		ディスクスキップ	録画	
▷	再生	再生	再生*2	再生	再生	再生	
◁◁	巻戻し	巻戻し	巻戻し*2	巻戻し	巻戻し	巻戻し	
▷▷	早送り	早送り	早送り*2	早送り	早送り	早送り	
▯▯	一時停止	一時停止	一時停止*2	一時停止	一時停止	一時停止	
|◁◁	スキップ（–）	スキップ（–）	スキップ（–）*2	スキップ（–）	スキップ（–）	スキップ（–）	
▷▷|	スキップ（+）	スキップ（+）	スキップ（+）*2	スキップ（+）	スキップ（+）	スキップ（+）	
□	停止	停止	停止*2	停止	停止	停止	
[7] ENT	決定／インデックス表示	決定	決定	チャプター／時間表示	インデックス表示	インデックス表示	決定
[8] MENU	メニュー		メニュー				選局モード
[9] DISPLAY	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	

ご注意

*1 機器に付属しているリモコンに POWER キーがあるときのみ機能します。
*2 DVR に DVD レコーダーまたはビデオデッキのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくても DVD レコーダーまたはビデオデッキを操作できます。

リモコンコードを設定する

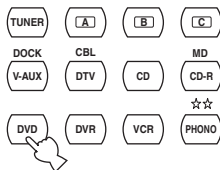
リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。

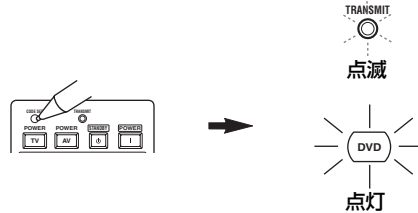
工場出荷時のリモコンコード設定

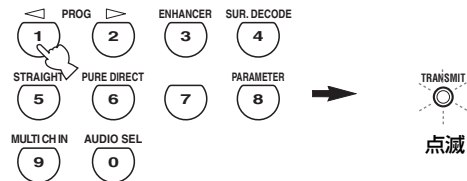
入力ソース	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
TUNER	チューナー	ヤマハ	82915
A	–	–	–
B	–	–	–
C	–	–	–
V-AUX	その他の機器	ヤマハ	82981
DTV/CBL	–	–	–
CD	CD プレーヤー	ヤマハ	62907
MD/CD-R	CD レコーダー	ヤマハ	71292
DVD	DVD プレーヤー	ヤマハ	42543
DVR	DVD レコーダー	ヤマハ	52544
VCR	–	–	–
PHONO	–	–	–

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは操作できない場合があります。この場合は、別のリモコンコードをお試しください。

1 リモコンコードを設定したい入力選択キー（④）を押す。

2 ②CODE SET ボタンを、ボールペンなどの先の細いもので押す。

⑫TRANSMIT インジケーターが２回点滅し、選んでいる入力選択キーが点灯します。

3 ⑥数字キー（0～9）を押して、お使いになる機器のリモコンコード（５桁の数字）を入力する。

⑫TRANSMIT インジケーターが２回点滅し、リモコンコードが設定されます。

巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。

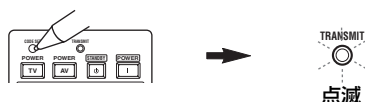
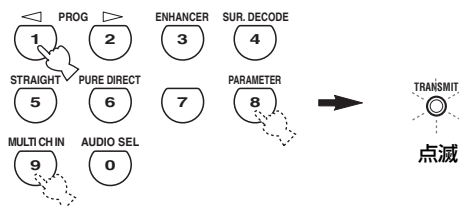
ご注意

- お使いの機器のメーカーによっては複数のリモコンコードが記載されています。正しく操作できるコードをお使いください。
- 手順 3 は、手順 2 の操作後 30 秒以内に操作してください。30 秒以上経過するとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順 2 から操作し直してください。
- 「9980」と入力すれば、設定したリモコンコードを入力ソースごとに初期設定に戻せます。

応用操作

リモコンコードを初期設定に戻す

設定したリモコンコードを取り消して、初期設定に戻します。

1 **②CODE SET ボタンを、ボールペンなどの先の細いもので押す。**
⑫TRANSMIT インジケーターが2回点滅します。

2 **⑥数字キーを押して、「9981」と入力する。**
⑫TRANSMIT インジケーターが2回点滅し、リモコンコードが初期設定に戻ります。

上記の手順 1 のあとに 30 秒以内にキーを押さないと、操作は取り消されます。この場合は手順 1 からやり直してください。

本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

フロントパネルディスプレイに表示されるメニューを見ながら、さまざまな項目を設定します。アドバンストセットアップメニューでは、本機の設定を初期設定に戻したり、リモコン ID を変更したりすることができます。お好みに合わせて、設定を変更してください。各項目の初期設定は、太字で記載しています。

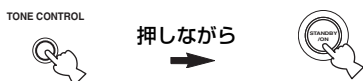
ご注意

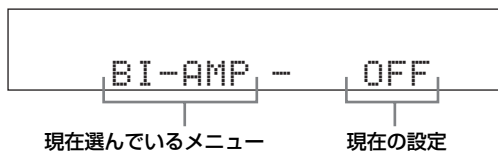
- 変更した設定は、ⓚSTANDBY/ON キーを押して本機の電源を入れ直したときから有効になります。
- アドバンストセットアップメニューの操作中は、本体の ⓚSTANDBY/ON キー、ⓛTONE CONTROL キー、ⓜPROGRAM セレクター以外は機能しません。
- アドバンストセットアップメニューの操作中は、他の操作はできません。
- アドバンストセットアップメニューはフロントパネルディスプレイでのみ操作できます。

アドバンストセットアップメニューの操作手順

1 本体の ⓚSTANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 ⓛTONE CONTROL キーを押しながら、もう一度 ⓚSTANDBY/ON キーを押す。

本機の電源がオンになり、アドバンストセットアップメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。

3 ⓜPROGRAM セレクターを回して、設定したいメニューを選ぶ。

フロントパネルディスプレイにメニューが表示されます。

4 ⓛTONE CONTROL キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

5 ⓚSTANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

変更した設定が保存されます。

変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

■ アンプ用リモコン ID 設定　REMOTE AMP

本体のアンプ操作用リモコン ID を、リモコンのアンプ操作用コードの設定に合わせて切り替えます。本機を設置している部屋で別のヤマハ製アンプをお使いの場合に、本機のリモコン操作でもう 1 台のアンプが動作するのを防止します。

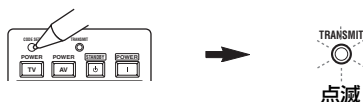
選択項目：**ID1**、ID2

- リモコンのアンプ操作用コードを「00001」に設定しているときは、「ID1」を選んでください。
- リモコンのアンプ操作用コードを「00002」に設定しているときは、「ID2」を選んでください。

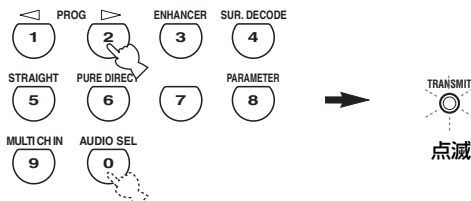
リモコンのアンプ操作用コードを変更する

リモコンのアンプ操作用コードをアンプ操作用リモコン ID に合わせて変更します。

1 ②CODE SET ボタンを、ボールペンなどの先の細いもので押す。

⑫TRANSMIT インジケーターが 2 回点滅します。

2 ⑥数字キーを押して、「00001」または「00002」と入力する。

⑫TRANSMIT インジケーターが 2 回点滅し、アンプ操作用コードが変更されます。

応用操作

アンプ ID コード *1	機能	アンプ用リモコン ID *2
00001（初期設定）	初期設定のコードを使って操作します。	ID1（初期設定）
00002	別コードを使って操作します。	ID2

*1 リモコン側の設定
*2 本体側の設定

チューナー ID コード *1	機能	チューナー用リモコン ID *2
82915（初期設定）	初期設定のコードを使って操作します。	ID1（初期設定）
82178	別コードを使って操作します。	ID2

*1 リモコン側の設定
*2 本体側の設定

■ チューナー用リモコン ID 設定 REMOTE TU

本体のチューナー操作用リモコン ID を、リモコンのチューナー操作用コードの設定に合わせて切り替えます。
選択項目：**ID1**、ID2
- リモコンのチューナー操作用コードを「82915」に設定しているときは、「ID1」を選んでください。
- リモコンのチューナー操作用コードを「82178」に設定しているときは、「ID2」を選んでください。

リモコンのチューナー操作用コードを変更する
リモコンのチューナー操作用コードをチューナー操作用 ID に合わせて変更します。

1 ④TUNER キーを押して、入力をチューナーに切り替える。

2 ②CODE SET ボタンを、ボールペンなどの先の細いもので押す。
⑫TRANSMIT インジケーターが２回点滅します。

3 ⑥数字キーを押して、「82915」または「82178」と入力する。
⑫TRANSMIT インジケーターが２回点滅し、チューナー操作用コードが変更されます。

■ バイアンプ設定 BI-AMP

SURROUND BACK/BI-AMP 端子を使って、バイアンプ接続（14 ページ）するかしないかを設定します。
選択項目：ON、**OFF**
- バイアンプ接続する場合は、「ON」を選んでください。「SUR. B L/R SP」が自動的に「NONE」に設定され、本機の SURROUND BACK/BI-AMP 端子からはフロントチャンネル信号が出力されます。
- バイアンプ接続しない場合は、「OFF」を選んでください。

ご注意

「BI-AMP」を「ON」に設定した場合、「EXTRA SP ASSIGN」の「PRESENCE」は選べません（65 ページ）。

■ SCENE 選択時の IR 出力設定 SCENE IR

SCENE（シーン）キーを押したときに、本機リアパネルの REMOTE OUT 端子からコントロール信号を出力するかしないかを設定します。
選択項目：**ON**、OFF
- 本機の REMOTE OUT 端子に接続した機器が SCENE コントロール信号の受信機能を持つヤマハ製機器の場合は、「ON」を選んでください。本機は自動的に、接続した機器にコントロール信号を伝送します。
- 本機の REMOTE OUT 端子に接続した機器がヤマハ製機器でない場合や、SCENE コントロール信号の受信機能を持たない場合は、「OFF」を選んでください。

ご注意

SCENE 機能を操作しているときにノイズが出力される場合は、「OFF」に設定してください。

■ 初期設定に戻す　INIT

変更した設定を初期設定に戻します。初期設定に戻す項目を選んでください。

選択項目：DSP PARAM、VIDEO、ALL、CANCEL

- 音場プログラムを初期設定に戻すには、「DSP PARAM」を選んでください。
- 「DISPLAY SET」の「VIDEO SET」（76ページ）、および「OSD SHIFT」（76ページ）を初期設定に戻すには、「VIDEO」を選んでください。
- すべてを初期設定に戻すには、「ALL」を選んでください。
- 初期設定に戻さない場合は、「CANCEL」を選んでください。

ご注意

音場プログラムごとに音場パラメーターを初期設定に戻すには、音場パラメーター「INITIALIZE」で設定してください（54ページ）。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をスタンバイにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはSTANDBY/ONスイッチ（またはPOWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	26
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	12 ～ 14
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
使用中に突然電源がスタンバイになる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路により電源が切れた。	温度が下がるのを待って（1時間程度）、電源を入れ直してください。	–
		音量を小さくしてください。	34
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	12 ～ 14
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	19 ～ 24
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体のⓠ**INPUT**セレクターやリモコンの④入力選択キー、または㉕**MULTI CH IN**キーで、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	34、35
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	12 ～ 14
	音を出すフロントスピーカーが正しく選ばれていない。	本体のⒶ**SPEAKERS**スイッチでフロントスピーカーを正しく選んでください。	35
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	34
	消音されている。	リモコンの⑰**MUTE**キーを押して（または本体のⓙ**VOLUME**コントロールを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	37
	DTSソースを再生しているときに、「DECODER MODE」が「AAC」に設定されている。	「AUTO」または「DTS」に設定してください。	74
	AACソースを再生しているときに、「DECODER MODE」が「DTS」に設定されている。	「AUTO」または「AAC」に設定してください。	74
	入力モードの設定が入力信号の種類と合っていない。	入力信号の種類に合わせる、または「AUTO」に設定してください。	36
	HDMI接続している場合に、「HDMI SET」の「S.AUDIO」が本機に設定されていない。	「DSP-AX763」に設定してください。	78
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンの ⑰MUTE キーを押して（または本体の ⒿVOLUME コントロールを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	37
映像が出ない	本機とモニターが映像接続されていない。	本機の MONITOR OUT 端子とモニターの映像入力端子を接続してください。	18
	本機と接続している外部機器が同じ種類の映像端子で接続されていない。	同じ種類の映像端子で接続してください。	15
		セットメニュー「VIDEO CONV.」を「ON」に設定してください。	76
	モニターの入力が本機の映像に切り替えられていない。	入力を切り替えてください。	–
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–
モニター画面が表示されない	「VIDEO SET」の設定を変更した。	アドバンストセットアップメニュー「INIT」を「VIDEO」に設定して、「VIDEO SET」の設定を工場出荷状態に戻してください。	85
映像が乱れる	ビデオデッキの種類によっては、映像信号を変換すると画像が乱れる場合があります。		–
	特殊な信号を出す機器と接続し、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定し、同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。	76
	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	12 ～ 24
	スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	音量のバランスを設定し直してください。	44、67
センタースピーカーからしか音声が出ない	音場効果をかけてモノラル音声を再生すると、音声信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音は出ません。	ほかの音場プログラムをお試しください。	40
エフェクトスピーカー（センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、プレゼンス左／右）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	㉔STRAIGHT キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	43
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	40
	フロント B スピーカーを使用しているときに、「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」を「ZONE B」に設定している。	「FRONT B」に設定してください。	65
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	44、67
	「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を「NONE」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「LARGE」または「SMALL」に設定してください。	66
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	40
サラウンド左／右スピーカーから音声が出ない	サラウンド左／右スピーカーの音量が小さい。	サラウンド左／右スピーカーの音量を調節してください。	44、67
	「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンド左／右スピーカーに合わせて、「LARGE」または「SMALL」に設定してください。	66
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	㉔STRAIGHT キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	43
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	40

症状	原因	対策	参照ページ
サラウンドバック左／右スピーカーから音声が出ない	サラウンドバック左／右スピーカーの音量が小さい。	サラウンドバック左／右スピーカーの音量を調節してください。	44、67
	「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すると、自動的に「SUR. B L/R SP」も「NONE」に設定されます。「SUR. L/R SP」を「NONE」以外に設定してください。	66
	「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「NONE」以外に設定してください。	66
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	40
プレゼンス左／右スピーカーから音声が出ない	プレゼンス左／右スピーカーの音量が小さい。	プレゼンス左／右スピーカーの音量を調節してください。	44、67
	AUTO SETUPの「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」以外に設定している。	「PRESENCE」に設定してください。	スタートアップガイド 10
	「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」以外に設定している。	「PRESENCE」に設定してください。	65
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	40
SPEAKERSキーでフロントBスピーカーを選択できない	AUTO SETUPの「EXTRA SP ASSIGN」を「FRONT B」以外に設定している。	「FRONT B」に設定してください。	スタートアップガイド 10
	「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」を「FRONT B」以外に設定している。	「FRONT B」に設定してください。	65
セットメニューでプレゼンススピーカーの項目を選択できない	AUTO SETUPの「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」以外に設定している。	「PRESENCE」に設定してください。	スタートアップガイド 10
	「SPEAKER SET」の「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」以外に設定している。	「PRESENCE」に設定してください。	65
サブウーファーから音声が出ない	「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRONT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	65
	「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRONT」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	65
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（フロントパネルディスプレイのDDIGITALまたはdtsインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」および「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	36
低音の再生不良	「SPEAKER SET」の「CROSS OVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	67
	「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	65
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	19 ～ 24
	レコードプレーヤーのGNDがしっかり接続されていない。	GNDの接続を確認してください。	21
レコードを再生している場合に音量が小さい	低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーで再生している。	昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使用して本機に接続してください。	21

症状	原因	対策	参照ページ
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
	「MAX VOL.」で小さい音量が設定されている。	大きい音量を設定してください。	69
有線放送などでエフェクトチャンネル（センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、プレゼンス左／右）の音がノイズになる。	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないで再生してください。	–
サラウンド効果と音場効果をかけた音を録音できない	サラウンド効果と音場効果をかけた音は録音できません。		–
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	19～24
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		–
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	19～24
音場パラメーターやセットメニュー、SCENEテンプレートの設定を変更できない	「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	77
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
HDMI接続した機器の音声が出力されない。	HDMI機器がマルチチャンネル信号に対応していない。	HDMI機器側の設定でマルチチャンネル信号を2チャンネル信号に変換してください。	–
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	12
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源をオンにしてください。	26
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–

HDMI

症状	原因	対策	参照ページ
音声や映像が出ない	制限台数を超えるHDMI機器を接続している。	接続しているHDMI機器の数を減らしてください。	–
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–

その他の情報

FM ／ AM 放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	25
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	45
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	25
	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	–
			マニュアル選局、または周波数ダイレクト選局をしてください。	45
	プリセットした放送局を受信できない	本機の電源プラグを長期間コンセントから抜いていたため、メモリーが消去された。	もう一度放送局をプリセットしてください。	46
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	25
			マニュアル選局をしてください。	45
	オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	47
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、30° 以内の範囲で操作してください。	28
	⑯操作機器選択スイッチで「SOURCE」または「TV」を選んでいる。	「AMP」を選んでください。	79
	リモコンのアンプ操作用コードと本機のアンプ操作用リモコン ID が一致していない。	コードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	83
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	スタートアップガイド 3
外部機器をリモコンで操作できない	操作する機器の入力選択キーが押されていない。	入力選択キーを押してください。	34
	⑯操作機器選択スイッチで「AMP」を選んでいる。	「SOURCE」または「TV」を選んでください。	79
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	81
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードを設定しても操作できない機器は、その機器に付属しているリモコンをお使いください。	–

iPod

ご注意

フロントパネルディスプレイやモニター画面に下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください (23 ページ)。

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod との接続を確認中です。		–
	iPod から情報を取得中です。		
Connect error	iPod との通信に問題が発生しています。	本機の電源をスタンバイにし、ヤマハ製 iPod 用ドックを接続し直してください。	23
		iPod をヤマハ製 iPod 用ドックにセットし直してください。	–
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機は iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod mini に対応しています。	–
iPod connected	iPod がヤマハ製 iPod 用ドックに正しく接続されました。		–
Disconnected	iPod がヤマハ製 iPod 用ドックから取り外されました。	iPod をヤマハ製 iPod 用ドックに接続してください。	23
Unable to play	何らかの原因で再生できません。	iPod に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	–
		再生可能な曲を iPod に保存してください。	–

Bluetooth®

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器がペアリングしています。		–
	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングがキャンセルされました。		
BT connected	ヤマハ製アダプターと Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器の接続が切断されました。		
No BT adapter	ヤマハ製 Bluetooth アダプターが本機の DOCK 端子に接続されていません。	本機の DOCK 端子にヤマハ製 Bluetooth アダプターを接続してください。	23
Not Found	ペアリングや接続しているときに、Bluetooth 機器が見つかりません。		–
Not Available	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器が接続されているときにペアリングしています。	ペアリングはヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器が接続されていないときに行ってください。	51

AUTO SETUP

■ 測定開始時の表示

表示	内容	対策	参照ページ
Connect MIC!	オプティマイザーマイクが接続されていません。	オプティマイザーマイクをフロントパネルのOPTIMIZER MIC端子に接続してください。	スタートアップガイド9
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。	－
Memory Guard!	本機の設定が保護されています。	「MEMORY GUARD」を「OFF」に設定してください。	77

■ 測定中の表示

エラーメッセージ	原因	対策	参照ページ
E-1:NO FRONT SP	フロント左／右チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	12
E-2:NO SUR SP	サラウンド左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	12
E-3:NO PRNS SP	プレゼンス左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	プレゼンス左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	12
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続する場合は、L側（SINGLE）の端子に接続してください。	13
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。	－
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。	－
E-6:CHECK SUR.	サラウンド左／右スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド左／右スピーカーを接続する必要があります。	12
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	AUTO SETUPでの測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。	スタートアップガイド9
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。	スタートアップガイド9
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。	12
E-9:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。	スタートアップガイド9
E-10:INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。	スタートアップガイド9

■ 測定後の表示

警告メッセージ	原因	対策	参照ページ
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。正しく接続されている場合は、このメッセージが表示されても正常に使用できます。	12
W-2:OVER 24m (80ft)	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が24mよりも離れているため、正確に補正できません。	視聴位置の 24m 以内にスピーカーを移動してください。	−
W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。	−
		スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。	12
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。	−
		「SWFR:TOO LOUD」、または「SWFR:TOO LOW」が表示された場合、サブウーファーの音量を調節してください。	−
W-4:CHECK PRNS	「EXTRA SP ASSIGN」が「PRESENCE」に設定されているのに、プレゼンス左／右チャンネル信号が検出されませんでした。	プレゼンス左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	12
		プレゼンススピーカーを使用しない場合は、「EXTRA SP ASSIGN」を「PRESENCE」以外に設定してください。	スタートアップガイド 10

ご注意

- エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、発生している問題を解決してから AUTO SETUP をやり直してください（「スタートアップガイド」9 ページ）。
- 「W-1」、または「W-2」、「W-3」が表示された場合、補正はされますが、最適ではありません。
- 「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場パラメーター、プリセットしたFM ／ AM放送局などをすべて初期設定に戻します。

ご注意

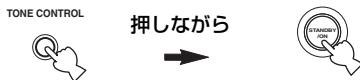
変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

初期化操作を中止するには、フロントパネルのⓀSTANDBY/ONキーを押してください。

1 ⓀSTANDBY/ONキーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 ⓁTONE CONTROLキーを押しながらⓀSTANDBY/ONキーを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにアドバンストセットアップメニューが表示されます。

押しながら

3 ⓂPROGRAMセレクターを回して、「INIT」を選ぶ。

4 ⓁTONE CONTROLキーを繰り返し押して、「ALL」を選ぶ。

初期設定に戻さない場合は、「CANCEL」を選んでください。

5 ⓀSTANDBY/ONキーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

すべての設定が初期設定に戻ります。

用語／技術解説

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の３系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、またはＤ端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すＹ信号と、色を表すＣ信号を１つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ ディープカラー

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の８ビットに対して10／12／16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント左／右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ４チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント３チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド２チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の５チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1／7.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンド左とサラウンド右チャンネルから作られます）。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスクやデジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート6Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の２チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックの技術です。2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード（2チャンネル信号入力時のみ）、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

■ ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、96kHz／24bit時には最大8チャンネル、192kHz／24bit時には最大6チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート18Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

■ リップシンク（Lip sync）

HDMI 1.3がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動的に補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動的に検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の一つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ D端子

AV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5ビデオ端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

■ DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SA-CD（スーパーオーディオCD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数2822.4kHzで記録することにより、CDなどで使われているPCMよりも高音質で再生できます。周波数は100kHz以上、ダイナミックレンジは120dBです。

■ DTS 96／24

DTS 96／24はDVDビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来のDTSデコーダーとも互換性があるため、DTS 96／24に対応していない機器では、通常のDTSサラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の96kHz（従来の48kHzから倍増）、「24」は量子化ビット数24ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVDビデオの音楽や映画音声を5.1チャンネルで楽しむことができます。

■ DTSデジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル（フロント左／右、センター、サラウンド左／右チャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL／Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の２つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

■ DTS Express

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワーク・ストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオ、HD DVDではサブオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

■ DTS-HDハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート6Mbps、HD DVDでは最大3Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

■ DTS-HDマスターオーディオ

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート24.5Mbps、HD DVDでは最大18Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DTS Neo:6

２チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた６チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、１本のケーブルで伝送できます。

■ LFE（低域効果音）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の５チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

■ Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すＣ信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

■ "x.v.Color"

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCGで高い効果が得られます。

音場プログラム解説

■ 音場を構成する要素

直接音

楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

初期反射音

壁や天井などに１回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms（50／1000秒）から80ms（80／1000秒）くらいあとに耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

壁や天井、部屋の後部などに２回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音が一つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3やAACなど、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンド左／右スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド左／右スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント左／右スピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20 ～ 20kHz、0.09% THD）
　フロント左／右 .... 95W + 95W
　センター 95W
　サラウンド左／右......................... 95W + 95W
　サラウンドバック左／右.............. 95W + 95W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント左／右 ....135W + 135W
　センター 135W
　サラウンド左／右.....................135W + 135W
　サラウンドバック左／右.........135W + 135W
ダイナミックパワー（IHF）
　6 ／ 4 ／ 2Ω .... 135 ／ 165 ／ 210W
ダンピングファクター
（20Hz ～ 20kHz、スピーカー A、8Ω）
　フロント左／右 .... 120 以上
入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
　PHONO（MM）.......................3.5mV ／ 47kΩ
　CD 他......................................200mV ／ 47kΩ
　MULTI CH INPUT...............200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz）
　PHONO（MM、0.1% THD）.........60mV 以上
　CD 他（EFFECT ON、0.5% THD）
　.. 2.3V 以上
出力電圧／出力インピーダンス
　REC OUT.............................200mV ／ 1.2kΩ
　PRE OUT...................................... 1V ／ 1.2kΩ
　SUBWOOFER（2ch Stereo、FRONT SP：
　SMALL）.. 1V ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
　CD 他（1kHz、50mV 入力、8Ω）
　..150mV ／ 100Ω
周波数特性
　CD 他（フロント左／右、10Hz ～ 100kHz
　..0 ／－ 3dB
全高調波歪率
　PHONO（MM、REC OUT、20Hz ～ 20kHz、
　1V）... 0.02% 以下
　CD 他（2ch Stereo、フロント SP OUT、
　20Hz ～ 20kHz、50W ／ 8Ω）... 0.06% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　PHONO（MM、2.5mV、REC OUT）
　...80dB 以上
　CD 他（EFFECT OFF、250mV、SP OUT）
　.. 100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント左／右、SP OUT .... 150 μV 以下
チャンネルセパレーション
（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
　PHONO......................60dB 以上／ 55dB 以上
　CD 他（5.1kΩ）.........60dB 以上／ 45dB 以上
音量可変範囲／ステップ
.... MUTE ／－ 80.0dB ～＋ 16.5dB ／
0.5dB ステップ
トーンコントロール特性
　BASS（可変幅）.................... ± 10dB ／ 50Hz
　BASS（ターンオーバー周波数）............ 350Hz
　TREBLE（可変幅）............... ± 10dB ／ 20kHz
　TREBLE（ターンオーバー周波数）.........3.5kHz

ビデオ部

ビデオ信号方式
　グレーバック .... NTSC
　ビデオコンバージョン......................NTSC/PAL
コンポジットビデオ信号レベル..... 1Vp-p ／ 75Ω
S ビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　C ....0.286Vp-p ／ 75Ω
コンポーネントビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　Cb、Cr ....0.7Vp-p ／ 75Ω
D5 ビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　Cb、Cr ....0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力（VIDEO CONV. OFF）
.... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比 ....50dB 以上
モニターアウト周波数帯域（VIDEO CONV. OFF）
　コンポーネントビデオ、D5 ビデオ
　..................................5Hz ～ 100MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数範囲.................76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
　モノ......................................2.8 μV（20.2dBf）
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ ....73dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ ....0.5%／ 0.5%
アンテナ入力.......................... 75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数.......................... 531kHz ～ 1611kHz

総合

電源電圧 .... AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力 300W
待機時消費電力 .... 0.1W 以下
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
.... 合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 435 × 171 × 393mm
質量 11.8kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A

B

C

D

E

F

G

H

I

付録

L

M

N

O

P

R

S

T

U

V

W

X

Y

数字

「Ⓐ**SPEAKERS**」や「④**DVD**」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または 106 ～ 107 ページをご覧ください。

付録

■ フロントパネル

A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
YAMAHA
SPEAKERS
EDIT
SEARCH MODE
BAND
A/B/C/D/E
PRESET/TUNING
MEMORY
INFO
MUTE
SLEEP
VOLUME
SCENE
1
2
3
4
PHONES
SILENT CINEMA
STANDBY
/ON
TONE CONTROL
PROGRAM
STRAIGHT
EFFECT
PURE DIRECT
AUDIO SELECT
INPUT
OPTIMIZER MIC
VIDEO AUX
S VIDEO
VIDEO
L AUDIO R
OPTICAL
K
L
M
N
O
P
Q
R

■ リモコン

CODE SET
TRANSMIT
POWER
TV
POWER
AV
STANDBY
POWER
TUNER
A
B
C
DOCK
V-AUX
CBL
DTV
CD
MD
CD-R
DVD
DVR
VCR
PHONO
TV VOL
TV CH
VOLUME
AMP
SOURCE
TV
TV MUTE
TV INPUT
MUTE
PROG
ENHANCER
SUR. DECODE
STRAIGHT
PURE DIRECT
PARAMETER
MULTI CH IN
AUDIO SEL
SLEEP
ENT
+10
LEVEL
TITLE
BAND
PRESET/CH
SET MENU
MENU
SRCH MODE
ENTER
A/B/C/D/E
RETURN
MEMORY
DISPLAY
REC
SCENE
YAMAHA

付録

■ 入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。下図の1～8の番号は、次ページ表中の番号と対応しています。

ご注意

AUTO SETUP（「スタートアップガイド」9 ページ）、または「SPEAKER SET」（65 ページ）の設定により、音声が出力されるスピーカーは変化します。また、再生するソースによってはスピーカーから音が出ない場合や、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音などに合わせて部分的にしか使われないチャンネルもあります。

表中の「EXTRA SP ASSIGN」は、セットメニュー「SPEAKER SET」のメニューを表しています（65 ページ）。

表中のイラストは以下の内容を示しています。

L： フロント左スピーカー
C： センタースピーカー
R： フロント右スピーカー
PL： プレゼンス左スピーカー
PR： プレゼンス右スピーカー
SL： サラウンド左スピーカー
SR： サラウンド右スピーカー
SBL： サラウンドバック左スピーカー
SBR： サラウンドバック右スピーカー
■： 音が出るスピーカー
□： 音が出ないスピーカー

	スピーカー設置図	
	7 チャンネル構成	5 チャンネル構成
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

表中の「7.1 チャンネル構成」は、スピーカーを 9 本接続している場合を表しています。

音場プログラム	「EXTRA SP ASSIGN」の設定（65 ページ）	入力信号			
		2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 チャンネル音声（EX/PLIIx/ES インジケーター消灯時）	6.1 ／ 7.1 チャンネル音声（EX/PLIIx/ES インジケーター消灯時
CLASSICAL Hall in Munich Hall in Vienna Chamber LIVE/CLUB Cellar Club The Roxy Theatre The Bottom Line	PRESENCE	1	1	2	4
	PRESENCE 以外	1*	1*	7	4
ENTERTAINMENT Sports Action Game Roleplaying Game Music Video MOVIE Standard Spectacle Sci-Fi Adventure Drama	PRESENCE	3	2	2	4
	PRESENCE 以外	7	4	7	4
MOVIE Mono Movie	PRESENCE	3	2	2	4
	PRESENCE 以外	7	7	7	4
STEREO 2ch Stereo	すべて	5	5	5	5
STEREO 7ch Stereo MUSIC ENHANCER 7ch Enhancer	すべて	4	4	4	4
SUR. DECODE Sur. Decoder (Pro Logic) (PLII Movie) (PLII Game)	すべて	6	7	7	4
SUR. DECODE Sur. Decoder (PLII Music)	すべて	8	7	7	4
SUR. DECODE Sur. Decoder (PLIIx Movie) (PLIIx Game) (Neo:6 Cinema)	すべて	6	4	7	4
SUR. DECODE Sur. Decoder (PLIIx Music) (Neo:6 Music)	すべて	8	4	7	4
Straight Pure Direct MUSIC ENHANCER Straight Enhancer	すべて	5	5	7	4

* プレゼンススピーカーからは出力されません。

リモコンコード一覧

テレビ

Byd:sign	21309, 21311, 21485, 21486
Epson	20833, 20840, 21122, 21290
Fujitsu	20179, 20186, 20683, 20809, 20853, 21181, 21607
Funai	20000, 20171, 20179, 20180, 20264, 20342, 21271
Hitachi	20000, 20017, 20036, 20047, 20051, 20054, 20145, 20178, 20179, 21145, 21150, 21245, 21345, 21378, 21445
LG	20030, 20054, 20060, 20178, 20442, 20700, 20856, 21154, 21178, 21265, 21325, 21378, 21423, 21663, 21758
Mitsubishi	20030, 20036, 20093, 20150, 20154, 20160, 20178, 20250, 20836, 20868, 21150, 21171, 21182, 21250, 21392, 21522, 21550
NEC	20030, 20036, 20047, 20156, 20170, 20178, 20474, 20704, 20882, 21398, 21456, 21704, 21797
Orion	20017, 20178, 20179, 20180, 20236, 20463, 21463
Panasonic	20000, 20030, 20051, 20054, 20156, 20161, 20236, 20250, 20650, 20863, 21168, 21175, 21177, 21291, 21310, 21335, 21410, 21480, 21510
Philips	20030, 20037, 20054, 20171, 20186, 20690, 21154, 21254, 21454, 21455, 21483, 21744
Pioneer	20166, 20679, 20866, 21260, 21398, 21457
Samsung	20017, 20030, 20036, 20037, 20047, 20054, 20060, 20154, 20178, 20264, 20587, 20702, 20766, 20812, 20814, 21060, 21312, 21395, 21458
Sanyo	20000, 20036, 20037, 20047, 20054, 20088, 20154, 20171, 20376, 20424, 20463, 20799, 20893, 21142, 21179, 21755
Sharp	20036, 20054, 20093, 20179, 20180, 20256, 20787, 20818, 20851, 21165, 21453, 21459, 21602
Sony	20000, 20017, 20036, 20053, 20150, 20154, 20810, 20834, 20867, 21100, 21167, 21300, 21317, 21651, 21685
Toshiba	20036, 20060, 20145, 20150, 20154, 20156, 20166, 20264, 20509, 20650, 20832, 20845, 21145, 21156, 21164, 21169, 21173, 21256, 21265, 21306, 21325, 21343, 21356, 21369, 21429, 21456, 21524, 21635, 21656, 21704, 21935
Victor	20030, 20036, 20053, 20054, 20160, 20650, 20653, 20731, 21172, 21253, 21302, 21352, 21428, 21774
Yamaha	20030, 20769, 20833, 20839, 21405, 21406, 21407, 21526, 21522

DVD プレーヤー

Denon	40490, 40634, 41282, 41634, 42134
Funai	40675, 41268, 41334
Hitachi	40573, 40664, 41247, 41664, 41764, 41765, 41766
Kenwood	40490, 40534, 40682, 40737
LG	40591, 40741, 40801, 40869, 41526, 41600
Marantz	40503, 40539, 40675, 41627
Mitsubishi	40521, 41403, 41521, 41629
NEC	40785, 40869, 41404
Onkyo	40503, 40627, 40792, 41417, 41418, 41612, 41627, 41769
Orion	41695
Panasonic	40490, 40503, 40571, 40632, 40703, 41010, 41011, 41282, 41362, 41462, 41490, 41632, 41641, 41762
Philips	40503, 40539, 40646, 40671, 40675, 40854, 41260, 41267, 41340, 41354, 41846, 42056, 42084
Pioneer	40142, 40525, 40571, 40631, 40632, 40638, 41460, 41475, 41476, 41512, 41571
Samsung	40199, 40490, 40573, 40744, 40820, 40899, 41044, 41075, 41470, 41599, 42069
Sanyo	40670, 40675, 40695, 40873, 41334, 41583
Sharp	40630, 40675, 40752, 41256, 41556, 41642, 42550
Sony	40533, 40772, 40864, 41033, 41069, 41070, 41431, 41433, 41516, 41533, 41536, 41548, 41633
Toshiba	40503, 40539, 40573, 40695, 41045, 41154, 41503, 41510, 41515, 41588, 41595, 41608, 41639, 41769
Victor	40558, 40623, 40867, 41164, 41241, 41275, 41550, 41590, 41591, 41592, 41594, 41597, 41602
Yamaha	40490, 40497, 40539, 40545, 40817, 41282, 42543, 42544

DVD レコーダー

Denon	50490
Funai	50675, 51334
Hitachi	51664, 51764
LG	50741
Mitsubishi	51403, 51629
Panasonic	50490, 51010, 51011
Philips	50646, 51340
Pioneer	50631, 51460, 51475, 51476, 51512
Samsung	50490
Sanyo	51583
Sharp	50630, 50675, 51556, 51642, 52550
Sony	51033, 51069, 51070, 51431, 51433, 51536
Toshiba	51510, 51588, 51639
Victor	51164, 51275, 51597

ブルーレイ／ HD DVD レコーダー

LG	40741
Onkyo	41769
Panasonic	41641
Philips	42084
Pioneer	40142
Samsung	40199
Sony	41516
Toshiba	41515, 41769

ビデオデッキ／ HDD レコーダー

Funai	30000, 30037, 30072, 30278, 30593, 31333, 31593
Hitachi	30000, 30035, 30037, 30041, 30042, 30045, 30065, 30082, 30089, 30105, 30140, 30166, 30544, 31037, 31286, 31326, 31718
LG	30037, 30038, 30240, 31037, 31137
Mitsubishi	30000, 30041, 30042, 30043, 30047, 30048, 30060, 30061, 30067, 30075, 30173, 30214, 30242, 30443, 30807, 31343, 31631, 31714
NEC	30038, 30040, 30041, 30067, 30082, 30104, 31287, 31288

Orion	30000, 30002, 30036, 30104, 30121, 30184, 30208, 30209, 30240, 30278, 30295, 30479, 31479
Panasonic	30000, 30020, 30035, 30037, 30077, 30081, 30162, 30225, 30226, 30378, 30614, 30616, 31035, 31062, 31162, 31244, 31262, 31292, 31293, 31308, 31317, 31732, 31807, 31808, 31809
Philips	30000, 30034, 30035, 30045, 30048, 30062, 30081, 30110, 30162, 30209, 30616, 30618, 30739, 31081, 31181, 31266, 31381
Pioneer	30042, 30067, 30081, 30162, 31337, 31803
Samsung	30000, 30038, 30045, 30060, 30077, 30240, 30432, 30739, 31014
Sanyo	30000, 30046, 30047, 30104, 30159, 30240, 30479, 31330, 31331
Sharp	30000, 30032, 30047, 30048, 30062, 30065, 30807, 30848, 31285, 31742, 31810, 31893
Sony	30000, 30032, 30033, 30034, 30035, 30046, 30047, 30049, 30067, 30226, 30636, 31032, 31232, 31295, 31296, 31297, 31447, 31448, 31636, 31702, 31972
Toshiba	30000, 30041, 30042, 30043, 30045, 30054, 30062, 30066, 30209, 30210, 30212, 30240, 30544, 30828, 30845, 31008, 31145, 31289, 31290, 31323, 31325, 31739, 31972, 31988, 31996
Victor	30008, 30041, 30061, 30067, 30206, 31162, 31279, 31283, 31299, 31329, 31706
Yamaha	30038, 30041

衛星放送チューナー

Funai	10338, 11377
Hitachi	10214, 10749, 10819, 11250, 11518, 11523, 11525
Humax	11781, 11790
Victor Å© JVC	10492, 10775, 11170, 11507, 11531, 11532, 11775, 11793, 11797
LG	11226, 11414
Mitsubishi	10749
NEC	10496, 11270, 11519
Panasonic	10214, 10247, 10701, 11508, 11526, 11527, 11528
Philips	10099, 10722, 10724, 10749, 10775, 10819, 11076, 11142, 11442, 11749
Pioneer	11142, 11442
Samsung	11108, 11109, 11142, 11276, 11377, 11442, 11609
Sanyo	11182, 11219
Sharp	10494, 11489, 11513, 11517
Sony	10163, 10275, 10294, 10639, 11524, 11639, 11640
Toshiba	10486, 10749, 10790, 11285, 11501, 11516, 11530, 11749

ケーブルテレビチューナー

Fujitsu	11497
Hitachi	10003,10008,10009,10011,10033
Mitsubishi	10003
NEC	11496
Panasonic	10000, 10008, 10107, 10144, 10375, 11488, 11758, 11759, 11760, 11936, 11937, 11938
Philips	10259, 10317, 11305
Pioneer	10144, 10533, 10877, 11021, 11500, 11782, 11877
Samsung	10003, 10040, 10144
Sony	11006, 11460
Toshiba	10000, 11509

CD プレーヤー

Denon	60003, 60034, 60626, 60766, 60873
Funai	60305
Kenwood	60000, 60028, 60029, 60037, 60190, 60626, 60681, 60826, 61683
LG	61208
Luxman	60328, 60489
Marantz	60029, 60038, 60157, 60180, 60373, 60435, 60626
Mitsubishi	60083, 60098, 60808
Onkyo	60101, 60868, 61327, 61685
Panasonic	60029, 60303, 60388, 60752, 61682
Philips	60157, 60274, 60626
Pioneer	60032, 60305, 60468, 61062, 61063, 61087
Samsung	60524
Sanyo	60000, 60087, 60179
Sharp	60034, 60037, 60180, 60861, 61684
Sony	60000, 60100, 60185, 60490, 61364, 61790
Teac	60180, 60362, 60420, 60490
Toshiba	61693, 61694
Victor	60032, 60072, 61294
Yamaha	60036, 60490, 60868, 60888, 61292, 62907, 62909

CD レコーダー

Denon	70626, 70766
Marantz	70626
Pioneer	71062, 71087
Sony	70000, 70100, 71364
Teac	70420
Yamaha	70888, 71292

MD レコーダー

Denon	70873
Kenwood	70681, 70826, 71683
Onkyo	70868, 71685
Panasonic	71682
Pioneer	71063
Sharp	70861, 71684
Sony	70490, 71790
Yamaha	70490, 70888, 72909

カセットデッキ

Denon	70076, 70371, 70412
Kenwood	70070, 70205, 70365
Onkyo	70135, 70282
Panasonic	70229
Pioneer	70027, 70099
Sharp	70205, 70371, 70412
Sony	70170, 70243, 70291
Teac	70308, 70309, 70365
Yamaha	70097, 70205, 70524

LD プレーヤー

Pioneer	40023, 40059, 40241
Sony	40193, 40201
Yamaha	40217

チューナー

Yamaha	82908, 82915

その他の機器

Yamaha（iPod）	82981, 82982, 82983

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?
● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia WN24870

J

DSP-AX863 / DSP-AX763 操作パネル図

イラストに記載されている数字やアルファベットは、取扱説明書中のキーなどに付記されている数字やアルファベットに対応しています。

■ フロントパネル

■ リモコン

YAMAHA CORPORATION
Printed in Malaysia WN26090